

宇土城跡（西岡台）XII

— 史跡整備事業に伴う平成17～20年度(第18～21次)発掘調査報告書 —

2014

熊本県宇土市教育委員会



宇土城跡航空写真（南西より）



横堀跡 S D02調査状況（東より）

巻頭図版 2



道路状遺構 S F 03調査状況（北より）



S D 02から大量に出土した土師質土器

序 文

宇土市周辺地域には、中世に築城された数多くの城跡が残されており、地域の大切な文化遺産として保存・継承されています。なかでも宇土城跡（西岡台）は中世の在地領主だった宇土氏や名和氏の居城として広く知られており、その規模は県下の中世城跡のなかでも最大級を誇ります。

宇土城跡は昭和54年3月に国の史跡に指定され、56年度より保存整備事業を開始しました。現在、第1ブロック（西岡神宮北側地区）と第2ブロック（千畳敷及び周辺地区）の整備を完了し、平成18年度から第3ブロック（三城及び周辺地区）の発掘調査、19年度より同地区の保存整備工事に着手しています。

宇土城跡の曲輪である千畳敷や三城の発掘調査では、多数の掘立柱建物跡や柵列跡、門跡などの城郭関連遺構を検出しました。また、千畳敷を囲む横堀跡が未完成だったことが明らかになりましたが、これは全国各地で実施されている中世城跡の発掘調査でも初めての確認事例として注目を集めました。その他、千畳敷の虎口周辺で石塔を用いた城破り跡を九州で初めて確認するなど極めて重要な成果が得られています。

これらの遺構などから出土した国産の土器・陶磁器や、中国をはじめ朝鮮半島や東南アジアなどからもたらされた陶磁器などは、往時の宇土城のようすを今に伝える貴重な資料として展示会などで広く公開しています。

以上の調査成果を反映し、当時の歴史環境に基づいた整備を行うため、史跡宇土城跡保存整備検討委員会の協議を経て事業を進めています。これまでに掘立柱建物跡の平面・立体表示や城門及び堀跡の復元、城破りに用いられた石塔の野外展示などの遺構整備、トイレや花木広場などの便益・休養施設の整備を実施しました。

最後になりましたが、発掘調査ならびに保存整備工事にあって御指導・御協力いただきました文化庁記念物課ならびに熊本県教育委員会文化課、保存整備検討委員会の先生方をはじめ、関係各位に心より感謝申し上げます。

平成26年3月

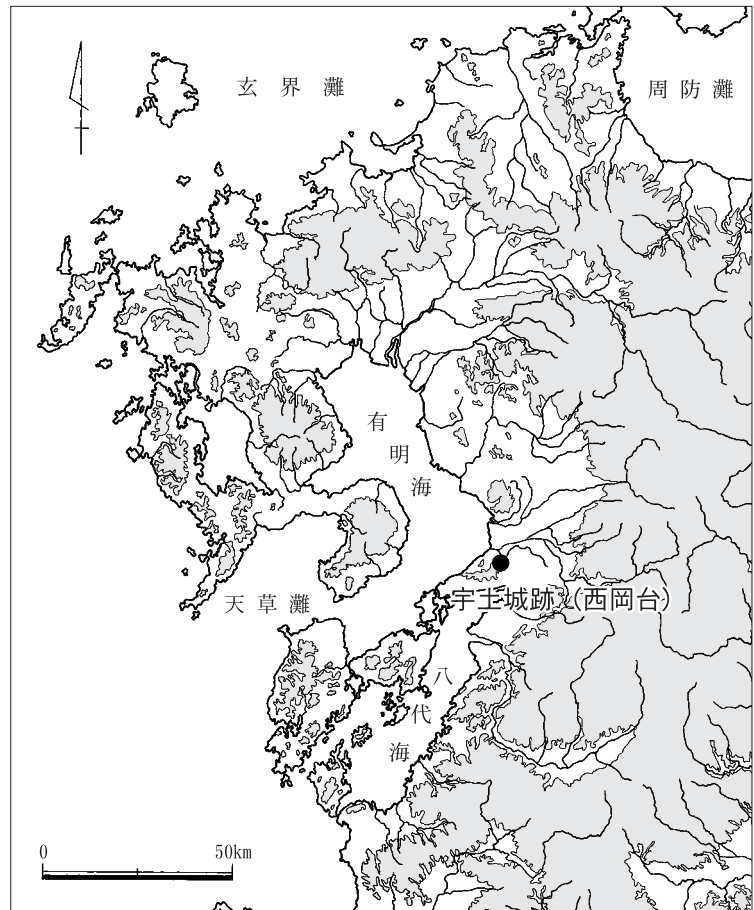
宇土市教育長 木下博信



宇土城跡（西岡台）の位置

左：1/20,000,000

右：1/2,000,000



例 言

- 1 本書は熊本県宇土市神馬町に所在する国指定史跡・宇土城跡（西岡台）平成17～20年度（第18～21次）発掘調査報告書である。当該発掘調査は、史跡宇土城跡保存整備事業（国庫補助事業）に伴い宇土市教育委員会が実施した。
- 2 調査地は宇土市神馬町407・453・579・624・625に所在する。
- 3 発掘調査は藤本貴仁（宇土市教育委員会文化課参事）が担当した。
- 4 発掘調査に伴う遺構実測図は主に藤本が作成し、境美和・清水まい子・春川香子・山口陽子（宇土市教育委員会文化課非常勤職員）がこれを補助した。
- 5 発掘調査時の写真は藤本が撮影し、21次調査における航空写真撮影は株式会社九州航空に委託した。
- 6 遺物実測図作成及び遺構・遺物実測図の製図は、境・春川・山口・芥川博士（宇土市教育委員会文化課技師）が担当し、藤本がこれを補正した。
- 7 出土遺物観察表は藤本が作成した。また、出土した国産及び貿易陶磁器の産地や製作年代などの所見については、大橋康二氏（佐賀県立九州陶磁文化館特別学芸顧問）に御指導いただいた。なお、挿図と図版の遺物番号は対応する。
- 8 本書で用いる平面直角座標は日本測地系を使用し、方位は座標軸（日本測地系）を基準とした北をあらわす。また、レベルは標高を示す。
- 9 遺構の標記は、建物跡：SB、溝跡・横堀跡・縦堀跡：SD、道路状遺構：SF、不明遺構：SXと略表記する。
- 10 本書の執筆・編集は藤本が担当した。
- 11 掲載遺物・関連資料は、宇土市教育委員会（宇土市新小路町95）に収蔵・保管している。

本文目次

第1章 序章	1
第1節 調査に至る経緯と経過	1
第2節 調査の組織	2
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 宇土城跡に関する歴史	5
第3節 縄張りとは発掘調査について	10
第3章 平成17年度（第18次）発掘調査	15
第1節 調査の概要	15
第2節 検出遺構	16
第3節 出土遺物	20
第4章 平成18年度（第19次）発掘調査	41
第1節 調査の概要	41
第2節 検出遺構	43
第3節 出土遺物	45
第5章 平成19年度（第20次）発掘調査	51
第1節 調査の概要	51
第2節 調査区の概要	53
第3節 出土遺物	54
第6章 平成20年度（第21次）発掘調査	59
第1節 調査の概要	59
第2節 検出遺構	60
第3節 出土遺物	64
第7章 まとめ	67

挿図目次

図1 宇土城跡で初めて開催した「体験発掘」(熊本日日新聞)	2	図15 SD02出土遺物3(1/3)	23
図2 宇土半島から同基部にかけての中・近世城跡分布図(1/100,000)	6	図16 SD02出土遺物4(1/3, 1/10)	24
図3 宇土半島基部の中世城跡縄張り図(1/5,000)	8	図17 SD02出土遺物5(1/10)	25
図4 宇土半島の中世城跡縄張り図1(1/5,000)	9	図18 SD02(SX01)出土遺物1(1/3)	26
図5 宇土半島の中世城跡縄張り図2(1/5,000)	10	図19 SD02(SX01)出土遺物2(1/3)	27
図6 宇土城跡縄張り図(1/3,000)	11	図20 SD02(SX01)出土遺物3(1/3)	28
図7 千畳敷周辺検出遺構集成図(1/1,000)	12	図21 SD02(SX01)出土遺物4・SD03出土遺物(1/3)	29
図8 三城周辺検出遺構集成図(1/1,000)	13	図22 18次調査遺構外出土遺物(1/3)	30
図9 18次調査区配置図(1/1,000)	15	図23 19次調査区配置図(1/1,000)	42
図10 T1801遺構配置図及び西壁土層断面図(1/60)	17	図24 T1901遺構配置図(1/100)	42
図11 T1802遺構配置図及び西壁土層断面図(1/60)	18	図25 T1902遺構配置図及び土層断面図(1/60)	44
図12 T1803遺構配置図及び土層断面図(1/60)	19	図26 T1903遺構配置図及び土層断面図(1/60)	45
図13 SD02出土遺物1(1/3)	21	図27 T1904遺構配置図及び土層断面図(1/60)	46
図14 SD02出土遺物2(1/3)	22	図28 T1905遺構配置図及び土層断面図(1/60)	46
		図29 T1906遺構配置図及び土層断面図(1/60)	47
		図30 T1907遺構配置図及び土層断面図(1/60)	47

図31	19次調査出土遺物(1/3) ……………47	図35	20次調査出土遺物(1/3) ……………54
図32	20次調査区配置図(1/1,000) ……………51	図36	21次調査区配置図(1/1,000) ……………59
図33	T2001遺構配置図及び土層断面図(1/60, 1/100) ……………52	図37	21次調査遺構配置図(1/150) ……………61
図34	T2002遺構配置図及び土層断面図(1/60, 1/100) ……………53	図38	21次調査区土層断面図(1/80) ……………62
		図39	21次調査出土遺物(1/3) ……………64
		図40	21次調査区掘立柱建物跡変遷図……………68

表 目 次

表 1	宇土城跡(西岡台)発掘調査の経過…………… 3	表 4	19次調査出土遺物観察表……………49
表 2	宇土半島から同基部における主な中世城跡…… 7	表 5	20次調査出土遺物観察表……………56
表 3	18次調査出土遺物観察表……………31	表 6	21次調査出土遺物観察表……………65

図版目次

巻頭図版 1	宇土城跡航空写真(南西より) 横堀跡S D 02調査状況(東より)	図版 11	T 1903調査前状況(南より) T 1903調査状況(西より) T 1904～T 1906調査前状況(南西より) T 1904溝跡S D 07調査状況(東より) T 1904調査状況(南より)
巻頭図版 2	道路状遺構S F 03調査状況(北より) S D 02から大量に出土した土師質土器	図版 12	T 1905溝跡S D 07調査状況(南より) T 1906遺構検出状況(北より) T 1906溝跡S D 07調査状況(北より) T 1906溝跡S D 07土層断面(東より) 遺構出土遺物(S F 03・S D 07) 19次調査遺構外出土遺物
図版 1	T 1801調査前状況(南より) T 1801竪堀跡S D 03調査状況(南より) T 1801遺構検出状況(南より)	図版 13	T 2001・T 2002調査前状況(北西より) T 2001遺構検出状況(北西より) T 2001遺構検出状況(南西より)
図版 2	T 1802調査前状況(南より) T 1802竪堀跡S D 03調査状況(南東より) T 1802古墳時代壕跡S D 01検出状況及びS D 03調 査状況(北より)	図版 14	T 2001遺構検出状況(西より) T 2002調査前状況(北東より) T 2002遺構検出状況(東より)
図版 3	T 1803調査前状況(南より) T 1803遺構検出状況(南より) T 1803横堀跡S D 02調査状況(東より)	図版 15	20次調査遺構外出土遺物
図版 4	T 1803S D 02土層断面(東より) T 1803S D 02底面検出の不明遺構S X 01(南より)	図版 16	21次調査三城周辺航空写真(南東より) 21次調査区航空写真(上が東)
図版 5	S D 02出土遺物 1	図版 17	21次調査区遺構検出状況(北より) 21次調査区遺構検出状況(南より)
図版 6	S D 02出土遺物 2	図版 18	21次調査遺構外出土遺物
図版 7	S D 02(S X 01)出土遺物 1		
図版 8	S D 02(S X 01)・S D 03出土遺物 18次調査遺構外出土遺物		
図版 9	T 1901調査前状況(東より) T 1901遺構検出状況(東より) T 1902調査前状況(北西より) T 1902道路状遺構S F 03検出状況(北より)		
図版 10	T 1902調査状況(東より) 道路状遺構S F 03調査状況(南より)		

第1章 序 章

第1節 調査に至る経緯と経過

昭和49（1974）年1月、宇土市立鶴城中学校の改築移転計画に伴い、その移転用地として宇土城跡¹⁾の所在する独立丘陵（通称：西岡台）をあてることが市関係機関の協議で決定した。当地は「宇土城跡（西岡）」として昭和47年12月23日に市の史跡に指定されていたため、宇土市教育委員会が主体となり49年3月から51年3月まで発掘調査を実施した。

調査の結果、古墳時代前期の首長居館を囲む大規模な壕跡、主郭・千畳敷を圍繞する横堀跡や掘立柱建物跡をはじめとする数多くの遺構を検出し、古墳時代や中世を中心とする多量の遺物が出土した。これを受けて遺跡保存の気運が高まった結果、宇土城跡は恒久的に保存されることとなり、中学校移転計画は中止されて史跡公園として保存する方針が打ち出された。

昭和54（1979）年3月12日の官報告示により、宇土城跡は国史跡に指定され、56年度には保存整備の基本計画である『史跡宇土城跡環境整備計画』を策定し、同年度より保存整備工事に着手した。

本計画では、宇土城跡を第1～5ブロックに地区割し、ブロックごとに遺構表示や休憩施設などの整備方針をまとめた。第1ブロック（西岡神宮北側地区）²⁾では、掘立柱建物跡の遺構表示やベンチ設置（昭和57年度）、東屋建設（58年度）などを行い、平成元年度におおむね整備工事が完了した。

第2ブロック（千畳敷及び周辺地区）の保存整備に関しては、平成元年度より着手したが、その動きが本格化したのは9年度からである。同年度には、学識経験者や文化庁、県文化課担当職員などで構成される史跡宇土城跡保存整備検討委員会（以下、委員会）が発足し、委員会の指導・助言のもと、宇土城跡の調査成果や歴史的背景、歴史公園としての位置付けを考慮した整備を現在まで進めている。

また、第2ブロックの整備にあたり、『史跡宇土城跡環境整備計画』の内容を見直す必要が生じたため、委員会で協議を重ね、平成10年度に主として第2ブロックの整備方針を定めた『史跡宇土城跡保存整備基本計画書』を策定した。

第2ブロックの主な整備施設を列举すれば、千畳敷を圍繞する横堀の復元（9・10・13・15・17年度）、16・17号建物跡の遺構表示（11年度）、東屋として休憩施設を兼ねた19号建物跡の整備（12年度）、トイレ建設（14年度）、案内サインの設置（15年度）、城門や柵の復元整備（17年度）などで、17年度に同地区の整備をおおむね完了した。

また、平成19年度からは第3ブロック（三城及び周辺地区）の保存整備工事に着手するとともに、委員会の指導・助言のもと、20年度には第3ブロック（三城及び周辺地区）を中心とする基本計画書を策定した。第3ブロックについては、北側や南側に民家が近接することから、当初の3ヵ年度は雨水排水処理などの防災的な工事を優先的に実施した。22年度より三城において遺構表示などの整備工事を開始し、掘立柱建物跡（22・23年度）、土塁跡（推定）や導水状遺構（23年度）などの遺構の整備工事を実施したほか、解説サインの設置や植栽（張芝）を行っている。なお、第4・5ブロックの整備は、平成26年度以降の長期計画に位置づけられており、現在、具体的な整備手法について検討中である。

このような史跡整備を目的として発掘調査を開始したのは、平成2年度に千畳敷で実施した第4次調査からである。現在までほぼ毎年調査を行っており、千畳敷において多数の掘立柱建物跡を検出したほか、虎口や城門跡、横堀跡、竪堀跡の発掘調査を実施した。これらの調査によって、千畳敷の横堀跡が

未完成であることや、虎口周辺部で石塔を用いた城破り跡を確認するなど注目すべき成果が得られている。その内容については、報道機関への発表や現地説明会の開催、発掘調査報告書の刊行、宇土市立図書館郷土資料室における出土品の展示などを通じて一般に公開している。なお、平成18年度より保存整備に伴う発掘調査時に体験発掘を実施しており、24年度には宇土城跡を散策しながら歴史や発掘調査の成果などを紹介する「西岡台キャッスルウォーキング」を行い、宇土城跡を広く周知する取組もあわせて展開している（図1）。

本書は、これまで実施した計26次にわたる発掘調査（平成25年度現在）のうち、史跡宇土城跡保存修理事業に伴い平成17～20年度に実施した第18～21次発掘調査の報告書である。

第2節 調査の組織（敬称略、役職名・課名は当時）

－第18～21次発掘調査－（平成17～20年度）

調査主体 宇土市教育委員会

調査責任者 根本忠昭（宇土市教育長：17～19年度）、木下博信（同：19・20年度）

調査事務局 教育部長 吉永栄二（17年度）、宮田嗣友（18・19年度）、山内清人（20年度）

文化振興課長 高木恭二（17～20年度）

文化財係 船田貞明（課長補佐兼係長：17・18年度）、松下敏親（同：19・20年度）、松田安代（参事：17年度）、宮田尚子（同：17・18年度）、春木咲子（同：18・19年度）、村田嘉奈子（同：19・20年度）、藤本貴仁（技師：17年度、参事：18～20年度 ※調査担当）、村上淳子（主事：18～20年度）

発掘調査作業員

境美和・清水まい子・春川香子・林和美・森川美和子・山口陽子（文化課非常勤職員）、田中國義・中川道治・平野護・本田栄子・村山艶子・橋本チエ子・小畑律子・古山節子・福田フミエ・山田敏江・石上春代・奥村美栄子・吉永信彦・林田高喜・緒方止・林田共榮・平尾亀雄・中林邦久・松本征夫・坂本勝也・氏家一人・伊藤宏昭・安達求（社団法人宇土市シルバー人材センター）

－整理作業・報告書作成－（整理作業：平成20・21・25年度、報告書作成：25年度）

宇土市神馬町の国指定史跡・中世宇土城跡（通称・西岡台）で二十四日、埋蔵土器などの発掘体験があった。同市教委が「地域の歴史に興味を持ってもらおう」と初めて企画した。

同城は十一世紀中ごろから十六世紀末まで使われ、戦国時代は宇土氏や名和氏が居城とした。面積は約十平方メートル。うち約三万五千平方メートルを公園として整備する工事が今春、完了した。

発掘には親子連れなど二十人が参加。同市教委の藤本貴仁さんが、土器などが埋まっている土の層の色を示し、「一九所を深く掘るのではなく、広い範囲を少しずつ掘ってほしい」と説明した。

参加者らは手ぐわや移植こてを使い、同城西側の「三城（さんじょう）」と呼ばれる一帯で作業。中国青磁や素焼きの土器のかげらなど百二十五点を発掘した。

青磁のかげらを見つけた宇土小五年の熊裕矢君（こ）は「歴史を感じる」とがで、面白い」と話していた。（森本修代）

発掘って面白い

中世宇土城跡で親子ら体験



中世宇土城跡で陶磁器などを発掘する参加者ら＝宇土市

図1 宇土城跡で初めて開催した「体験発掘」（熊本日日新聞、平成18年〔2006年〕9月25日付）

表1 宇土城跡（西岡台）発掘調査の経過（アミ部分は今回報告）

年度	次数	調査地点	主な検出遺構	特記事項
昭和49・50年度	1次	千畳敷周辺、三城周辺ほか	壕跡（古墳時代）、横堀跡・溝跡・掘立柱建物跡・柵跡・門跡・土坑墓・道路状遺構（中世）	市立鶴城中学校移転計画に伴う発掘調査。古墳時代の首長居館と中世城跡の重複を確認。古墳時代首長居館の確認は全国で2番目。調査成果を受けて中学校の移転中止。
51年度				『宇土城跡（西岡台）』本文編・史料編刊行。
62年度	2次	三城周辺	柵跡・溝跡（中世）	遺跡状況把握のための発掘調査。『宇土城跡（西岡台）』Ⅱ刊行。
63年度	3次	三城周辺	掘立柱建物跡（中世）	遺跡状況把握のための発掘調査。
平成2年度	4次	千畳敷北東側、同東側登道	掘立柱建物跡・溝跡（中世）	保存整備に伴う発掘調査開始。以後継続する7次までの千畳敷の調査で、重複する多数の掘立柱建物跡を検出。
3年度	5次	千畳敷南側	掘立柱建物跡・虎口跡（中世）	千畳敷において、平面プラン「Lの字形」の切通し状を呈する虎口を確認。
4年度	6次	千畳敷北西側、同南西側帯曲輪	壕跡（古墳時代）、掘立柱建物跡（中世）	
5年度	7次	千畳敷西側、同東側及び北側帯曲輪	横堀跡・溝跡（中世）	虎口前面の横堀跡から大量の石塔残欠出土。
6年度	8次	千畳敷東側、同西側及び東側帯曲輪	虎口跡	
9年度	9次	千畳敷南側平場、同西側帯曲輪	壕跡（古墳時代）、堀跡（中世）	千畳敷及び周辺地区の遺構表示開始。
10年度	10次	千畳敷北側帯曲輪	横堀跡・開渠状遺構・竪堀跡（中世）	千畳敷北側横堀跡で小間割（掘削単位）確認。掘削途中で中止されたことが遺構の状況や埋土の堆積状況から判明。掘削途中の中世城の堀跡が確認されたのは全国初。宇土城跡で初めて鉄砲玉出土。竪堀跡を初めて検出。
11年度	11次	千畳敷東側帯曲輪	横堀跡・竪堀跡（中世）	大規模な竪堀跡を検出。『宇土城跡（西岡台）』Ⅲ刊行。
12年度	12次	千畳敷東側帯曲輪	竪堀跡・虎口跡・門跡（中世）	千畳敷の切通状虎口の路面は、地山掘削面をそのまま路面とするⅠ期と盛土整地上面とするⅡ期の2時期存在ことが判明。Ⅱ期に伴う門跡を確認。『宇土城跡（西岡台）』Ⅳ刊行。
13年度	13次	三城南側平場	溝跡（近世以降？）	史跡指定地に隣接する個人住宅建設に伴う発掘調査。
	14次	千畳敷北東側、同南東側帯曲輪	壕跡・方形張出し（古墳時代）、横堀跡（中世）	虎口前面の堀から多量の石塔残欠出土。これを意図的に地山土を多量に含んだ土砂で虎口周辺の堀を埋めていることが判明。5・12次調査の成果をあわせ、虎口周辺で行われた城破りと考えられる。石塔を用いた城破りを九州では初めて確認。また、1次調査で確認された千畳敷南西側の張出しと同規模・同形態の張出しを同南東側で確認。『宇土城跡（西岡台）』Ⅴ刊行。
14年度	15次	千畳敷北東側、同南側帯曲輪	壕跡（古墳時代）・竪堀跡（中世）	古墳時代の首長居館の規模をほぼ確定。千畳敷北東側の竪堀跡が丘陵裾部まで延びる可能性高まる。『宇土城跡（西岡台）』Ⅵ刊行。
15年度	16次	千畳敷北側、同南東側、南西側帯曲輪	竪堀跡・横堀跡（外堀）（中世）	10次調査で検出した竪堀は千畳敷北側に向かって延びることが判明。同北東側の竪堀の規模・深さをトレンチ調査で確認。『宇土城跡（西岡台）』Ⅶ刊行。
16年度	17次	千畳敷北西側帯曲輪	竪堀跡（中世）	千畳敷北西側帯曲輪で大規模な竪堀跡を検出。『宇土城跡（西岡台）』Ⅷ刊行。
17年度	18次	千畳敷南側平場、同東側帯曲輪	横堀跡・竪堀跡（中世）	千畳敷東側で竪堀跡を検出。
18年度	19次	三城南側帯曲輪、同南東側帯曲輪	道路状遺構・溝跡（中世）	三城南側帯曲輪で側溝を伴う道路状遺構、同東側で三城から段下の帯曲輪へ続く溝跡を検出。『宇土城跡（西岡台）』Ⅸ刊行。
19年度	20次	三城南西側帯曲輪	ピット（中世）	
20年度	21次	三城東側帯曲輪	掘立柱建物跡（中世）	三城東側に隣接する帯曲輪で掘立柱建物跡を検出。『宇土城跡（西岡台）』Ⅹ刊行。
21年度	22次	三城北側帯曲輪	土坑（中世？）	
22年度	23次	三城北西側帯曲輪	ピット（中世？）	21～23次調査の結果、三城直下の帯曲輪は東側が遺構密度が高く、西側に向かって希薄になることが判明。
23年度	24次	三城東側帯曲輪	堀状遺構（中世）	北東方向に延びる堀状遺構を検出。『宇土城跡（西岡台）』Ⅺ刊行。
24年度	25次	三城南東側帯曲輪	道路状遺構・柵列跡（中世）	1次・19次調査で検出した道路状遺構を確認。『国指定史跡宇土城跡（西岡台）』－第2ブロック（千畳敷及び周辺地区）保存整備工事報告書－を刊行。
25年度	26次	「カラホリ」南端部	横堀跡（中世）	「カラホリ」と呼称される城跡西側の大規模な横堀跡の調査に着手。『宇土城跡（西岡台）』Ⅻ刊行。

責 任 者 教 育 長 木下博信 (20・21・25年度)
事 務 局 教育部長 山内清人 (20・21年度), 山本桂樹 (25年度)
文化(振興)課長 高木恭二 (20・21年度), 木下洋介 (25年度)
文化(財)係 松下敏親 (課長補佐兼係長: 20・21年度), 赤澤憲治 (係長: 25年度),
村田嘉奈子 (参事: 20年度), 藤本貴仁 (同: 20・25年度 ※整理作
業・報告書作成担当), 村上淳子 (主事: 20・21年度), 宮崎幸樹 (主
事: 21年度), 宮邊幸子・九谷景子 (参事: 25年度), 芥川博士 (技師:
25年度)

整理・報告書作成作業員

境美和・士野雄貴・春川香子・山口陽子 (文化課非常勤職員)

— 史跡宇土城跡保存整備検討委員会 — (平成17～20年度)

北野隆 (委員長, 熊本大学工学部), 服部英雄 (九州大学大学院比較社会文化研究科), 千田嘉博 (国立歴史民俗博物館考古研究部, 奈良大学文学部文化財学科), 稲葉継陽 (熊本大学大学院社会文化科学研究科)

— 調査指導及び協力者 —

村田修三 (大阪大学名誉教授), 市原富士夫・白崎恵介・青木達司 (文化庁記念物課), 大橋康二 (佐賀県立九州陶磁文化館), 帆足俊文・丸山伸治・岡本真也・坂井田端志郎・能登原孝道・木庭真由子・福田匡朗 (熊本県教育委員会), 鶴嶋俊彦 (熊本県人吉市教育委員会), 中山圭 (天草市教育委員会), 濱口俊夫・吉田恒・根本なつめ・辻誠也・佐藤伸二 (宇土市文化財保護審議会)

註

- 1) 西岡台の東約500mには, キリシタン大名・小西行長が築城した近世宇土城跡 (城山) が所在していることから, 通常, 中世の宇土城跡は「宇土城跡 (西岡台)」や「宇土古城」などと呼ばれている。本書では特別のことわりが無い限り, 「宇土城跡」とは「中世の宇土城跡」を指すものとする。
- 2) 『史跡宇土城跡環境整備計画』では, 第1～5ブロックそれぞれにおいて具体的な地区名称を設定していなかったが, 平成10年度策定『史跡宇土城跡保存整備基本計画書』において, ブロックごとに地区名称を付したことから, 本書ではカッコ書きで当該名称を示すこととする。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境 (図2)

熊本県宇土市は、県西側沿岸部のほぼ中央から西に向かって突出する宇土半島の北側から基部にかけて位置する。市域は東西約24.8km、南北約7.6km、面積約74.19km²である。

宇土半島は北に有明海、南に八代海と面し、半島先端には天草諸島が連なる。半島内は山がちで、平地の割合は少ない。半島を構成する山地は、半島中央部に位置する主峰の大岳(477.6m)を中心とする大岳火山系山地と半島先端部の三角岳火山系山地とに分けられる。また、半島基部には若干の平地を挟んで木原山(雁回山, 314.4m)が存在する。宇土城跡周辺の基盤となる地質は、安山岩類や凝灰角礫岩などの大岳由来の火山岩類が主である。

市の北側には、熊本県三大河川の一つである緑川と、その支流である浜戸川が東西に流れており、下流域には沖積平野が広がっている。東西から迫る山塊によって平野が狭まり、南の八代平野に抜ける道が限られることや緑川の河口に近いことなどから、宇土半島基部は古来より陸上・海上ともに交通の要衝であった。

宇土城跡は、この沖積平野南西側の通称「西岡台」と呼ばれる独立丘陵(標高約40m、東西約750m、南北約400m)を利用して築かれている。周辺には、縄文時代から歴史時代まで数多くの遺跡が分布しているが、これらについては、これまで刊行した宇土城跡に関する調査報告書でふれていることから、今回は割愛する。

第2節 宇土城跡に関する歴史 (図2～5, 表2)

宇土城跡は中世宇土に拠点を置いた在地領主の宇土氏・名和氏の居城である。「三宮社記録」によれば、永正3(1048)年に築城され、以後、菊池氏の一族が相次いで宇土城にいるとの伝承があるが、それを具体的に証明する同時代の文献や考古学的根拠は残されていない。一方、廃絶時期は小西行長が宇土城主になった翌年、近世宇土城跡(城山)の工事に着手した天正17(1589)年から関ヶ原の戦いで敗死した慶長5(1600)年の間と推察され、発掘調査で出土した陶磁器の年代もほぼ対応している。

宇土氏は守護菊池氏の一族とされる在地領主で、宇土を本拠として宇土郡一帯を知行しており、宇土庄の根本領主ないし庄官に出自を持つと考えられる。宇土氏が史料上に初めて現れるのは、元徳2(1330)年6月5日の鎮西下知状で、宇土高俊が登場する。高俊は宇土庄を本拠とし、正平3(1348)年、征西將軍懐良親王を宇土津に迎え入れており、南朝方として活動した人物であった。明和元(1390)年から翌年にかけて、九州探題の今川了俊は、肥後国南部の南朝方勢力に総攻撃をかけ、宇土城は了俊の攻撃によって落城したが、宇土氏自身は了俊に降参し、それによって本領の宇土を安堵された。

南北朝の合一後も引き続き本拠を維持したとみられるが、高俊以後、宇土氏に関する文献資料は宇土為光が登場する文明4(1472)年まで途絶え、その間の系譜については明らかではない。為光は菊池氏全盛期の肥後・筑後守護であった菊池持朝の子で、宇土忠豊の養子となって宇土氏の家督を継承した人物である。文亀元(1501)年の菊池氏直轄領家臣団の内紛に伴って失脚した菊池能運に変わり、為光は3年にわたり守護の地位にあったが、文亀3(1503)年、相良氏や阿蘇氏らの協力を得た能運は、為光とその子重光、嫡孫の宮満丸を殺害、これによって宇土氏は滅亡し、能運は肥後国守護として復活した



図2 宇土半島から同基部にかけての中・近世城跡分布図 (1/100,000)

のである。

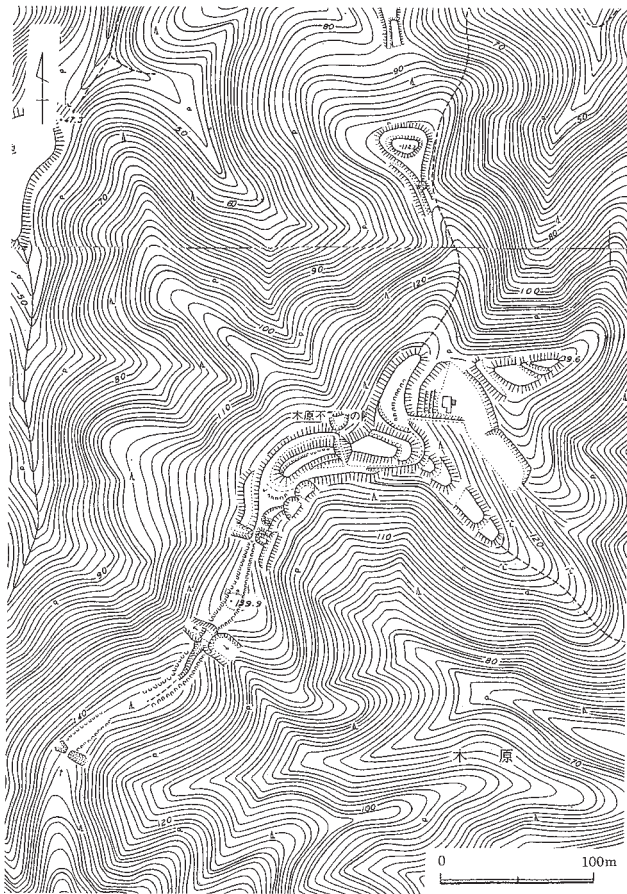
一方、名和氏は代々伯耆国長田邑（鳥取県西部）を領した有力武家である。名和氏と肥後国との関わりは、鎌倉幕府滅亡の際の勲功の賞として、名和義高へ八代庄が与えられたことに始まるが、名和氏の一族が本国での劣勢を背景に八代に移住するのは1350年代末頃である。正平13（延文3、1358）年には、義高の甥である名和顕興（名和長年の孫）は、この地に一族を伴って移ったとされ、南朝方として活動した。以後、八代を中心として南北に勢力をおよぼしたが、文亀4（1504）年、名和顕忠は本拠地である古麓城（八代市古麓町）を菊池氏や相良氏によって追われ、宇土と至近距離にある守富庄の木原城（熊本市南区富合町）に移り、その後、宇土氏滅亡後の宇土城に入った。顕忠が宇土城に入ることができた背景には、直前まで宇土を支配していた宇土為光の娘婿であった顕忠が、領主を失った宇土の土豪や領民に受け入れられやすい存在であったとみられている。

名和氏が宇土城に入った後も相良氏との間に争いは絶えず、相良領と名和領の境目である豊福領（宇城市松橋町）をめぐる幾度となく争ったことが、相良氏八代支配時代の記録史料である『八代日記』から知ることができる。豊福領の帰属は、長享元（1487）年から永禄8（1565）年まで、80年足らずの間に名和氏と相良氏との間で9回も入れ替わっており、その攻防の激しさがうかがえる。豊福の位置は、名和氏の宇土、阿蘇氏の益城、相良氏の八代と3つの郡の境目に位置し、また甲佐と宇土半島を結ぶ道と八代から隈本へ向かう薩摩街道とが交錯する場所でもあり、軍事・交通の要所だったことがその争いの背景とみられる。

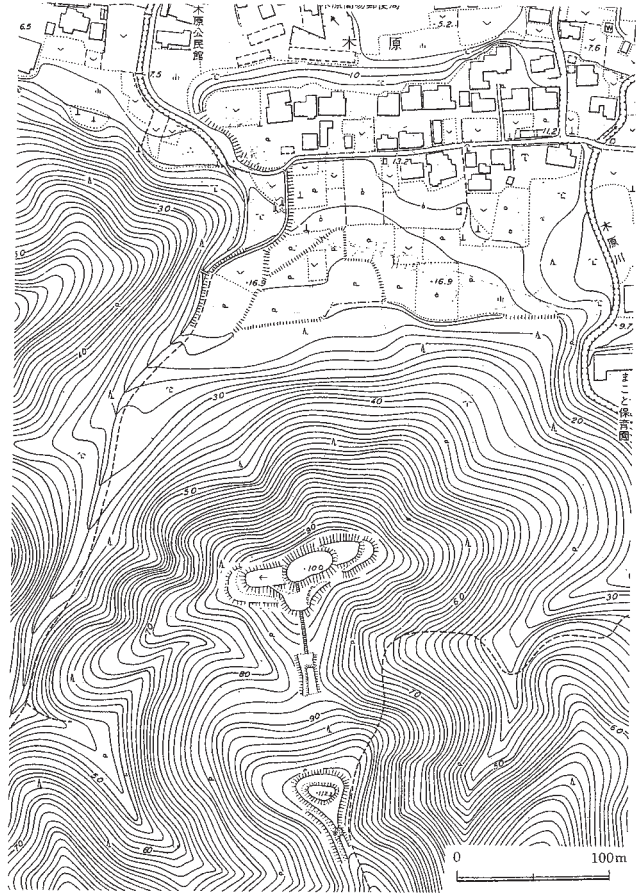
また、『八代日記』によれば、長く阿蘇氏の所領となっていた宇土半島郡浦庄に位置する網田（宇土市）と郡浦（宇城市三角町）の領有権が、天文19（1550）年に阿蘇惟忠から名和行興に割譲されるなどしたが、基本的には本地域は戦国末期まで阿蘇大宮司の支配が継続していた。

表2 宇土半島から同基部における主な中世城跡

名称	所在地	標高(m)	主郭規模(m) (長軸×短軸)	主な遺構	出土遺物	備考
阿高城跡	熊本市南区城南町	88	95×16	堀切・堅堀・土橋・溝状遺構・集積遺構	土師器皿	1995年、旧城南町教委による発掘調査。
木原城跡	熊本市南区富合町	140	30×13	帯曲輪・堅堀・土橋	青磁・播鉢（瓦質土器?）	主郭西側に幅10m、南北38mの曲輪。主郭北側の「小城」にも東西32m、南北14mの曲輪。
高城跡	宇土市松山町	95	14×10	帯曲輪・土塁・堅堀	-	「コタカジョウ」と呼ばれる尾根西側に畝状堅堀群とみられる連続する堅堀。
宇土城跡 (西岡台)	宇土市神馬町	39	65×50	横堀・堅堀・掘立柱建物跡・門跡・土橋・柵列・道路状遺構	土師質土器、瓦質土器、中国製陶磁器(青磁・染付など)	主郭「千畳敷」西側に東西65m、南北35mの曲輪「三城」が位置。その西側に「カラホリ」と呼ばれる大規模な横堀。
白山城跡	宇土市神合町	218	60×40	帯曲輪・堀切・土橋	-	城跡南東麓の神山地区に、白山神社(名和行興建立)と光園寺跡毘沙門堂が位置。
田平城跡 (網田城跡)	宇土市上網田町	20	210×105	横堀・土塁・堀切・土橋	瓦質土器(播鉢・火鉢)、中国製染付、丸形弾丸石製鋳型	古墳(城1・2号墳)を土塁として利用。
大岳城跡	宇土市上網田町	477	-	土塁状遺構・帯曲輪状遺構	-	宇土半島最高峰の大岳頂上に位置。頂上部に東西95m、南北40mの緩斜面有り。
雄岳城跡	宇土市下網田町	348	47×17	堅堀・帯曲輪	-	下網田町雄嶽の通称「ジョウビラ」に位置。
矢崎城跡	宇城市三角町	23	80×50	帯曲輪・堀切	-	城地西側の浦は「船津」地名が残る。
群浦城跡	宇城市三角町	79	70×22	帯曲輪・横堀・土塁	-	主郭南西部先端にも連続した横堀が存在した可能性が高い。



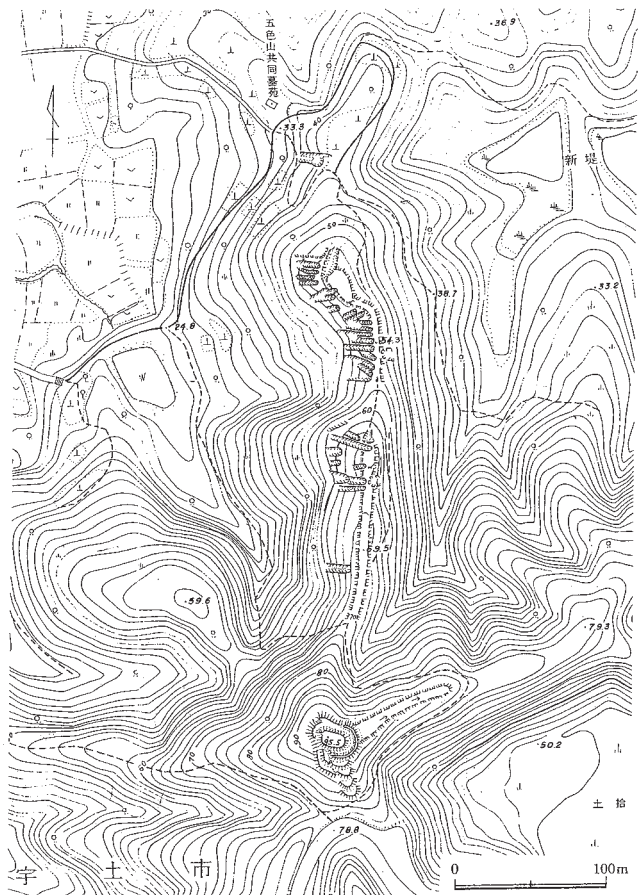
木原城跡縄張り図 (主郭部分)



木原城跡縄張り図 (小城部分)



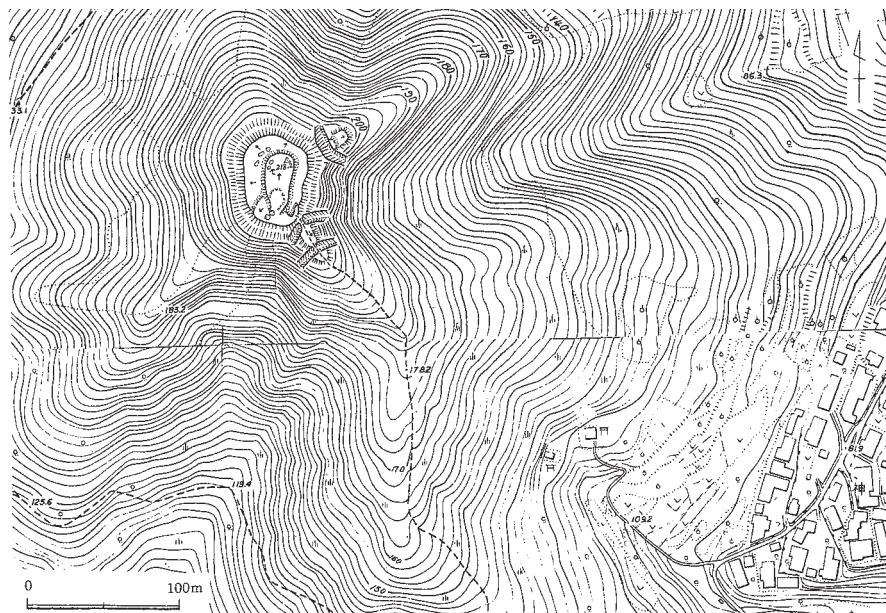
阿高城跡縄張り図



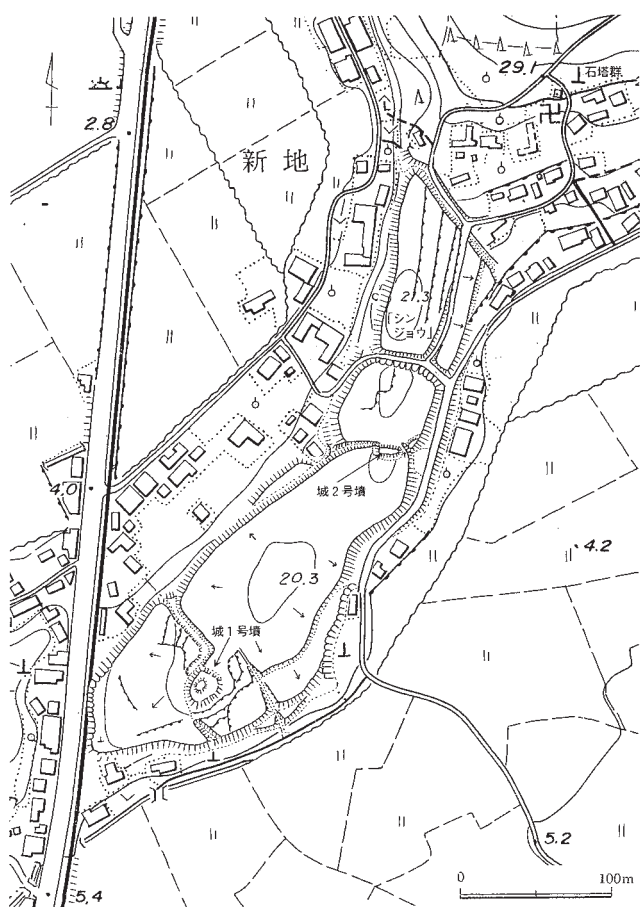
高城跡縄張り図

図3 宇土半島基部の中世城跡縄張り図 (1/5,000, 作図: 鶴嶋俊彦氏)

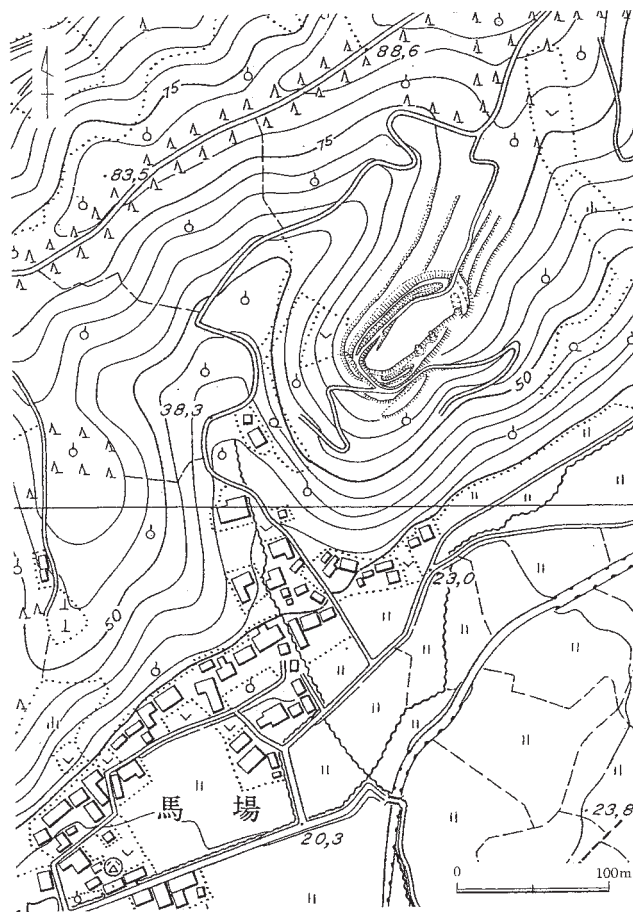
名和氏に関する文献史料や石塔の銘文などが示すその領域支配は、郡浦庄を除く宇土郡，益城郡や八代郡の一部地域（木原や豊福）に限られていたといえよう。これらの地域には，名和氏時代に存在したとみられる網田城（田平城，宇土市上網田町）・阿高城（熊本市南区城南町）・矢崎城（宇城市三角町）



白山城跡縄張り図



網田城跡縄張り図



郡浦城跡縄張り図

図4 宇土半島の中世城跡縄張り図1 (1/5,000, 作図: 鶴嶋俊彦氏)

などの中世城跡が残されている。

天正15（1587）年、豊臣秀吉の九州平定によって名和顕孝は宇土城を開城した。その後、顕孝は筑前小早川隆景のもとに替地を命じられ、肥後との関係が断たれた。

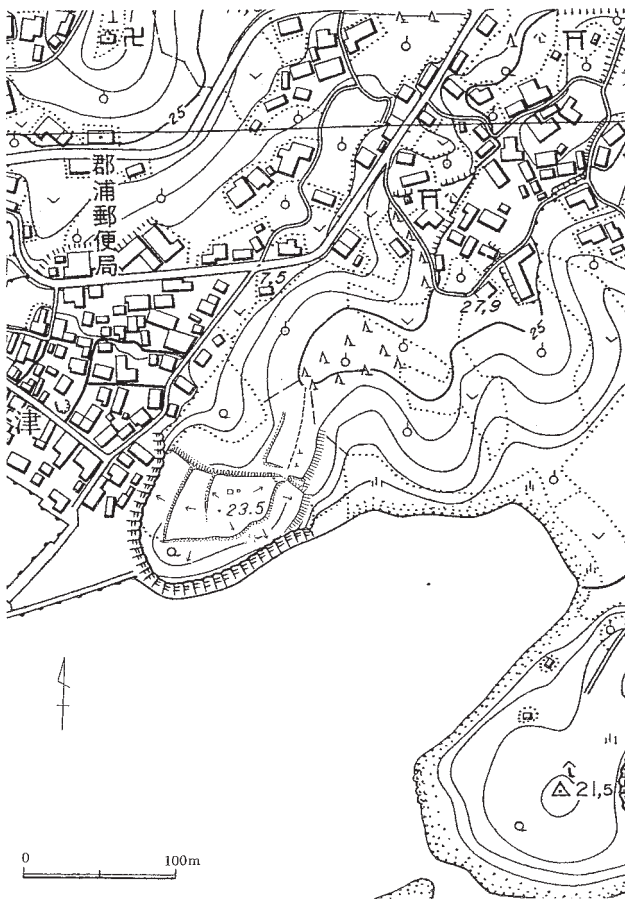
顕孝による宇土城開城の翌年、小西行長は肥後南半（益城・宇土・八代の三郡）の領主として宇土城に入ったが、翌年には隣接する台地上において新城の築城（近世宇土城跡）に着手し、間もなく西岡台の宇土城は廃城となったとみられる。朝鮮出兵後、行長は慶長5（1600）年の関ヶ原の戦いに伴って刑死したが、近世宇土城は加藤清正によって領有・改修された。本丸や堀跡の発掘調査で、城破りに伴うとみられる故意に破壊された石垣や門跡を検出し、大量の瓦や貿易陶磁器が出土している。

第3節 縄張りとは発掘調査について（図6～8）

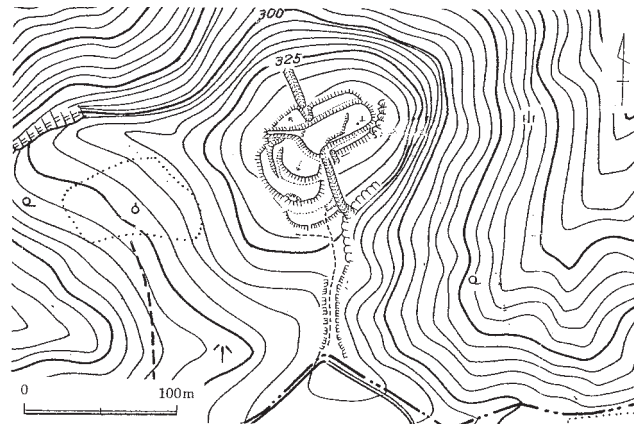
宇土城跡の主な曲輪は、西岡台丘陵の東西に並んだ二つの高位部に所在する。

東側が「千畳敷」と呼ばれる曲輪で、その規模や城郭遺構の密度などから当該曲輪は主郭に位置づけられている。標高約37m、東西約50m、南北約65mの規模を有しており、その周囲を横堀（約234m）が圍繞している。曲輪やその周辺から、発掘調査によって多くの掘立柱建物跡・門跡・柵列跡・虎口跡・横堀跡・竪堀跡を検出した。

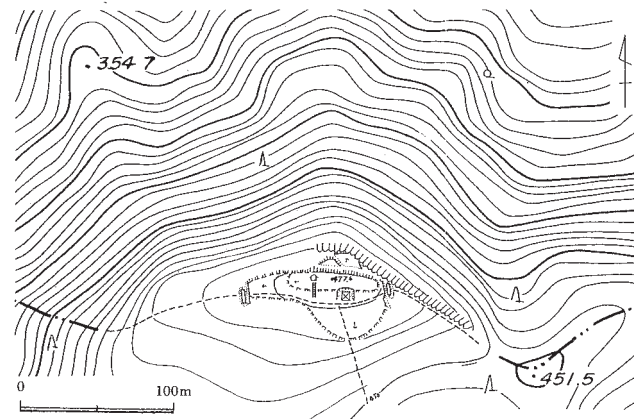
一方、西側の曲輪は「三城」と呼ばれ、標高約39m、東西約65m、南北約35mの規模を有する曲輪で



矢崎城跡縄張り図



雄岳城跡縄張り図



大岳城跡縄張り図

図5 宇土半島の中世城跡縄張り図2（1/5,000，作図：鶴嶋俊彦氏）



図6 宇土城跡縄張り図（1/3,000, 1974年測量図などを参考に作成）

あるが、千畳敷のように曲輪を圍繞する横堀跡は存在しない。発掘調査により掘立柱建物跡・門跡・道路状遺構、溝跡を検出している。これらの曲輪は、周囲に土地を削り出して急峻な崖状地形（切岸）や帯曲輪を造り出して防御性を高めている。

千畳敷や三城周辺の発掘調査によって、大量の土師質土器や播鉢・火鉢などの瓦質土器、備前焼・瀬戸焼などの国産陶器、中国製の白磁・青磁・染付や華南三彩、タイや朝鮮半島製の陶磁器など、13～16世紀代を中心とする遺物が出土した。

三城の西側約50mには、地元で「カラホリ」と呼ばれている大規模な横堀跡が南北方向に配置されて



図7 千畳敷周辺検出遺構集成図（1/1,000，21次調査まで）

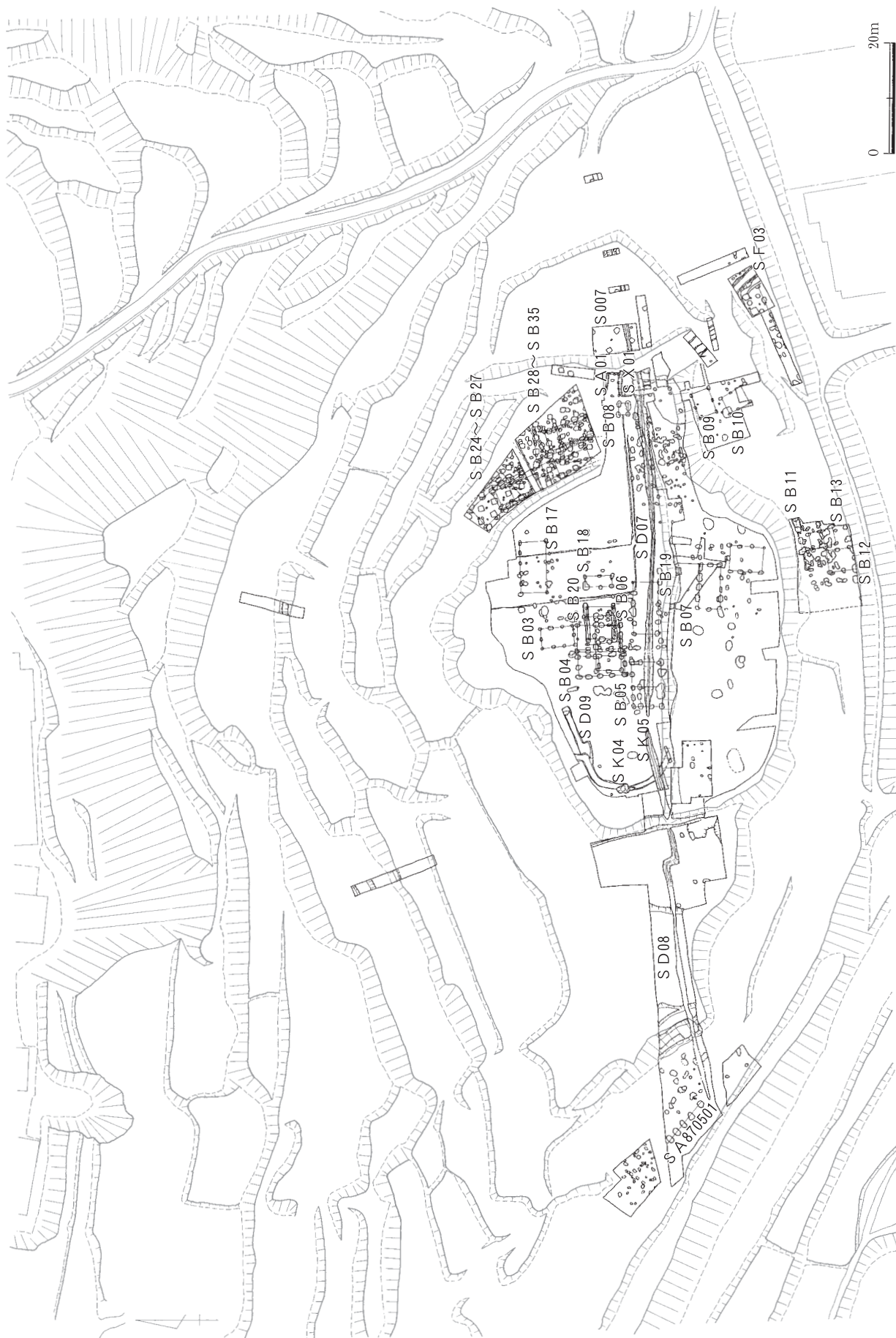


図 8 三城周辺検出遺構集成図（1/1,000, 21次調査まで）

いる。規模は長さ約310m、幅約10～15m、深さ約5～7mで、その西側に平行して高さ約2mの土塁がある。この横堀跡は、堀底に側溝を有し、南端付近から門礎とみられる巨石が出土していること、中世以来の古道である三角道と交わることから、平時には堀底道として機能していたと推測される。現在のカラホリは道路で途切れているように見えるが、現地踏査の結果や昭和49年の地形図から判断すると、現在より南へ100m程度延びていたとみられる。カラホリ東側の防御を考慮しての造作であろう。

カラホリが三城付近だけでなく、西岡台南麓まで延びているのは注意すべきことであり、特定の曲輪に限らず城全体を意識した堀の配置は、いわゆる「惣構え」の考え方に通じるものといえよう。カラホリの東側には陳の前遺跡（弥生時代～中世）があり、宇土城に関連した遺跡と推定される。おそらく神馬町字西岡、同字日平、同字馬場下、石橋町字陳の前周辺に、領主や家臣団の居住域が形成されていたとみてよいだろう。

千畳敷や三城で検出された建物跡は全て掘立柱建物跡であり、礎石建物跡は発見されていない。また、2間×数間程度の建物が多数を占めており、小規模かつ等質的で瓦もほとんど出土していない。このことから、領主の屋敷が曲輪内に存在したとは考え難いことから、名和氏の居館は丘陵南側に存在したとみられる家臣団の屋敷群と隣接して築かれていたと想定される。

引用・参考文献

- 阿蘇品保夫 1977「肥後における名和氏と宇土氏」『宇土城跡（西岡台）』本文編 宇土市埋蔵文化財調査報告書第1集 宇土市教育委員会
- 稲葉継陽 2007「戦国期の城と地域社会」『新宇土市史』通史編第2巻 中世・近世 宇土市
宇土市史編纂委員会編 2002『新宇土市史』資料編第2巻 宇土市
2003『新宇土市史』通史編第1巻 宇土市
- 宇土市教育委員会 1977『宇土城跡（西岡台）』本文編 宇土市埋蔵文化財調査報告書第1集
1981『宇土城跡（城山）』宇土城跡（城山）調査概報Ⅰ 宇土市埋蔵文化財調査報告書第4集
1982『宇土城跡（城山）』宇土城跡（城山）調査概報Ⅱ 宇土市埋蔵文化財調査報告書第7集
1985『西岡台貝塚』 宇土市埋蔵文化財調査報告書第12集
1985『宇土城跡（城山）』 宇土市埋蔵文化財調査報告書第10集
1988『宇土城跡（西岡台）』Ⅱ 宇土市埋蔵文化財調査報告書第18集
2001「石ノ瀬遺跡」『新宇土市史基礎資料』第9集
2003『宇土城跡（西岡台）』Ⅵ 宇土市埋蔵文化財調査報告書第24集
2004『宇土城跡（西岡台）』Ⅶ 宇土市埋蔵文化財調査報告書第25集
2005『宇土城跡（西岡台）』Ⅷ 宇土市埋蔵文化財調査報告書第26集
2007『宇土城跡（西岡台）』Ⅸ 宇土市埋蔵文化財調査報告書第29集
2009『宇土城跡（西岡台）』Ⅹ 宇土市埋蔵文化財調査報告書第31集
2012『宇土城跡（西岡台）』Ⅺ 宇土市埋蔵文化財調査報告書第33集
- 宇土城跡三ノ丸跡発掘調査団 1982『宇土城跡三ノ丸跡』弥生時代前期のV字溝と近世城郭遺構の調査
- 鶴嶋俊彦 2013「宇土名和領の中世城」『うと学研究』第34号 宇土市教育委員会

第3章 平成17年度(第18次)発掘調査

第1節 調査の概要

(1) 調査の概要 (図9)

第18次調査は、平成17年5月から同年7月にかけて実施し、T1801～1803の計3地点で発掘調査を行った。調査面積は計77㎡で、内訳はT1801：23㎡、T1802：18㎡、T1803：36㎡である。

当該調査の主たる目的は、第1次調査で既にその存在が明らかとなっていた堀跡SD03と千畳敷を圍繞する横堀跡SD02の範囲確認調査である。当該遺構が保存整備に伴う遺構表示の対象地であることから、その配置状況や規模などに関するデータを得る必要があったことから調査を実施した。

本調査では、平成17年度の宇土城跡保存整備工事に伴い、SD03の配置状況が来訪者に認識できるように遺構表示を行う計画であったことから、標高約23m付近にT1801、同じく約29m付近にT1802の2ヶ



図9 18次調査区配置図 (1/1,000, アミ部分：18次調査区)

所にトレンチを設定し、発掘調査を実施した。なお、T1801・T1802は第4次調査（平成2年度）トレンチをその調査範囲の一部に含んでいる。調査の結果、T1801及びT1802の南側でSD03を検出したほか、T1802においてSD03と重複した古墳時代前期の首長居館を圍繞する壕跡SD01を検出した。

また、平成9年度より断続的に実施してきたSD02の保存整備工事は、千畳敷南側に位置し、現状で土橋状を呈して千畳敷へと通じる道として使用されていた部分を残して16年度末までに施工を完了した。当該地点が千畳敷へ通じる土橋として機能していたのか、廃城後SD02が埋没し、後世に道として使用されるようになったのかなどを明らかにし、保存整備工事の基礎資料とするため、トレンチT1803を設定し、発掘調査を実施した。その結果、SD02を検出したことから、本遺構は千畳敷の虎口である曲輪東側の土橋を除いて全周することが判明した。

以上の調査の結果、遺構埋土や遺構外より土師質土器（坏・耳皿・羽釜）や瓦質土器（播鉢・火鉢）、中国製陶磁器（青磁・白磁・染付など）、国産陶磁器（肥前系）、軒丸瓦、石塔残欠（五輪塔・宝篋印塔）などが出土した。

（2）調査日誌抄

平成17（2005）年	17日	T1802西壁土層断面図作成。
5月25日 T1801・1802の表土除去開始。	21日	T1803で千畳敷を圍繞する横堀跡SD02を検出。
30日 T1801遺物包含層掘り下げ開始。		T1803遺構検出状況写真撮影。
31日 T1802遺物包含層掘り下げ開始。	27日	SD02埋土中層より千畳敷側から流れ込んだ状況で多量の土師質土器出土。
6月8日 T1801でSD03を検出。	30日	SD02埋土下層より石塔残欠が比較的まとまって出土。
13日 T1802でSD01、SD03を検出、両遺構の重複を確認。	7月1日	SD02底面で南北方向に主軸をもつ落ち込み（SX01）を検出。
14日 T1801・1802遺構検出状況写真撮影。	7日	T1801～1803調査状況写真撮影。
15日 T1801遺構平面図作成開始。		

第2節 検出遺構

SD01（図11、図版2）

宇土城跡の主郭・千畳敷とほぼ重複する範囲に存在した古墳時代首長居館を圍繞する壕跡である。1次調査でその存在が明らかになったもので、以後、6次（千畳敷南東側）・10次（同北西側）・12次（同北側）・14次調査（同南東側）・15次調査（同東側）で検出している。これらの調査で、本遺構に囲まれた東西約80m、南北約95mの範囲に首長居館が存在し、南側2ヶ所に張り出し部をもつことが明らかになっている。居館部分の面積は約7,600㎡（SD01を含めると約9,500㎡）におよび、九州で確認されている古墳時代首長居館の約20例のうち最大規模である。築城に伴う削平が要因なのか、SD01以外に居館に伴う古墳時代の遺構は未確認である。

18次調査では、T1802において部分的に検出した。検出地点は千畳敷から東側へ2段下がった帯曲輪であり、15次調査においても今回検出地点から北へ約30m離れた同じ帯曲輪で確認している。T1802では、縦堀跡SD03と直交方向に重複しており、検出全長は約7.4mで千畳敷側の法肩部分を確認したが、限られた範囲の調査であることや、中世宇土城跡の保存整備に伴う発掘調査であることから、遺構埋土の掘り下げは実施しておらず、幅や深さなどは確認していない。

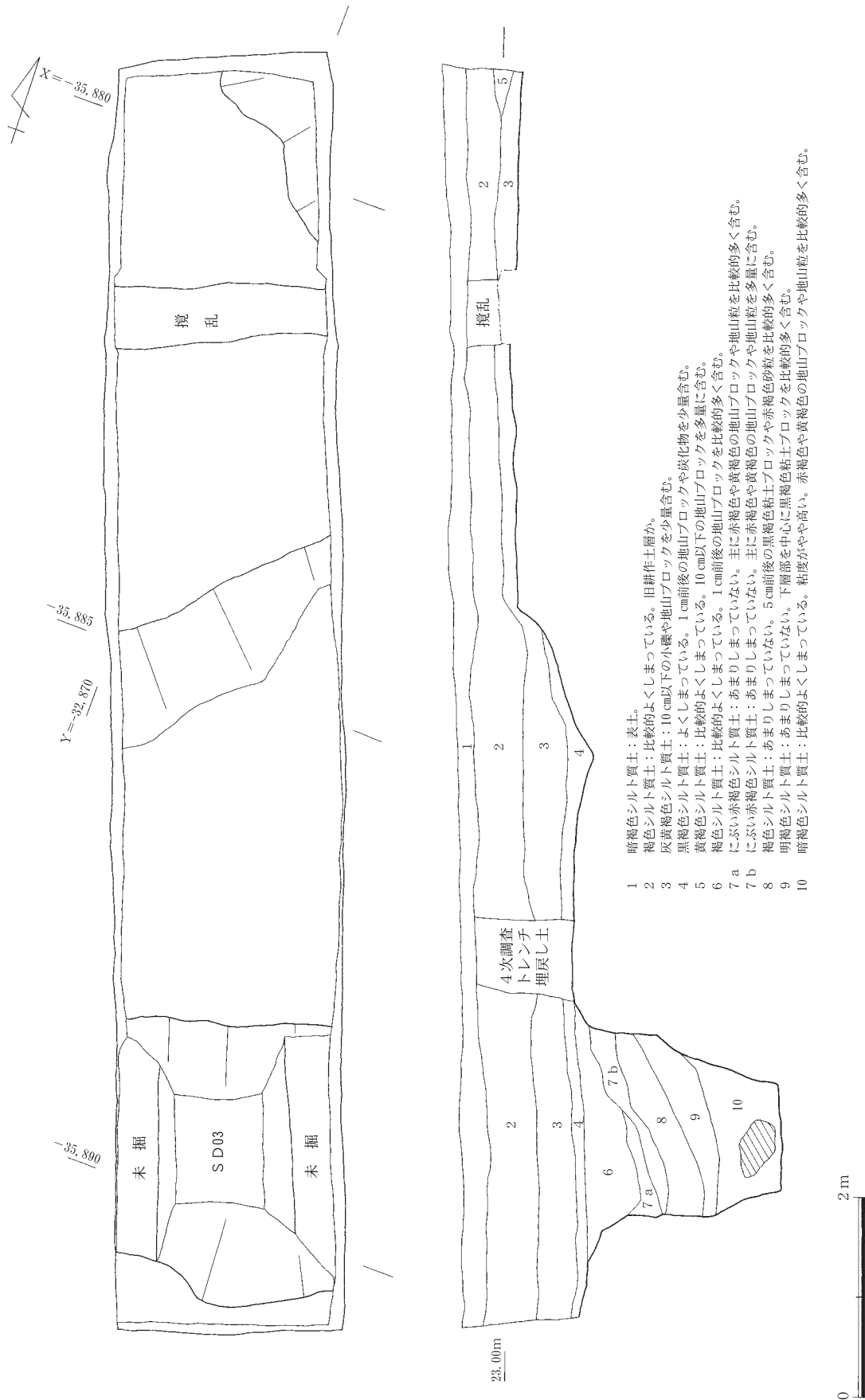


図10 T1801遺構配置図及び西壁土層断面図 (1/60)

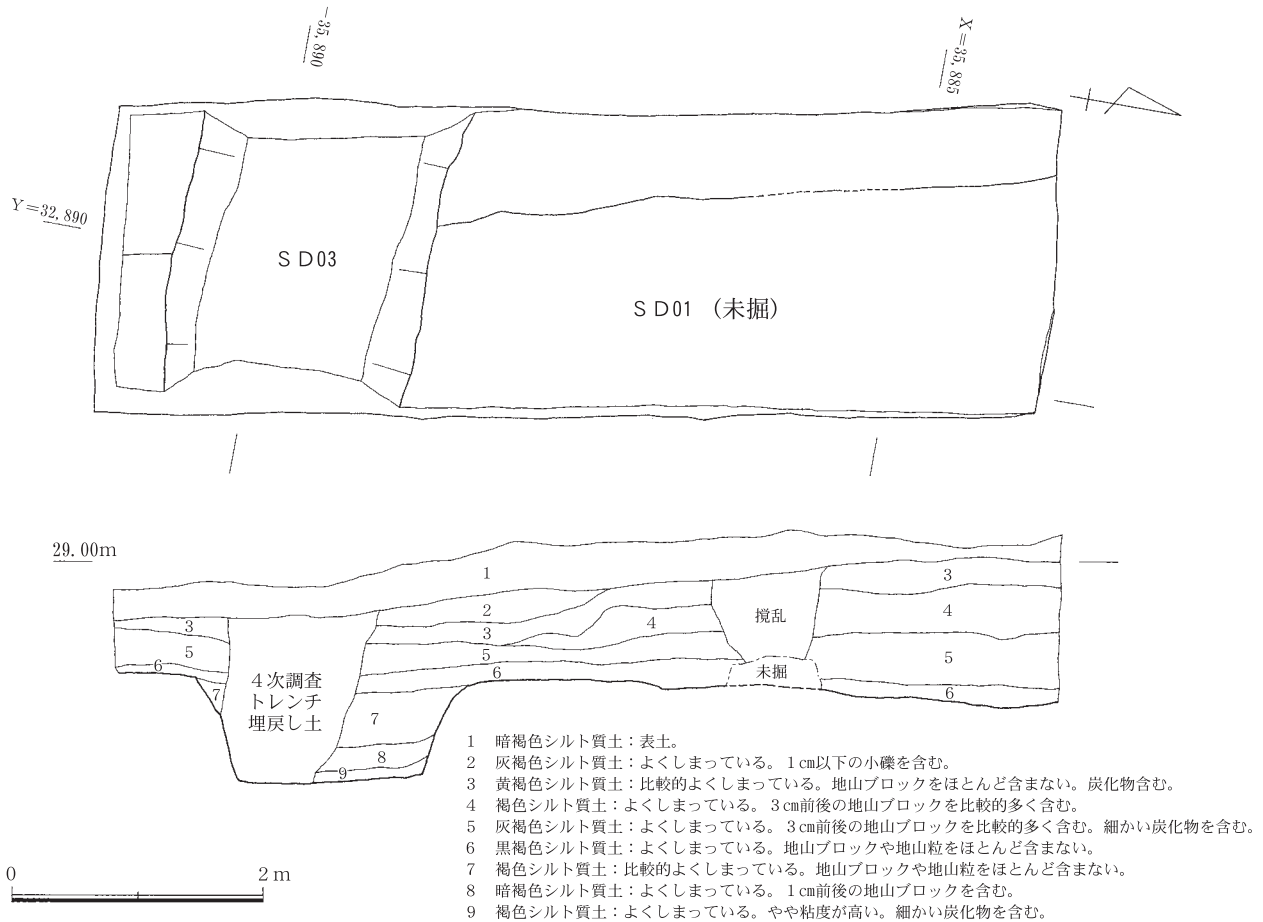


図11 T1802遺構配置図及び西壁土層断面図 (1/60)

S D02 (図12, 巻頭図版1, 図版3・4)

千畳敷を圍繞する横堀跡である。これまでの調査の結果、千畳敷東側の土橋部分を除き、全長約234 m、幅約3.5~5.7 m、底幅約1.3~3.0 m、深さ約0.2~3.0 mの規模であることが判明している。18次調査では、千畳敷南側に設定したトレンチT1803で検出した。検出規模は、長さ約4.7 m、幅約3.7~4.0 m、底幅約2.4~2.7 m、検出面からの深さ1.1 m。壁面の傾斜角度は約44°~60°で、千畳敷と堀底との比高差は約4.5 mである。堀底の標高は約33 mとS D02では最も高い。本遺構は、全体的にみて南側から北側に向かって下降しており、今回検出した地点と千畳敷北側の堀底とは約3 mの比高差がある。

また、調査区西側の堀底の一部には、長さ約2.7 m、幅約1.1~1.2 m、底幅約0.4~0.5 m、深さ約1.0 mの落ち込み状の不明遺構S X01を確認した。S D02埋土を掘り込んだ痕跡は確認できなかったことから、少なくともS D02の埋没前から存在した可能性が高い。このことを示すように、S D02下層埋土とS X01埋土は対応関係にある (図12)。

出土遺物については、埋土下層から主に14世紀代とみられる五輪塔や宝篋印塔などの石塔残欠が出土した。これらは同じ層から出土しており、同時期に投棄された可能性が高い。また、S D02埋土下層 (T1803西壁土層断面7層) やS X01埋土で大量の土師質土器の坏が出土しており、完形のものや完形に近い状態のものが多い。これらの出土範囲は千畳敷側に偏っていることから、おそらく千畳敷側から土砂とともに流れ込んだものと想定される。その他、土師質土器の耳皿・羽釜、瓦質土器 (播鉢)、中国製陶磁器 (白磁)、軒丸瓦などが出土した。また、小片のため図化していないが、中国製陶磁器 (染付・赤絵) も出土した。

S D 03 (図10・11, 図版1・2)

千畳敷南東側帯曲輪及び千畳敷東側の斜路部分とほぼ重複する状態で配される堀跡である。千畳敷南東側帯曲輪では南北方向に配され、等高線に平行する横堀として機能しているが、千畳敷虎口から東側へ約20m付近から東方向にはほぼ直角に折れ、等高線と直交方向に延びる縦堀として機能している。このような横堀と縦堀の機能をあわせ持つ遺構は、宇土城跡においては唯一のものである。今回の調査では、T1801及びT1802で検出した。両トレンチとも縦堀として機能した範囲である。

T1801の検出規模は、長さ約2.1m、幅約2.3~2.8m、底幅約1.0~1.1mで、深さ約2.0m、壁面の傾斜角度は約70°~75°である。一方、T1802における検出規模は、長さ約2.4m、幅約1.8~2.0m、底幅約1.3~1.4m、深さ約0.7m、壁面の傾斜角度約70°である。

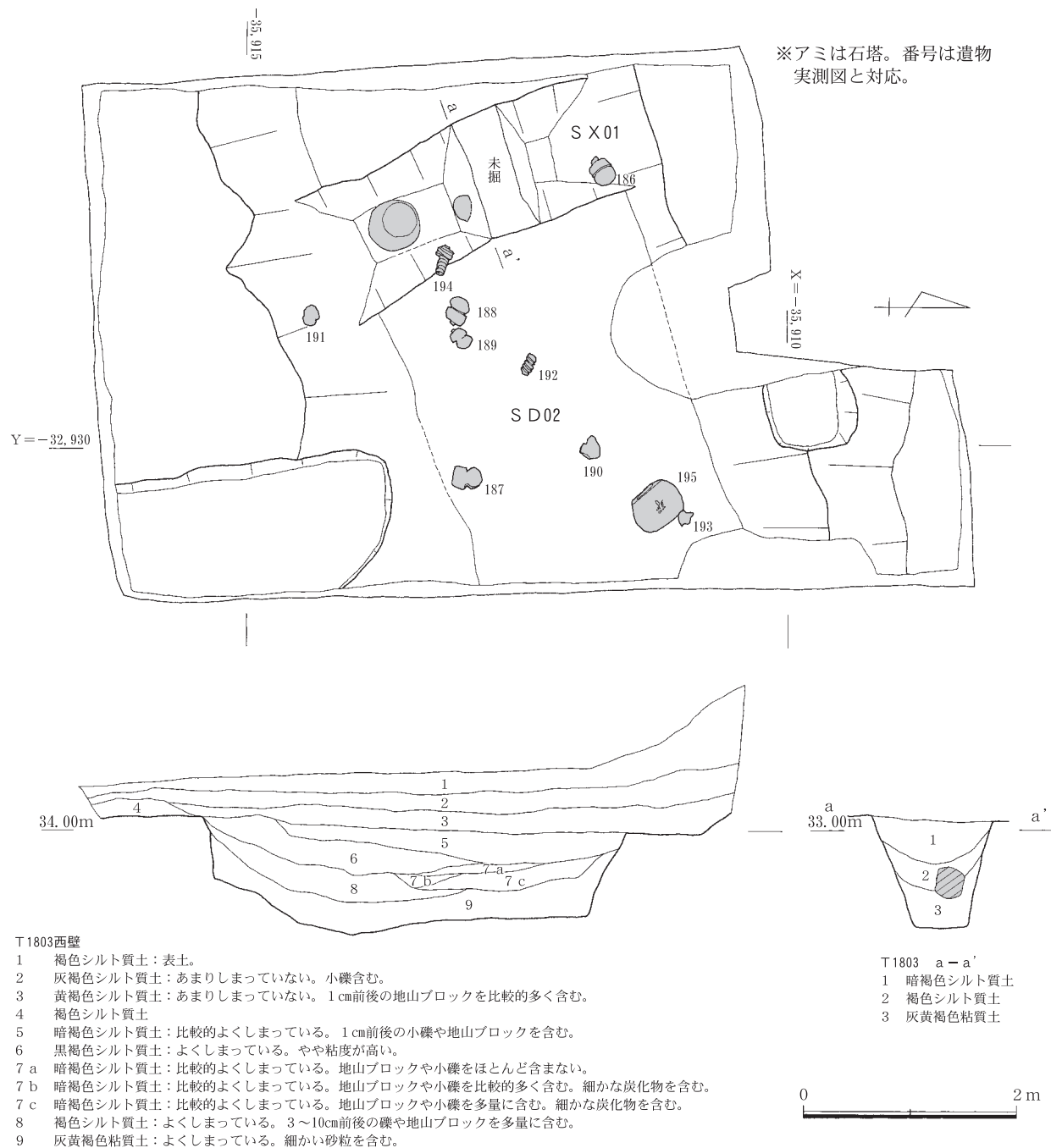


図12 T1803遺構配置図及び土層断面図 (1/60)

千畳敷周辺で検出した幅10mを超える大規模な竪堀跡SD19やSD22と比べて幅が狭く小規模であるが、壁面の傾斜は他の竪堀跡に比べて最も急峻で、T1801検出地点では、堀底に落ち込むと容易には壁面を上ることはできないほどの傾斜と深さがある。また、T1801検出地点のSD03の埋土は、北側から土砂が多量に流入したかのような堆積状況を示すことから、おそらく本遺構の掘削土などを利用した土塁が北側に存在した可能性を示唆するものといえよう。

埋土より、土師質土器や瓦質土器、中国製陶磁器（染付）、轆の羽口などが出土したが、小片のため轆の羽口のみ図化した。

第3節 出土遺物

SD02（図13～17，表3，図版5・6）

1～180は土師質土器の坏である。これまでの調査で出土した資料と同様に、磨耗により器面調整が不明なものを除き、法量の大小に関係なく全ての資料で内面及び外面は回転ナデ、底面は糸切り離しであり、製作技法が共通する。また、形態的にも底部から口縁部にかけて斜め上方にのび、口縁部は外反せず端部は丸くおさめており、画一性が高い。また、底面には指頭押圧痕が観察できる資料の割合が高い。総じて焼成が甘いものが多く、表面が風化して器面調整が不明なものが多数ある。また、胎土の含有鉱物は、雲母や角閃石を主とし、その他、長石や石英を含む資料もある。色調は、内外面とも橙色が大半をしめる。

1～87は口径が8cm未満の小型のもので、最も口径が小さなものは6.3cmである。このうち、口径が6.6cmから7.5cmのものが全体の約75%を占めている。器高は1.8～2.6cm、底径は3.2～4.3cmの範囲に含まれる。12の口縁部には油痕があり、灯明皿として使用されたとみられる。底面に指頭押圧痕を確認できる資料として、2・3・16・19・22・24・28・29・31・34・35・37・39・40・46～49・52・54・56～58・60・62・64～68・70～74・76・77・80～86がある。

88～173は口径が8cm以上～10cm未満と中型のもの。このうち、8cm台のものは88～91の4点と大変少なく、9cm台が全体の約95%を占めている。器高は2.3～3.1cm、底径は4.2～5.6cmの範囲に含まれる。88・89・91・95・98～103・105～107・109・110・112・113・115～119・121・122・124・125・127～129・131～137・139・141～147・149～154・156～159・161～163・165～172の底面には指頭押圧痕がある。174～180は口径が10cmを越える大型のもの。本遺構から出土した土師質土器の坏において全体の5%に満たない出土量である。177～180の底部には指頭押圧痕を確認できる。

181・182は瓦質土器の播鉢である。ともに5本単位の播目を施し、内面は使用によるとみられる摩滅が認められる。183・184は白磁の碗。183は中国製の宋・元代の資料で、ロクロケズリで底部を整形後、釉薬を施す。184は肥前系だが、19世紀頃に熊本で製作された可能性がある。185は軒丸瓦で、瓦当面に三ツ巴文が施文される。これまで千畳敷周辺において大規模な調査を実施しているが、宇土城跡では遺構出土の瓦は皆無とあってよく、極めて珍しい資料といえる。

186～195は石塔。186～191・195は五輪塔、192～194は宝篋印塔である。186～189・191は空風輪で、190は空輪部分のみが残存する。195は水輪で、四方にバン・バク・バ・バーの梵字が薬研彫で刻まれている。192～194は相輪で、いずれも上部が欠損している。

SD02（SX01）（図18～21，表3，図版7・8）

同じくSD02出土資料であるが、土坑状の落ち込みである不明遺構SX01から出土した資料について



図13 S D02出土遺物 1 (1/3)

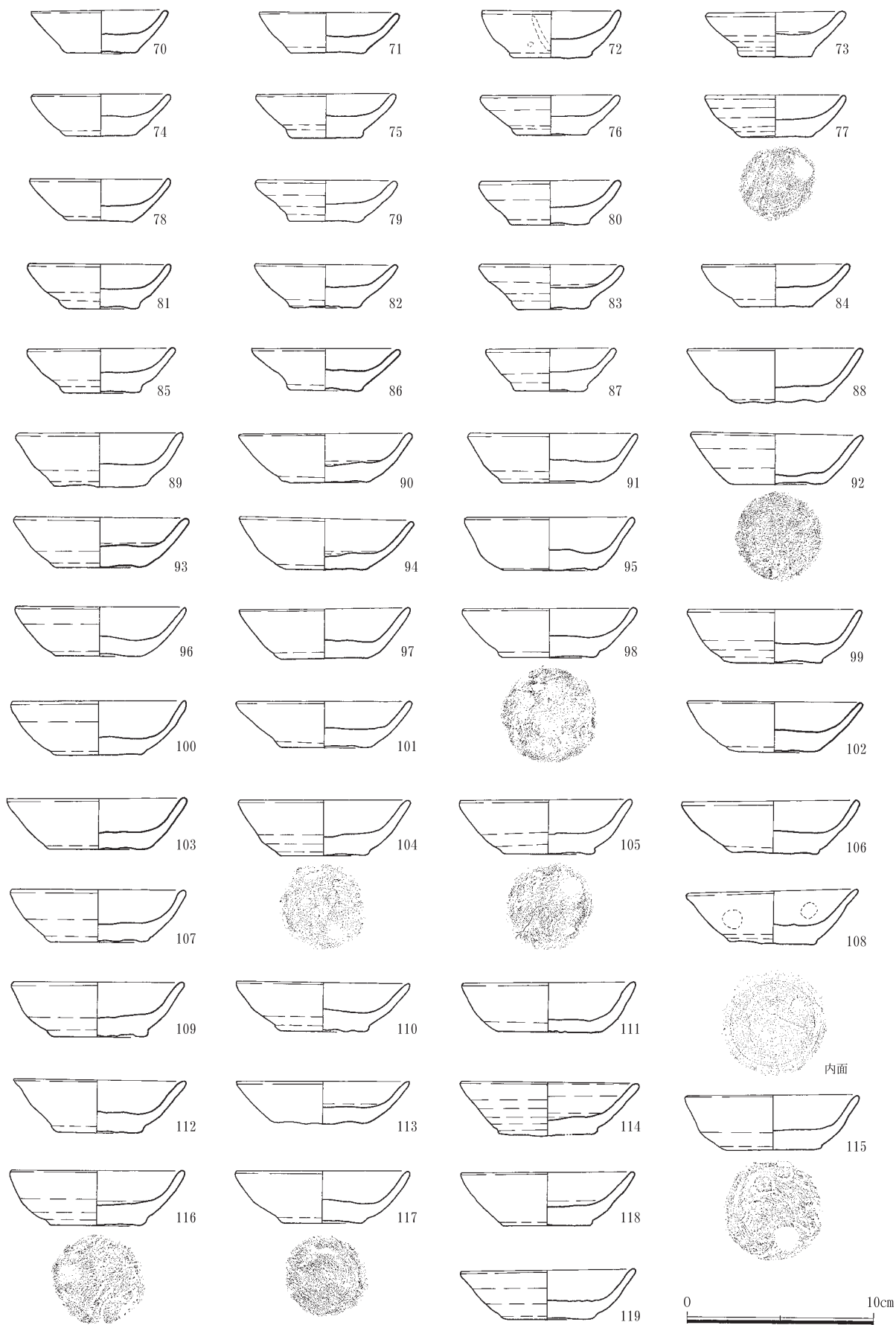


图14 S D02出土遺物2 (1/3)

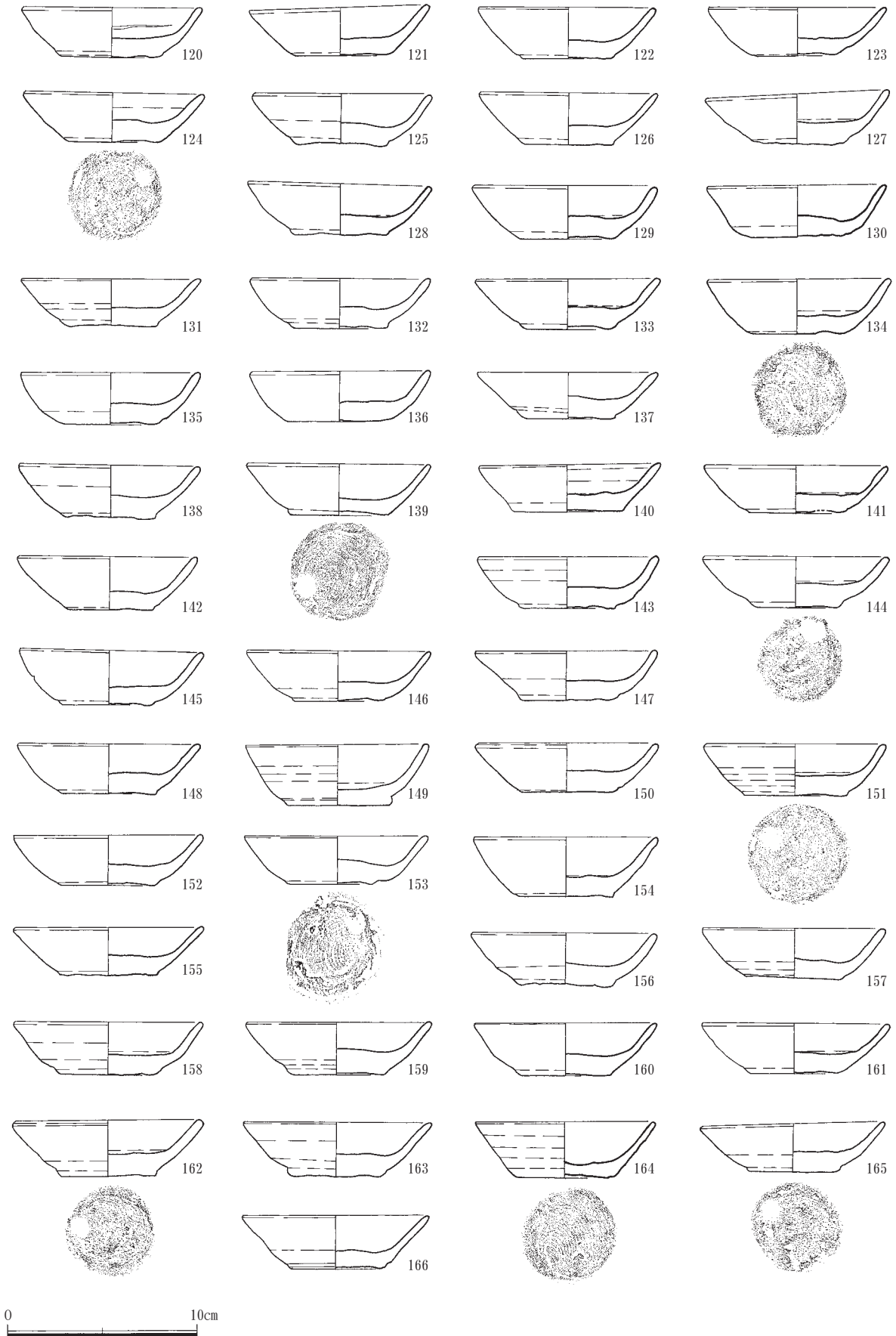


図15 SD02出土遺物3 (1/3)

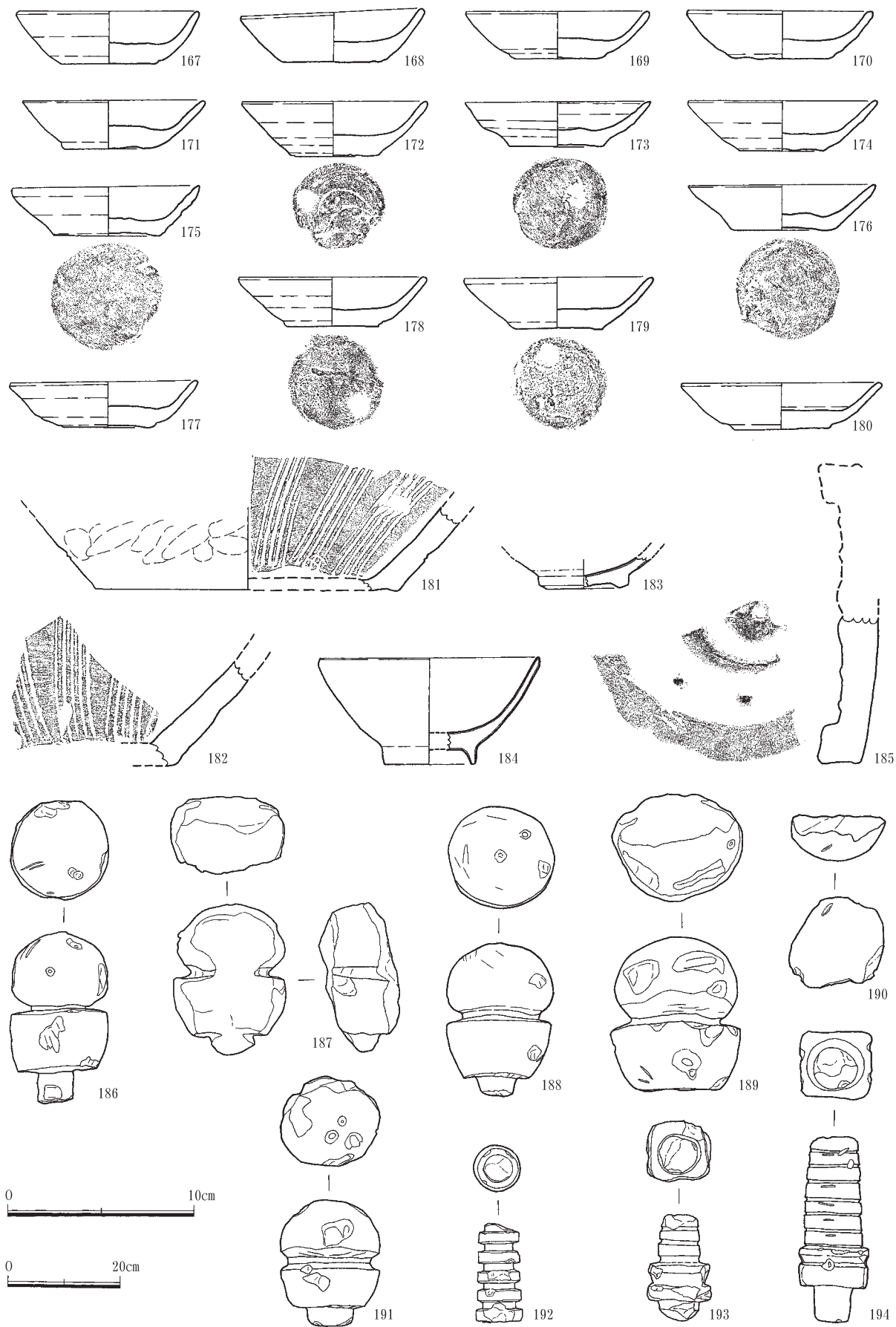


圖16 SD02出土遺物4 (1/3, 1/10)

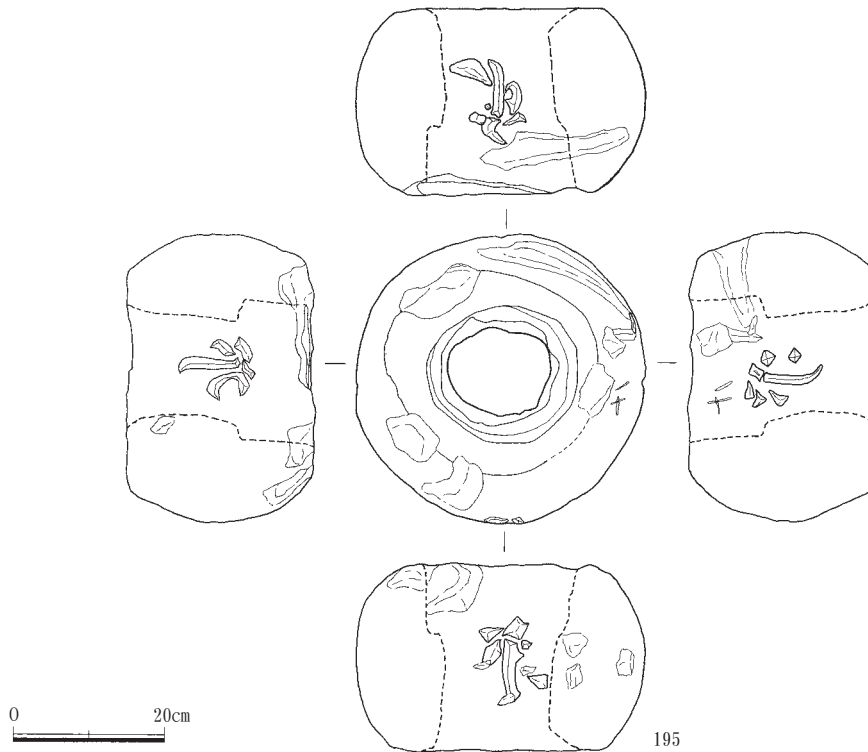


図17 SD02出土遺物5 (1/10)

は、SD02 (SX01) 出土遺物として取り扱うこととする。

196～370は土師質土器。196～367は坏で、磨耗により器面調整が不明なものを除き、法量の大小に関係なく全て内外面は回転ナデで底部は糸切り離しであり、製作技法の共通性が高い。

196～250は口径が8cm未満の小型のもので、器高は1.6～2.9cm、底径は3.3～4.6cmの範囲に含まれる。220・247の内面には炭化物が付着している。底面に指頭押圧痕を確認できる資料として、197・201・203・204・206～209・213・216・222・223・225・228・234・236・237・239～242・245・247～250がある。

251～359は口径が8cm以上～10cm未満と中型のものである。8cm台は全体の5%に満たず、9cm台に集中している。器高は2.1～3.1cm、底径は4.3～6.2cmの範囲に含まれる。346は外面の一部に二次焼成痕がある。底面に指頭押圧痕が認められるのは、251・252・254～259・261～263・265～267・269～272・274～276・278・280～283・285・286・289・291・292・294・296～298・301～306・308・309・311～317・319・321・324～327・329～333・335～338・340～342・344・348～350・353・354・356・357・359である。360～367は口径が10cmを越える大型のもの。360・363～365・367の底面には指頭押圧痕を確認できる。368・369は耳皿で、坏の口縁部の両端を指ではさむように内湾させている。370は羽釜で、鏝部から下部が欠損している。

371は瓦質土器の播鉢で、6本単位の播目を施し、内面は使用によるとみられる摩滅が認められる。体部外面下半はケズリ、同上半部はユビオサエやナデを施す。

SD03 (図21, 表3, 図版8)

372は鞆の羽口とみられる筒型の土製品である。先端部と基部を欠損しており、鉄滓などの付着物はみられない。

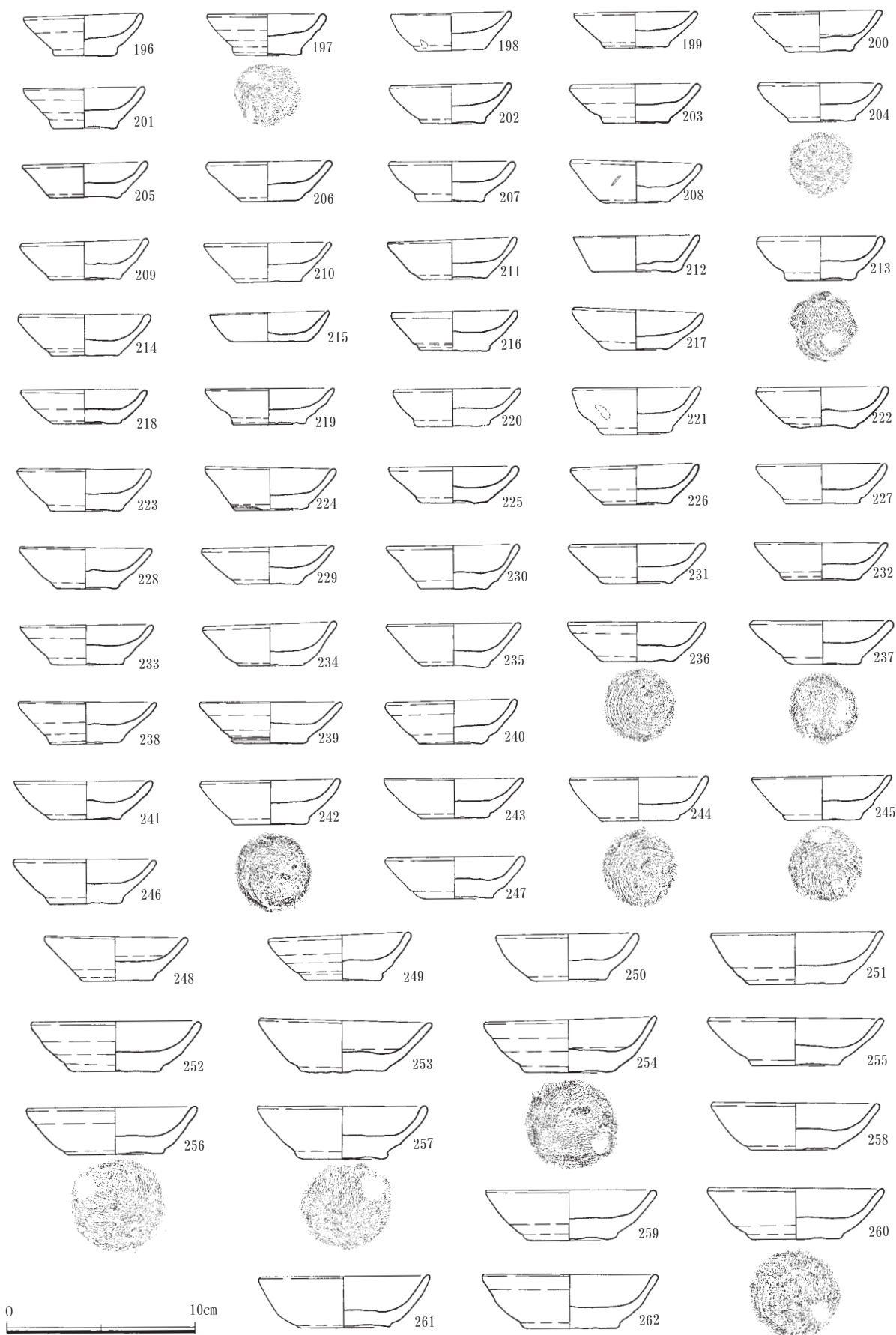


圖18 SD02 (S X01) 出土遺物 1 (1/3)

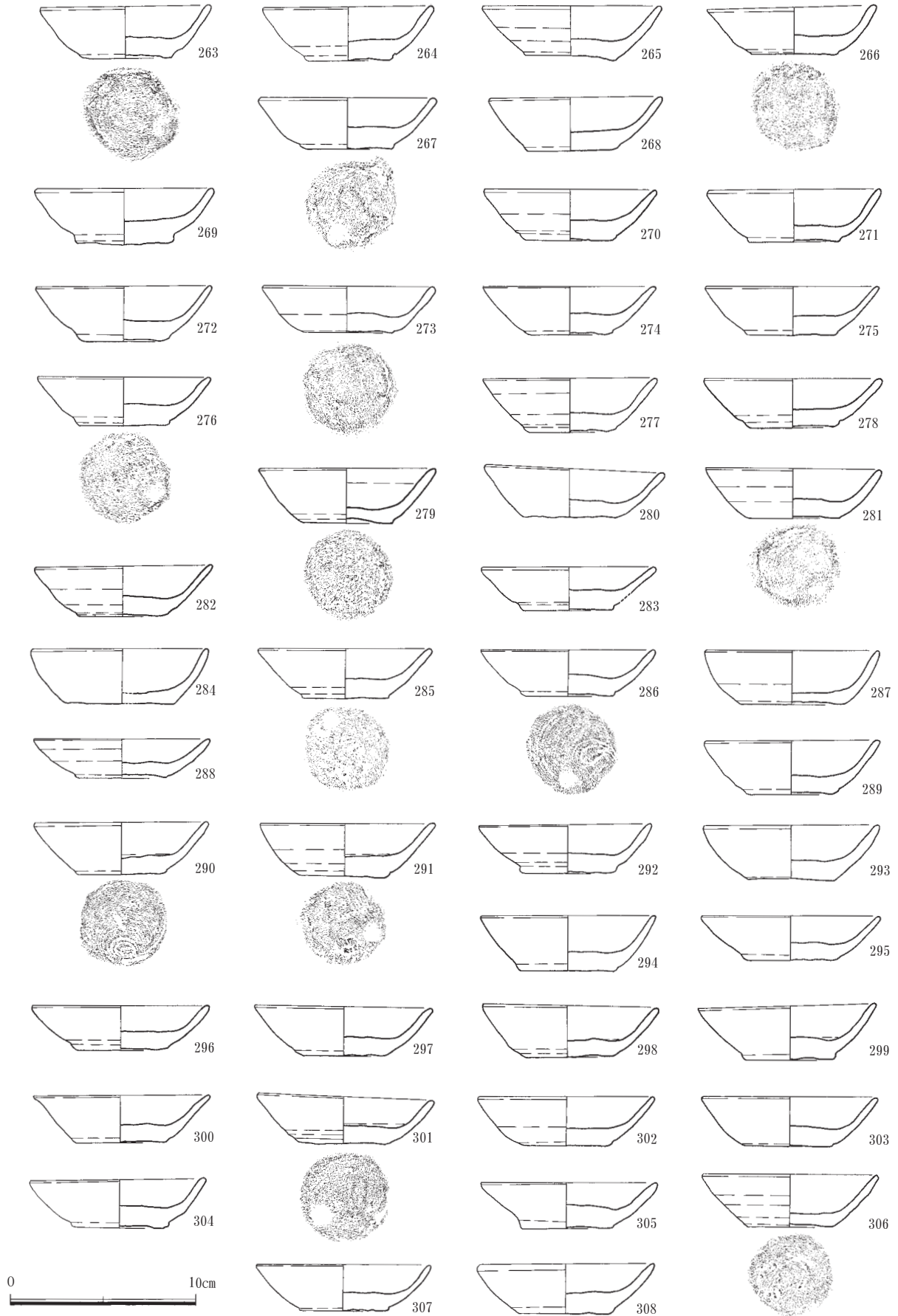


図19 SD02 (SX01) 出土遺物 2 (1/3)

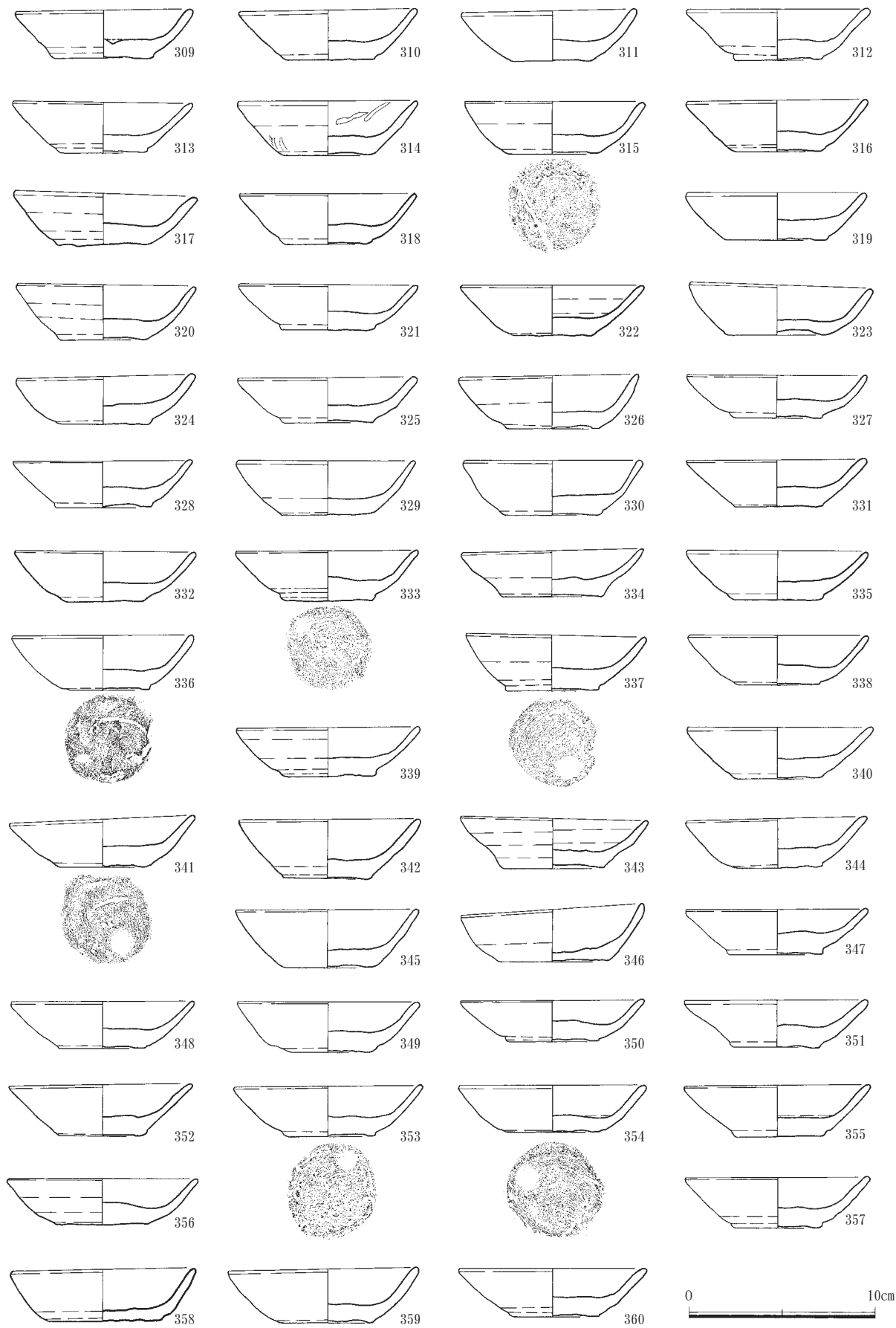


図20 SD02 (S X01) 出土遺物 3 (1/3)

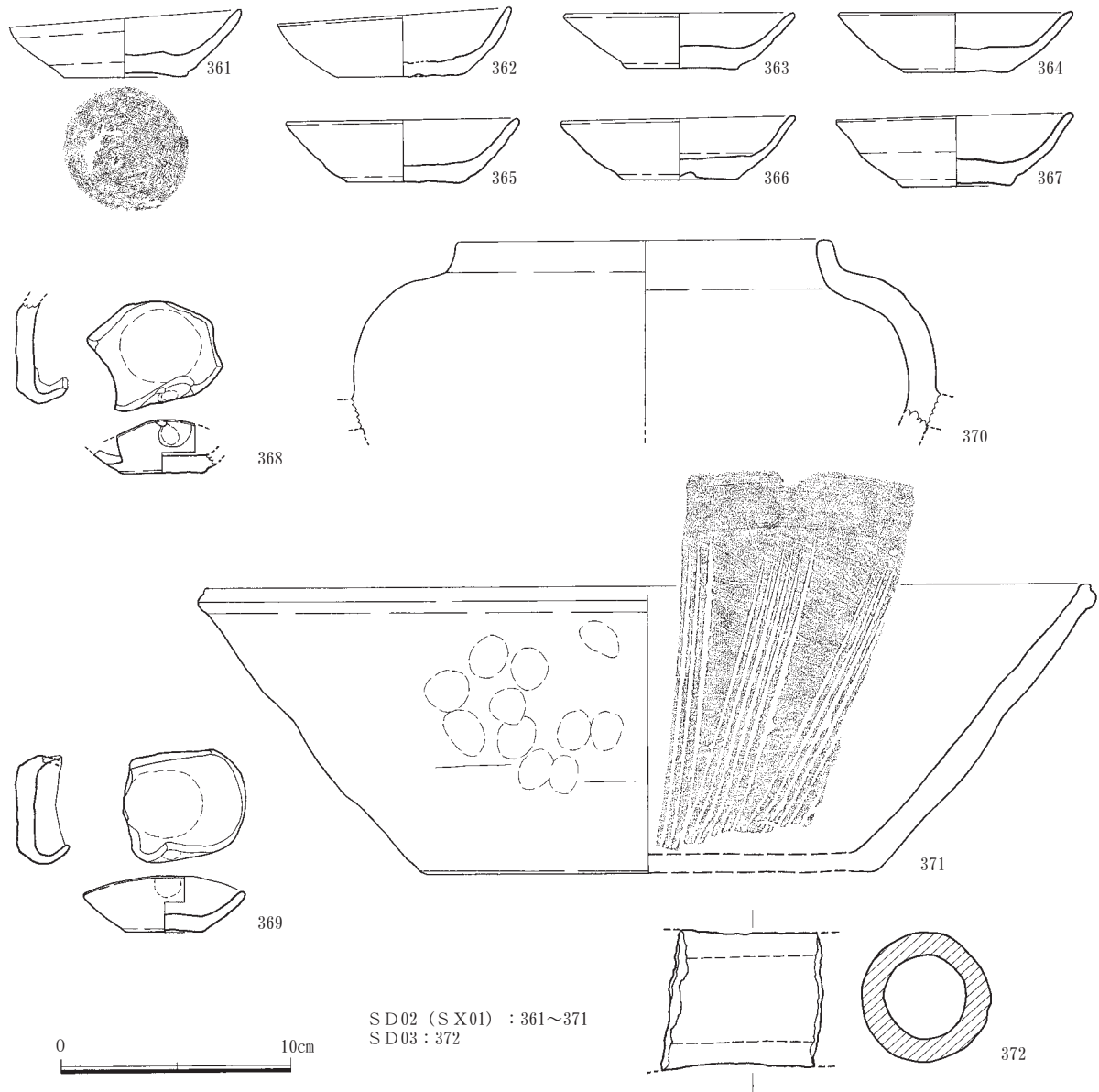


図21 SD02 (SX01) 出土遺物4・SD03出土遺物 (1/3)

遺構外出土遺物 (図22, 表3, 図版8)

373~377はT1801出土。373は中国南部で製作された13~14世紀代の三彩の盤。374は16世紀代とみられる中国製白磁で、器種は小皿の可能性が高い。375~377は肥前系。375は17世紀後半の波佐見焼の白磁で、見込みは蛇の目釉剥ぎ。376・377は染付の碗。376の内面は露胎で、17世紀後半から18世紀代。377は18世紀前半の製作。

378はT1802出土の瓦質土器の羽釜である。耳部から鏝部にかけての一部のみで、上部と下部は欠損している。耳部と鏝部は、体部に粘土貼り付けて整形している。

379~381はT1803出土。379は肥前系の鉄絵皿で、体部外面下半部以下は露胎。1590~1610年頃の製作。380は14世紀後半から15世紀中頃の龍泉窯系青磁皿で、見込みに文様を施す。381は須恵器の壺。口縁部は外反し、端部は玉縁状を呈する。

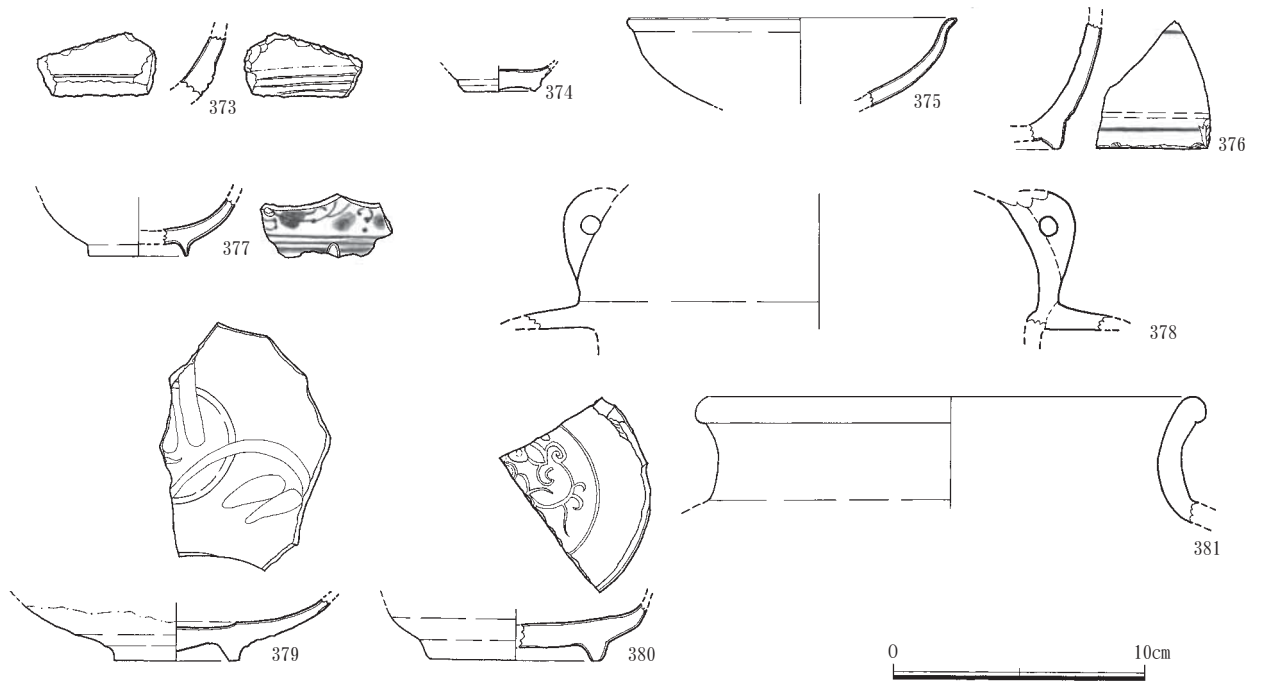


図22 18次調査遺構外出土遺物 (1 / 3)

表3 18次調査出土遺物観察表(カッコ内の数字は復元値を示す)

SD02(土器) ※層位はT1803西壁の土層

挿入 番号	実測 番号	器 種	胎	土	焼成	色調(内面/外面)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	法 量 (cm)		備 考	
									口径	器高 底径		
1	18-190	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm未満の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.3	2.1	3.3
2	18-484	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(6.3)	2.0	3.6
3	18-195	土師質土器・環	雲母, 長石, 1mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(6.4)	2.2	3.4
4	18-272	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.4	2.0	3.4
5	18-303	土師質土器・環	雲母, 1~3mm程の砂粒		良好	にぶい橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.4	2.1	3.5
6	18-305	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~5mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.4	1.9	3.4
7	18-306	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm未満の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.4	1.9	3.7
8	18-317	土師質土器・環	角閃石, 1mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.4	2.1	3.4
9	18-341	土師質土器・環	角閃石, 1~3mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.4	2.2	3.3
10	18-382	土師質土器・環	雲母, 1~2mm程の砂粒		良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.4	2.0	3.4
11	18-450	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.4	2.2	3.6
12	18-167	土師質土器・環	1mm程の砂粒		やや不良	浅黄橙/浅黄橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	6.5	2.0	3.3
13	18-287	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒		良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(6.5)	1.9	3.6
14	18-161	土師質土器・環	1~2mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ	T1803	7層	6.6	2.1	3.4
15	18-209	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	7層	6.6	2.2	3.7
16	18-240	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒		良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し?	T1803	7層	6.6	2.1	3.6
17	18-258	土師質土器・環	角閃石, 1mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	6.6	2.1	3.4
18	18-342	土師質土器・環	角閃石, 雲母, 1~2mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	6.6	2.1	3.8
19	18-393	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.6	2.4	3.6
20	18-399	土師質土器・環	1~2mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	6.6	2.1	3.6
21	18-196	土師質土器・環	雲母, 1~2mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.7	2.2	4.0
22	18-241	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒		良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.7	2.2	3.4
23	18-288	土師質土器・環	1mm程の砂粒		やや不良	橙/にぶい橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(6.7)	2.1	3.6
24	18-299	土師質土器・環	長石, 1~3mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.7	2.1	3.7
25	18-302	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.7	2.2	3.8
26	18-428	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.7	2.2	3.8
27	18-156	土師質土器・環	角閃石, 1mm未満の砂粒		不良	浅黄橙/浅黄橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	7層	6.8	2.3	4.1
28	18-187	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.8	2.2	4.1
29	18-212	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒		良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.8	2.2	3.8
30	18-285	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒		良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.8	2.2	3.8
31	18-384	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.8	2.1	3.6
32	18-395	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.8	2.5	3.8
33	18-279	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.9	2.3	3.6
34	18-308	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.9	2.1	3.5
35	18-316	土師質土器・環	長石, 1~2mm程の砂粒		やや不良	黄橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	6.7	2.1	3.7
36	18-321	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ	T1803	7層	6.8	2.1	3.4
37	18-322	土師質土器・環	角閃石, 1mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.6	2.1	3.5
38	18-366	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.8	2.1	3.4
39	18-332	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(6.9)	2.2	4.0
40	18-442	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	6.9	2.2	4.0
41	18-485	土師質土器・環	1mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(6.9)	1.8	3.4
42	18-199	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~4mm程の砂粒		良好	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	7層	(7.0)	2.3	3.9
43	18-273	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒		やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	7層	7.0	2.2	3.8

挿図 番号	実測 番号	器 種	胎	土	焼成	色調 (内面/外面)	器面調整 (内面/外面)	調査 地点	層位	法 量 (cm)		備 考
										口径	器高	
44	18-304	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.0	2.1	3.7	
45	18-310	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	7層	7.0	2.1	3.5	底面に指頭押圧痕
46	18-319	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.0	2.4	4.0	底面に指頭押圧痕
47	18-343	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1mm程の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.0	2.1	3.9	底面に指頭押圧痕
48	18-213	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.1	2.4	4.0	底面に指頭押圧痕
49	18-259	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.1	2.2	4.0	底面に指頭押圧痕
50	18-318	土師質土器・環	角閃石, 1~2mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.1	2.3	3.7	
51	18-357	土師質土器・環	1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	7.1	2.1	3.8	底面に指頭押圧痕
52	18-413	土師質土器・環	角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.1	2.0	3.8	底面に指頭押圧痕
53	18-178	土師質土器・環	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.2	2.6	4.3	
54	18-185	土師質土器・環	角閃石, 1~4mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(7.2)	2.2	4.0	底面に指頭押圧痕
55	18-274	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(7.2)	2.3	3.6	
56	18-227	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(7.2)	2.3	3.9	底面に指頭押圧痕
57	18-245	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.2	2.3	3.8	底面に指頭押圧痕
58	18-298	土師質土器・環	1mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ	T1803	7層	7.2	2.2	3.8	底面に指頭押圧痕
59	18-363	土師質土器・環	雲母, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.2	2.4	3.6	
60	18-396	土師質土器・環	長石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.2	2.4	3.6	底面に指頭押圧痕
61	18-401	土師質土器・環	1~2mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	7.2	2.2	3.8	底面に指頭押圧痕
62	18-425	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.2	2.4	3.6	
63	18-157	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.3	2.4	3.9	底面に指頭押圧痕
64	18-260	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~7mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.3	2.1	3.8	底面に指頭押圧痕
65	18-309	土師質土器・環	長石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.3	2.2	3.6	底面に指頭押圧痕
66	18-382	土師質土器・環	角閃石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	7層	7.3	2.3	3.6	底面に指頭押圧痕
67	18-404	土師質土器・環	雲母, 石英, 長石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.3	2.4	4.9	底面に指頭押圧痕
68	18-448	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	7.3	2.5	3.2	底面に指頭押圧痕
69	18-215	土師質土器・環	長石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.4	2.3	3.9	底面に指頭押圧痕
70	18-261	土師質土器・環	雲母, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	7.4	2.3	3.8	底面に指頭押圧痕
71	18-271	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.4	2.2	4.0	底面に指頭押圧痕
72	18-278	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.4	2.5	4.2	底面に指頭押圧痕
73	18-356	土師質土器・環	雲母, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.4	2.4	3.8	底面に指頭押圧痕
74	18-361	土師質土器・環	雲母, 1~5mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	7層	7.4	2.2	3.8	底面に指頭押圧痕
75	18-398	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.4	2.3	3.8	底面に指頭押圧痕
76	18-406	土師質土器・環	雲母, 1~3mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.4	2.1	3.9	底面に指頭押圧痕
77	18-426	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.4	2.2	4.0	底面に指頭押圧痕
78	18-268	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	7.5	2.2	3.6	
79	18-409	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(7.5)	2.2	4.0	底面に指頭押圧痕
80	18-214	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.6	2.4	4.3	底面に指頭押圧痕
81	18-219	土師質土器・環	雲母, 長石, 1~4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	7.6	2.4	4.2	底面に指頭押圧痕
82	18-252	土師質土器・環	雲母, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(7.6)	2.3	3.8	底面に指頭押圧痕
83	18-323	土師質土器・環	雲母, 1~5mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.7	2.3	3.7	底面に指頭押圧痕
84	18-376	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~7mm程の砂粒	良好	にぶい黄橙/にぶい黄橙	回転ナデ/摩耗のため不明, 底部糸切り離し	T1803	7層	(7.8)	2.3	3.8	底面に指頭押圧痕
85	18-405	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.8	2.4	4.1	底面に指頭押圧痕
86	18-270	土師質土器・環	雲母, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	7.9	2.2	3.8	底面に指頭押圧痕
87	18-412	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	不良	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	7層	7.9	2.3	3.8	底面に指頭押圧痕
88	18-139	土師質土器・環	長石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ	T1803	7層	(9.5)	2.8	5.2	底面に指頭押圧痕
89	18-169	土師質土器・環	角閃石, 1~4mm程の砂粒	やや不良	橙/浅黄橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(8.6)	2.9	5.0	底面に指頭押圧痕

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	器面調整 (内面/外面)	調査 地点	法量 (cm)		備考		
								口径	器高			
90	18-325	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~5mm程の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	8.8	2.6	4.7	
91	18-429	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	8.9	2.6	5.2	底面に指頭押圧痕
92	18-140	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1mm程の砂粒	やや不良	浅黄橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.0	2.7	5.0	
93	18-183	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.0	2.7	4.9	
94	18-312	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	7層	9.0	2.7	4.6	
95	18-300	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.0)	2.8	4.8	底面に指頭押圧痕
96	18-421	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(9.0)	2.6	4.8	
97	18-486	土師質土器・環	1~3mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(9.0)	2.6	4.6	
98	18-556	土師質土器・環	雲母, 1~6mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.0)	2.6	5.0	底面に指頭押圧痕
99	18-158	土師質土器・環	角閃石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.1	2.9	5.1	底面に指頭押圧痕
100	18-162	土師質土器・環	雲母, 1~4mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.1	2.9	4.9	底面に指頭押圧痕
101	18-164	土師質土器・環	角閃石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.1	2.5	5.0	底面に指頭押圧痕
102	18-181	土師質土器・環	雲母, 長石, 1mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.1	2.7	4.8	底面に指頭押圧痕
103	18-269	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.1	2.8	5.2	底面に指頭押圧痕
104	18-358	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.1)	2.9	4.6	
105	18-420	土師質土器・環	雲母, 長石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.1	2.9	4.8	底面に指頭押圧痕
106	18-159	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.2	2.9	4.8	底面に指頭押圧痕
107	18-165	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.2)	2.8	5.3	底面に指頭押圧痕
108	18-217	土師質土器・環	石英, 長石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.2)	2.9	5.3	底面に指頭押圧痕
109	18-216	土師質土器・環	雲母, 長石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.2)	2.6	5.0	底面に指頭押圧痕
110	18-235	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.2)	2.6	5.0	底面に指頭押圧痕
111	18-247	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	7層	9.2	2.7	5.6	
112	18-249	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.2	2.8	4.8	底面に指頭押圧痕
113	18-297	土師質土器・環	雲母, 1~5mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(9.2)	2.3	5.0	底面に指頭押圧痕
114	18-335	土師質土器・環	角閃石, 雲母, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.2	2.8	5.1	
115	18-360	土師質土器・環	雲母, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.2)	2.8	5.0	底面に指頭押圧痕
116	18-354	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 石英, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.2)	2.8	4.2	底面に指頭押圧痕
117	18-365	土師質土器・環	雲母, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.2)	2.8	4.6	底面に指頭押圧痕
118	18-387	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.2)	2.8	4.8	底面に指頭押圧痕
119	18-414	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.2	2.6	4.8	底面に指頭押圧痕
120	18-527	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/浅黄橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	7層	9.2	2.6	5.3	
121	18-163	土師質土器・環	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/浅黄橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.3	2.5	5.0	底面に指頭押圧痕
122	18-256	土師質土器・環	雲母, 長石, 1~4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	9.3	2.7	4.8	底面に指頭押圧痕
123	18-263	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	9.3	2.5	4.2	
124	18-311	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.3	2.5	5.0	底面に指頭押圧痕
125	18-430	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.3)	2.7	4.8	底面に指頭押圧痕
126	18-500	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	9.3	2.7	4.6	
127	18-171	土師質土器・環	角閃石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	7層	9.4	2.7	4.7	底面に指頭押圧痕
128	18-182	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	9.4	2.7	4.8	底面に指頭押圧痕
129	18-184	土師質土器・環	雲母, 長石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.4	2.8	5.0	底面に指頭押圧痕
130	18-208	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(9.4)	2.7	4.7	
131	18-234	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(9.4)	2.5	5.0	底面に指頭押圧痕
132	18-236	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 石英, 1~6mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.4)	2.6	5.0	底面に指頭押圧痕
133	18-313	土師質土器・環	雲母, 長石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.4	2.7	4.6	底面に指頭押圧痕
134	18-314	土師質土器・環	雲母, 長石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.4	2.9	5.0	底面に指頭押圧痕
135	18-353	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	9.4	2.7	4.8	底面に指頭押圧痕

挿図 番号	実測 番号	器 種	胎	土	焼成	色調 (内面/外面)	器面調整 (内面/外面)	調査 地点	層位	法 量 (cm)		備 考	
										口径	器高 底径		
136	18-367	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(9.4)	2.6	5.4	底面に指頭押圧痕
137	18-431	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.4)	2.4	4.8	底面に指頭押圧痕
138	18-439	土師質土器・環	角閃石, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(9.4)	2.9	4.8	
139	18-478	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	良好	浅黄橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.4)	2.7	5.1	底面に指頭押圧痕
140	18-180	土師質土器・環	角閃石, 石英, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	やや不良	にぶい橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.5	2.5	5.6	
141	18-198	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(9.5)	2.5	4.9	底面に指頭押圧痕
142	18-239	土師質土器・環	雲母, 長石, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.5	2.3	4.6	底面に指頭押圧痕
143	18-248	土師質土器・環	雲母, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.5	2.7	5.0	底面に指頭押圧痕
144	18-326	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.5)	2.7	4.6	底面に指頭押圧痕
145	18-377	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.5	2.8	4.6	底面に指頭押圧痕
146	18-47	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.6	2.7	4.9	底面に指頭押圧痕
147	18-231	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(9.6)	2.6	5.0	底面に指頭押圧痕
148	18-257	土師質土器・環	角閃石, 1~3mm程の砂粒	1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	9.6	2.6	4.8	底面に指頭押圧痕
149	18-282	土師質土器・環	雲母, 長石, 1~3mm程の砂粒	1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.6)	3.2	5.3	底面に指頭押圧痕
150	18-283	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.6)	2.6	5.0	底面に指頭押圧痕
151	18-289	土師質土器・環	角閃石, 石英, 1~4mm程の砂粒	1~4mm程の砂粒	良好	橙/にぶい橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.6	2.7	5.4	底面に指頭押圧痕
152	18-333	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.6	2.6	4.9	底面に指頭押圧痕
153	18-364	土師質土器・環	雲母, 長石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.6	2.5	4.9	底面に指頭押圧痕
154	18-368	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.6)	2.7	5.0	底面に指頭押圧痕
155	18-400	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.6)	2.7	5.0	底面に指頭押圧痕
156	18-410	土師質土器・環	雲母, 長石, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.6)	2.8	4.8	底面に指頭押圧痕
157	18-419	土師質土器・環	角閃石, 1~3mm程の砂粒	1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.6	2.7	5.0	底面に指頭押圧痕
158	18-461	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.6)	2.7	5.0	底面に指頭押圧痕
159	18-531	土師質土器・環	角閃石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ	T1803	7層	9.6	2.7	5.0	底面に指頭押圧痕
160	18-534	土師質土器・環	雲母, 石英, 1~5mm程の砂粒	1~5mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(9.6)	2.7	4.6	
161	18-173	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~4mm程の砂粒	1~4mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(9.7)	2.6	4.5	底面に指頭押圧痕
162	18-175	土師質土器・環	雲母, 長石, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.7)	3.0	4.9	底面に指頭押圧痕
163	18-175	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ	T1803	7層	9.7	2.9	4.7	底面に指頭押圧痕
164	18-211	土師質土器・環	角閃石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	良好	浅黄橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.7	2.9	5.2	
165	18-222	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.7	2.7	4.9	底面に指頭押圧痕
166	18-352	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.7	2.8	4.6	底面に指頭押圧痕
167	18-379	土師質土器・環	角閃石, 1~3mm程の砂粒	1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.7	2.8	5.1	底面に指頭押圧痕
168	18-391	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~4mm程の砂粒	1~4mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.7	2.6	5.0	底面に指頭押圧痕
169	18-564	土師質土器・環	雲母, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(9.7)	2.5	4.8	底面に指頭押圧痕
170	18-177	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.8	2.6	5.1	底面に指頭押圧痕
171	18-255	土師質土器・環	1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	9.8	2.6	4.8	底面に指頭押圧痕
172	18-436	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	9.8	2.9	4.8	底面に指頭押圧痕
173	18-179	土師質土器・環	角閃石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	不良	浅黄橙/浅黄橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(9.9)	2.4	5.1	底面に指頭押圧痕
174	18-168	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(10.0)	2.7	4.6	底面に指頭押圧痕
175	18-224	土師質土器・環	1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	やや不良	浅黄橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	10.0	2.7	6.0	
176	18-266	土師質土器・環	1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	10.0	2.4	5.4	
177	18-411	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 石英, 長石, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	10.0	2.4	4.9	底面に指頭押圧痕
178	18-491	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	(10.0)	2.6	4.8	底面に指頭押圧痕
179	18-265	土師質土器・環	角閃石, 1mm程の砂粒	1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	7層	10.1	2.7	4.8	底面に指頭押圧痕
180	18-559	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	1~2mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	7層	(10.4)	2.5	5.0	底面に指頭押圧痕

挿図 番号	実測 番号	器 種	胎 土	焼成	色調(内面/外面)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	層位	法 口径	量(cm) 器高	底径	備 考
181	18-587	瓦質土器・擂鉢	1mm程の砂粒	良好	灰/灰	ナデ、擂目/ケズリ、ユビオサエ、ナデ	T1803	7層	残4.4	残4.4	(16.4)	
182	18-592	瓦質土器・擂鉢	1mm程の砂粒	良好	灰/灰	ナデ、擂目/ケズリ、ユビオサエ、ナデ	T1803	5層	残5.6	残5.6		

S D 02 (陶磁器) ※層位はT1803西壁の土層

挿図 番号	実測 番号	器 種	胎 土	焼成	色調(釉薬/胎土)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	層位	法 口径	量(cm) 器高	底径	備 考
183	18-590	白磁・碗	緻密	やや不良	灰白/灰白	施釉/ロクロケズリ、施釉	T1803	5層	残1.6	残1.6	(4.8)	中国製
184	18-591	白磁・碗	緻密	良好	灰白/灰白	施釉/施釉	T1803	5層	(11.8)	5.7	(5.0)	肥前系

S D 02 (瓦) ※層位はT1803西壁の土層

挿図 番号	実測 番号	器 種	胎 土	焼成	色調(内面/外面)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	層位	法 高さ	量(cm) 厚さ	瓦当径	備 考
185	18-588	軒丸瓦	1～2mm程の砂粒	やや不良	灰/灰	ナデ/ナデ	T1803	7層	残8.4	2.2	(16.0)	文様：三ツ巴文

S D 02 (石製品) ※層位はT1803西壁の土層

挿図 番号	実測 番号	種 類	石 材	部位	刻字(梵字)	調査 地点	層位	寸 高さ	法 高さ	最大幅	備 考
186	18-石9	五輪塔	阿蘇溶結凝灰岩	空風輪	-	T1803	8層	30.5	17.5		
187	18-石7	五輪塔	阿蘇溶結凝灰岩	空風輪	-	T1803	8層	26.9	19.8		
188	18-石6	五輪塔	阿蘇溶結凝灰岩	空風輪	-	T1803	8層	27.2	19.3		
189	18-石5	五輪塔	阿蘇溶結凝灰岩	空風輪	-	T1803	8層	残27.1	23.3		
190	18-石3	五輪塔	阿蘇溶結凝灰岩	空輪	-	T1803	8層	残8.2	-		
191	18-石12	五輪塔	阿蘇溶結凝灰岩	空風輪	-	T1803	8層	22.5	17.9		
192	18-石4	宝篋印塔	阿蘇溶結凝灰岩	相輪	-	T1803	8層	残17.5	8.5		
193	18-石1	宝篋印塔	阿蘇溶結凝灰岩	相輪	-	T1803	8層	残19.0	11.5		
194	18-石8	宝篋印塔	阿蘇溶結凝灰岩	相輪	-	T1803	8層	残33.0	12.5		
195	18-石2	五輪塔	阿蘇溶結凝灰岩	水輪	バン・バク・バ・バー	T1803	8層	24.9	38.0		

S D 02 (S X 01) ※層位はT1803 a - a'の土層

挿図 番号	実測 番号	器 種	胎 土	焼成	色調(内面/外面)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	層位	法 口径	量(cm) 器高	底径	備 考
196	18-1	土師質土器・坏	石英、長石、1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ、底部糸切り離し	T1803	1層上層	6.4	2.3	3.6	
197	18-3	土師質土器・坏	角閃石、長石、1～2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ、底部糸切り離し	T1803	1層上層	6.4	2.2	3.6	底面に指頭押圧痕
198	18-77	土師質土器・坏	角閃石、1～4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ、底部糸切り離し	T1803	1層上層	(6.4)	2.0	3.6	
199	18-101	土師質土器・坏	角閃石、1～2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ、底部糸切り離し	T1803	1層上層	(6.4)	1.9	3.6	
200	18-470	土師質土器・坏	雲母、角閃石、1mm程の砂粒	不良	橙/橙	回転ナデ/摩擦のため不明	T1803	1層下層	6.4	2.2	3.5	
201	18-509	土師質土器・坏	1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ、底部糸切り離し	T1803	1層下層	6.4	2.1	3.5	底面に指頭押圧痕
202	18-19	土師質土器・坏	角閃石、1～2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層上層	6.5	2.2	3.5	
203	18-151	土師質土器・坏	雲母、角閃石、1～4mm程の砂粒	良好	浅黄橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ、底部糸切り離し	T1803	2層	6.5	2.1	3.5	底面に指頭押圧痕
204	18-21	土師質土器・坏	角閃石、1～2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ、底部糸切り離し	T1803	1層上層	6.6	2.1	3.6	底面に指頭押圧痕
205	18-91	土師質土器・坏	1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	2層	6.6	1.8	3.7	
206	18-20	土師質土器・坏	角閃石、1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ、底部糸切り離し	T1803	1層上層	6.7	2.1	3.3	底面に指頭押圧痕
207	18-100	土師質土器・坏	雲母、角閃石、1～2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ、底部糸切り離し	T1803	1層上層	(6.7)	2.1	3.5	底面に指頭押圧痕

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	器面調整 (内面/外面)	調査 地点	層位	法量 (cm)		備考	
									口径	器高 底径		
208	18-104	土師質土器・坏	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	6.7	2.2	3.6	底面に指頭押圧痕
209	18-106	土師質土器・坏	1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層上層	6.7	2.1	3.7	底面に指頭押圧痕
210	18-125	土師質土器・坏	雲母, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	6.7	2.9	3.6	
211	18-126	土師質土器・坏	角閃石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	6.7	2.1	3.5	
212	18-251	土師質土器・坏	1mm程の砂粒	良好	浅黄橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	6.7	1.9	4.6	底面に指頭押圧痕
213	18-443	土師質土器・坏	角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	(6.7)	2.3	3.6	
214	18-523	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	6.7	2.2	3.6	
215	18-565	土師質土器・坏	角閃石, 1mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層下層	(6.7)	1.6	4.2	
216	18-94	土師質土器・坏	石英, 1mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ?, 底部糸切り離し	T1803	2層	6.7	2.1	3.7	底面に指頭押圧痕
217	18-154	土師質土器・坏	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	2層	6.7	2.1	3.5	
218	18-204	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	2層	6.7	1.8	3.8	
219	18-13	土師質土器・坏	長石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 摩擦のため不明	T1803	1層上層	(6.8)	1.9	3.9	
220	18-64	土師質土器・坏	雲母, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩擦のため不明	T1803	1層上層	(6.8)	2.0	4.0	内面に炭化物付着
221	18-66	土師質土器・坏	角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(6.8)	2.4	3.6	
222	18-449	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩擦のため不明	T1803	1層下層	6.9	2.2	3.6	底面に指頭押圧痕
223	18-521	土師質土器・坏	角閃石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	6.8	2.2	3.7	底面に指頭押圧痕
224	18-522	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/にぶい橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	6.8	2.2	3.9	
225	18-201	土師質土器・坏	雲母, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	2層	(6.9)	1.9	3.7	底面に指頭押圧痕
226	18-205	土師質土器・坏	角閃石, 1~4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	2層	6.9	2.1	3.8	
227	18-60	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層上層	(7.0)	2.1	4.0	
228	18-70	土師質土器・坏	角閃石, 雲母, 石英, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	7.0	2.2	3.4	底面に指頭押圧痕
229	18-98	土師質土器・坏	角閃石, 雲母, 1~4mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ	T1803	2層	7.0	1.9	3.4	
230	18-99	土師質土器・坏	角閃石, 石英, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	2層	(7.0)	2.2	3.6	
231	18-102	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(7.0)	2.1	4.1	
232	18-498	土師質土器・坏	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	(7.0)	2.0	4.0	
233	18-510	土師質土器・坏	角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ	T1803	1層下層	7.0	2.1	3.8	
234	18-4	土師質土器・坏	長石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	7.2	2.3	3.6	底面に指頭押圧痕
235	18-63	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩擦のため不明	T1803	1層上層	(7.2)	2.2	4.0	
236	18-153	土師質土器・坏	角閃石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	2層	7.2	2.1	4.0	底面に指頭押圧痕
237	18-456	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	7.2	2.3	3.8	底面に指頭押圧痕
238	18-71	土師質土器・坏	1~5mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層上層	7.3	2.3	3.8	
239	18-474	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	(7.3)	2.2	3.8	底面に指頭押圧痕
240	18-494	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1~4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	(7.3)	2.0	3.6	底面に指頭押圧痕
241	18-536	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1~4mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	7.3	2.0	3.6	底面に指頭押圧痕
242	18-6	土師質土器・坏	石英, 長石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	7.4	2.4	4.1	底面に指頭押圧痕
243	18-49	土師質土器・坏	雲母, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ?/回転ナデ?, 底部糸切り離し	T1803	2層	(7.4)	2.1	3.8	
244	18-59	土師質土器・坏	角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(7.4)	2.3	4.0	
245	18-75	土師質土器・坏	石英, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ?, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(7.4)	2.3	4.0	底面に指頭押圧痕
246	18-118	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/浅黄橙	回転ナデ/摩擦のため不明	T1803	1層上層	7.4	2.4	3.8	
247	18-14	土師質土器・坏	1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ	T1803	1層上層	(7.5)	2.3	3.9	内面に炭化物着底面に指頭押圧痕
248	18-496	土師質土器・坏	1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層下層	7.5	2.3	3.8	底面に指頭押圧痕
249	18-506	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ	T1803	1層下層	7.5	2.5	4.0	底面に指頭押圧痕
250	18-67	土師質土器・坏	雲母, 石英, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(7.6)	2.4	4.0	底面に指頭押圧痕

構図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調(内面/外面)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	法量(cm)			備考	
								口径	器高	底径		
251	18-117	土師質土器・坏	雲母, 長石, 1~5mm程の砂粒	やや不良	橙/浅黄橙	摩耗のため不明/回転ナデ?, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	8.9	2.8	5.3	底面に指頭押圧痕
252	18-441	土師質土器・坏	長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	(8.9)	2.6	4.8	底面に指頭押圧痕
253	18-457	土師質土器・坏	雲母, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	8.9	2.6	4.4	
254	18-459	土師質土器・坏	雲母, 1~5mm程の砂粒	やや不良	橙/にぶい橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	8.9	2.8	4.7	底面に指頭押圧痕
255	18-524	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1~4mm程の砂粒	やや不良	灰黄褐/にぶい黄橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	(8.9)	2.5	4.6	底面に指頭押圧痕
256	18-17	土師質土器・坏	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.0	2.5	5.2	底面に指頭押圧痕
257	18-24	土師質土器・坏	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.0)	2.8	5.0	底面に指頭押圧痕
258	18-31	土師質土器・坏	長石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.0	2.6	4.8	底面に指頭押圧痕
259	18-39	土師質土器・坏	雲母, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.1	2.7	4.9	底面に指頭押圧痕
260	18-41	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 石英, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	2層	(9.1)	2.7	5.1	
261	18-115	土師質土器・坏	1~4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層上層	9.1	2.9	5.0	底面に指頭押圧痕
262	18-130	土師質土器・坏	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.1	2.7	4.8	底面に指頭押圧痕
263	18-15	土師質土器・坏	角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.2)	2.8	5.0	底面に指頭押圧痕, 炭化物附着
264	18-26	土師質土器・坏	1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.2)	2.9	4.8	
265	18-55	土師質土器・坏	角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層上層	9.2	2.7	5.0	底面に指頭押圧痕
266	18-87	土師質土器・坏	雲母, 石英, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.2	2.5	4.6	底面に指頭押圧痕
267	18-136	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.2)	2.8	5.0	底面に指頭押圧痕
268	18-499	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	9.2	2.8	4.6	
269	18-514	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	(9.2)	3.0	5.1	底面に指頭押圧痕
270	18-547	土師質土器・坏	雲母, 1~4mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	(9.2)	2.7	4.6	底面に指頭押圧痕
271	18-550	土師質土器・坏	雲母, 1~4mm程の砂粒	不良	橙/にぶい橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層下層	(9.2)	2.8	4.8	底面に指頭押圧痕
272	18-576	土師質土器・坏	雲母, 1~2mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層下層	(9.2)	2.9	4.5	底面に指頭押圧痕
273	18-8	土師質土器・坏	角閃石, 長石, 1~4mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.3	2.5	5.0	
274	18-43	土師質土器・坏	角閃石, 1~4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	2層	(9.3)	2.6	4.7	底面に指頭押圧痕
275	18-53	土師質土器・坏	角閃石, 1~2mm程の砂粒	不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ?, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.3	2.6	4.8	底面に指頭押圧痕
276	18-85	土師質土器・坏	雲母, 長石, 1~4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.3)	2.6	4.8	底面に指頭押圧痕
277	18-110	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.3	2.9	4.9	
278	18-146	土師質土器・坏	角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	2層	9.3	2.6	4.8	底面に指頭押圧痕
279	18-148	土師質土器・坏	1mm程の砂粒	やや不良	橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	2層	9.3	2.9	5.0	
280	18-525	土師質土器・坏	角閃石, 石英, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	9.3	2.6	5.0	底面に指頭押圧痕
281	18-544	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	9.3	2.7	5.0	底面に指頭押圧痕
282	18-553	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	9.3	2.7	4.8	底面に指頭押圧痕
283	18-562	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	(9.3)	2.3	4.8	底面に指頭押圧痕
284	18-574	土師質土器・坏	角閃石, 1mm程の砂粒	やや不良	にぶい橙/にぶい橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	9.3	2.9	5.6	
285	18-25	土師質土器・坏	長石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.4	2.7	4.7	底面に指頭押圧痕
286	18-34	土師質土器・坏	雲母, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.4)	2.5	5.0	底面に指頭押圧痕
287	18-42	土師質土器・坏	角閃石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/浅黄橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	2層	9.4	2.9	5.7	
288	18-46	土師質土器・坏	1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	2層	(9.4)	2.1	4.9	底面に指頭押圧痕
289	18-48	土師質土器・坏	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	2層	(9.4)	2.9	4.9	底面に指頭押圧痕
290	18-50	土師質土器・坏	角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.4	2.8	4.8	
291	18-52	土師質土器・坏	1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.4	2.8	4.8	底面に指頭押圧痕
292	18-56	土師質土器・坏	雲母, 長石, 1~4mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層上層	9.4	2.5	5.2	底面に指頭押圧痕
293	18-57	土師質土器・坏	角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.4)	2.9	5.0	

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	器面調整 (内面/外面)	調査 地点	層位	法量 (cm)		備考	
									口径	器高 底径		
294	18-81	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ? / 回転ナデ?, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.4)	3.0	5.2	底面に指頭押圧痕
295	18-119	土師質土器・環	石英, 長石, 1~4mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.4	2.4	4.9	
296	18-129	土師質土器・環	長石, 1mm未満の砂粒	良好	橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.4	2.4	5.0	底面に指頭押圧痕
297	18-141	土師質土器・環	雲母, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/黄橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	2層	9.4	2.7	5.0	底面に指頭押圧痕
298	18-149	土師質土器・環	雲母, 長石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	2層	9.4	2.8	5.0	底面に指頭押圧痕
299	18-458	土師質土器・環	雲母, 長石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ	T1803	1層下層	9.4	2.9	4.7	
300	18-503	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	9.4	2.5	4.8	底面に指頭押圧痕
301	18-515	土師質土器・環	1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/にぶい橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層下層	(9.4)	2.6	4.6	底面に指頭押圧痕
302	18-540	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層下層	(9.4)	2.6	4.6	底面に指頭押圧痕
303	18-566	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	(9.4)	2.6	4.6	底面に指頭押圧痕
304	18-5	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.5	2.7	5.2	底面に指頭押圧痕
305	18-12	土師質土器・環	1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層上層	(9.5)	2.4	5.0	底面に指頭押圧痕
306	18-40	土師質土器・環	長石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ	T1803	1層上層	9.5	2.5	4.9	底面に指頭押圧痕
307	18-45	土師質土器・環	角閃石, 1mm以下の砂粒	やや不良	浅黄橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	2層	(9.5)	2.8	4.9	
308	18-54	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~5mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層上層	9.5	2.7	5.0	底面に指頭押圧痕
309	18-83	土師質土器・環	石英, 長石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層上層	(9.5)	2.5	5.4	底面に指頭押圧痕
310	18-94	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	2層	9.5	2.6	4.6	
311	18-96	土師質土器・環	雲母, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	2層	9.5	2.6	4.4	底面に指頭押圧痕
312	18-109	土師質土器・環	雲母, 石英, 長石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層上層	9.5	2.7	4.8	底面に指頭押圧痕
313	18-112	土師質土器・環	長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.5	2.7	4.8	底面に指頭押圧痕
314	18-128	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.5)	2.9	5.1	底面に指頭押圧痕
315	18-131	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.5	2.8	5.1	底面に指頭押圧痕
316	18-133	土師質土器・環	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.5	2.8	4.8	底面に指頭押圧痕
317	18-147	土師質土器・環	角閃石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	2層	9.5	2.8	5.2	底面に指頭押圧痕
318	18-250	土師質土器・環	雲母, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	2層	(9.5)	2.7	4.6	
319	18-453	土師質土器・環	雲母, 1~3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	1層下層	9.5	2.5	5.4	底面に指頭押圧痕
320	18-502	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層下層	(9.5)	2.9	4.6	
321	18-529	土師質土器・環	雲母, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層下層	(9.5)	2.4	4.8	底面に指頭押圧痕
322	18-554	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/にぶい橙/にぶい橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	1層下層	(9.5)	2.7	4.4	
323	18-558	土師質土器・環	角閃石, 石英, 長石, 1~3mm程の砂粒	不良	にぶい橙/にぶい橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	1層下層	9.5	2.7	5.2	
324	18-2	土師質土器・環	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.6	2.8	5.2	底面に指頭押圧痕
325	18-7	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	1層上層	(9.6)	2.4	5.0	底面に指頭押圧痕
326	18-10	土師質土器・環	長石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層上層	9.6	2.9	5.1	底面に指頭押圧痕
327	18-16	土師質土器・環	1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.6)	2.3	4.9	底面に指頭押圧痕
328	18-37	土師質土器・環	角閃石, 1~3mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	1層上層	(9.6)	2.5	5.3	
329	18-51	土師質土器・環	1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.6	2.9	5.1	底面に指頭押圧痕
330	18-72	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~5mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ? / 回転ナデ?, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.6)	2.9	5.0	底面に指頭押圧痕
331	18-86	土師質土器・環	雲母, 長石, 1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/摩耗のため不明	T1803	1層上層	(9.6)	2.5	4.8	底面に指頭押圧痕
332	18-135	土師質土器・環	角閃石, 1mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明	T1803	1層上層	9.6	2.7	4.3	底面に指頭押圧痕
333	18-137	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩耗のため不明/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.6	2.7	4.9	底面に指頭押圧痕
334	18-528	土師質土器・環	1~3mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩耗のため不明/摩耗のため不明, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	9.6	2.4	5.2	
335	18-541	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 石英, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層下層	(9.6)	2.6	4.8	底面に指頭押圧痕
336	18-9	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.7)	2.9	4.4	底面に指頭押圧痕
337	18-30	土師質土器・環	角閃石, 長石, 1~2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.7	3.1	5.0	底面に指頭押圧痕

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調(内面/外面)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	法量(cm)		備考		
								口径	器高			
338	18-44	土師質土器・環	1～4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	2層	9.7	2.7	4.7	底面に指頭押圧痕
339	18-113	土師質土器・環	雲母,長石,1～3mm程の砂粒	良好	橙/浅黄橙	摩擦のため不明/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.7	2.6	5.0	
340	18-121	土師質土器・環	石英,1～3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層上層	9.7	2.8	4.8	底面に指頭押圧痕
341	18-483	土師質土器・環	角閃石,1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層下層	(9.7)	2.5	4.6	底面に指頭押圧痕
342	18-539	土師質土器・環	雲母,角閃石,1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層下層	9.7	3.0	4.6	底面に指頭押圧痕
343	18-571	土師質土器・環	1～3mm程の砂粒	良好	浅黄橙/浅黄橙	回転ナデ/浅黄橙	T1803	1層下層	9.7	2.7	5.4	底面に指頭押圧痕
344	18-11	土師質土器・環	角閃石,長石,1～2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層上層	9.8	2.7	4.6	底面に指頭押圧痕
345	18-22	土師質土器・環	角閃石,1～2mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.8)	3.1	5.2	外面に2次焼成痕
346	18-32	土師質土器・環	角閃石,石英,長石,1～4mm程の砂粒	やや不良	浅黄橙/浅黄橙	回転ナデ/浅黄橙	T1803	1層上層	9.8	3.1	6.0	
347	18-33	土師質土器・環	雲母,角閃石,1mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.8)	2.4	5.2	
348	18-35	土師質土器・環	雲母,角閃石,石英,1～3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩擦のため不明	T1803	1層上層	(9.8)	2.5	4.6	底面に指頭押圧痕
349	18-36	土師質土器・環	雲母,角閃石,1～4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.8)	2.7	4.8	底面に指頭押圧痕
350	18-38	土師質土器・環	角閃石,1～4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.8)	2.2	5.0	底面に指頭押圧痕
351	18-79	土師質土器・環	雲母,角閃石,1～3mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層上層	(9.8)	2.5	4.8	内面に炭化物付着
352	18-89	土師質土器・環	雲母,角閃石,1mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層上層	9.8	2.7	4.6	
353	18-120	土師質土器・環	雲母,長石,1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.8)	2.7	4.9	底面に指頭押圧痕
354	18-482	土師質土器・環	雲母,角閃石,長石,1～3mm程の砂粒	良好	橙/浅黄橙	回転ナデ/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層下層	(9.8)	2.5	5.0	底面に指頭押圧痕
355	18-501	土師質土器・環	雲母,角閃石,1～2mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明,底部糸切り離し	T1803	1層下層	(9.8)	2.7	4.4	
356	18-555	土師質土器・環	雲母,角閃石,長石,1mm程の砂粒	不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層下層	(9.8)	2.5	4.7	底面に指頭押圧痕
357	18-27	土師質土器・環	長石,1～5mm程の砂粒	良好	にぶい橙/にぶい橙	回転ナデ/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層上層	(9.9)	2.7	4.8	内面に炭化附着,底面に指頭押圧痕
358	18-207	土師質土器・環	角閃石,石英,長石,1～2mm程の砂粒	やや不良	浅黄橙/浅黄橙	回転ナデ/浅黄橙	T1803	2層	9.9	2.9	6.2	
359	18-527	土師質土器・環	1～3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/摩擦のため不明	T1803	1層下層	(9.9)	2.9	4.9	底面に指頭押圧痕
360	18-18	土師質土器・環	石英,1～2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層上層	10.0	2.6	5.0	底面に指頭押圧痕
361	18-29	土師質土器・環	石英,1～2mm程の砂粒	不良	橙/浅黄橙	摩擦のため不明/底部糸切り離し	T1803	1層上層	10.0	2.9	5.4	
362	18-83	土師質土器・環	角閃石,石英,長石,1～2mm程の砂粒	不良	にぶい橙/にぶい橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層上層	10.0	2.6	5.6	
363	18-90	土師質土器・環	雲母,角閃石,1～2mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	2層	(10.0)	2.4	4.8	底面に指頭押圧痕
364	18-132	土師質土器・環	雲母,角閃石,1～3mm程の砂粒	良好	橙/橙	摩擦のため不明/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層上層	(10.0)	2.6	4.8	底面に指頭押圧痕
365	18-88	土師質土器・環	雲母,角閃石,長石,1～5mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層上層	(10.1)	2.7	5.0	底面に指頭押圧痕
366	18-568	土師質土器・環	角閃石,1～2mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	T1803	1層下層	10.2	2.6	4.8	
367	18-206	土師質土器・環	雲母,長石,1～4mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	2層	10.3	2.1	5.0	底面に指頭押圧痕
368	18-560	土師質土器・耳皿	角閃石,1～2mm程の砂粒	良好	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層下層	—	2.3	3.5	短径(5.6)cm
369	18-561	土師質土器・耳皿	雲母,角閃石,1mm程の砂粒	良好	橙/にぶい橙	回転ナデ/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	1層下層	—	2.4	3.2	長径(6.8)cm,短径(5.0)cm
370	18-586	土師質土器・羽釜	角閃石,長石,1～3mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	回転ナデ/回転ナデ,底部糸切り離し	T1803	2層	—	残9.0	—	
371	18-589	瓦質土器・楕鉢	角閃石,長石,1～2mm程の砂粒	良好	灰白/灰黄	ナデ,掘目/ケズリ,コビオサエ,ナデ	T1803	2層	(38.8)	12.4	(20.0)	

S D 03 ※層位はT1802西壁の土層

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調(内面/外面)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	法量(cm)		備考	
								口径	長さ		
372	18-594	輪の羽口	角閃石,石英,長石,1～3mm程の砂粒	良好	にぶい黄橙/明黄橙	ナデ/ナデ	T1802	7層	5.6	残7.5	

遺構外出土遺物 (T 1801)

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調 (釉薬/胎土)	器面調整 (内面/外面)	調査 地点	層位	法 量 (cm)		備 考	
									口径	器高 底径		
373	18-581	三彩・盤	緻密	やや不良	緑/にぶい黄橙	施文、施釉/施文、施釉	T1801	-	-	残2.7	-	中国製
374	18-580	白磁・小皿?	緻密	良好	灰白/灰黄	施釉/ロクケズリ、施釉	T1801	-	-	残1.0	3.2	中国製
375	18-578	青磁・皿	緻密	良好	明オリーブ灰/灰白	施釉/施文	T1801	-	-	残3.5	-	肥前系 (波佐見製)
376	18-579	染付・碗	緻密	良好	灰白/灰白	ヨコナデ/施釉	T1801	-	-	残5.0	-	肥前系
377	18-582	染付・碗	緻密	良好	灰白/灰	施釉/施文、施釉	T1801	-	-	残2.5	(4.0)	肥前系

遺構外出土遺物 (T 1802)

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調 (内面/外面)	器面調整 (内面/外面)	調査 地点	層位	法 量 (cm)		備 考	
									口径	器高 底径		
378	18-583	瓦質土器・羽釜	雲母, 1~2mm程の砂粒	良好	灰/浅灰	ナデ/ナデ	T1802	-	-	残5.5	-	

遺構外出土遺物 (T 1803)

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調 (陶磁器・釉薬/胎土・土器・内面/外面)	器面調整 (内面/外面)	調査 地点	層位	法 量 (cm)		備 考	
									口径	器高 底径		
379	18-583	鉄絵・皿	緻密	良好	灰オリーブ/灰、褐灰	施文、施釉/施釉	T1803	-	-	残2.4	(5.0)	肥前系
380	18-584	青磁・皿	緻密	良好	灰オリーブ/灰白	施文、施釉/施釉	T1803	-	-	残2.3	(7.0)	龍泉窯系
381	18-585	須恵器・壺	1mm程の砂粒	良好	灰/オリーブ黒	ナデ/ナデ	T1803	-	-	残5.0	(18.4)	

第4章 平成18年度(第19次)発掘調査

第1節 調査の概要

(1) 調査の概要 (図23・24)

千畳敷及び周辺地区(第2ブロック)の発掘調査は平成17年度で終了し、翌年度からは三城及び周辺地区(第3ブロック)の発掘調査に着手した。

当該地区については、1次調査において千畳敷から約150m西に位置する曲輪「三城」のほぼ全域に調査区(B地区)を設定し、発掘調査を行った結果、掘立柱建物跡(SB03～SB07)や門跡(SB08)、柵列跡(SA01)、導水状遺構(SD09)、溝跡(SD07・SD08)、道路状遺構(SX01)などを検出した。また、三城南側の帯曲輪にJ地区及びF地区を設定し、それぞれ2棟(SB09・SB10)と3棟(SB11～SB13)の掘立柱建物跡を検出している。ただし、この2つの調査区は、三城を圍繞するように配される帯曲輪のごく限られた範囲の調査であり、三城周辺において帯曲輪にどのような城郭関連施設が存在したのか不明確であった。

このことから、三城周辺の帯曲輪における遺構の配置状況を発掘調査で明らかにすることによって、宇土城跡全体における三城の曲輪としての機能や特徴などを明確にし、保存整備事業の内容に反映させる目的で、平成18年度から平成24年度にかけて計7次にわたる発掘調査を実施した。このうち、本書では平成18年度(19次調査)から平成20年度(21次調査)までの調査内容について報告する。

19次調査は、平成18(2006)年9月から同10月にかけて実施した。本調査の目的は、平成19年度より予定していた三城及び周辺地区(第3ブロック)の保存整備事業に伴う遺構確認を目的としたものである。三城南側や東側の帯曲輪などに計7ヶ所のトレンチを設定し、発掘調査を実施した。調査面積は、T1901:約70㎡、T1902:約43㎡、T1903:約15㎡、T1904:約43㎡、T1905:約4㎡、T1906:約4㎡、T1907:約4㎡の計183㎡である。

本調査では、1次調査で検出した導水状遺構SD09と道路状遺構SX01、溝跡SD07の配置状況を明らかにすることを目的に調査を実施した。

まず、SD09については、遺構の南端部の確認するために三城南側に隣接する切岸及び帯曲輪においてT1901を設定した。1次調査では、SD09の横断面形状から判断して木樋が存在した可能性があること、水溜め状遺構SK04を伴うことなどから、導水状遺構と報告されていたが、その南端部分がどのようなあり方を示すのかを明らかにすることにより、その性格について検討するための資料を得る必要があった。

調査の結果、三城南側直下の帯曲輪では、その存在を確認することはできなかった。この帯曲輪では1次調査において掘立柱建物跡SB07を検出しているが、この建物跡は三城南側の切岸から5m程しか離れていないことから、この地形は後世の開削に伴って形成されたのではなく、中世段階に形成され、ほぼ当時の地形を留めていると想定される。おそらく、SD09は三城南側帯曲輪には存在せず、三城南側切岸に開口していた可能性が高い。

また、1次調査検出の道路状遺構SX01に関しては、調査当時、三城に通じる古道として認識されていた遺構であるが、検出地点から南側部分の配置状況が不明確であったことから、T1902とT1903を設定して調査を実施した。その結果、両トレンチにおいてSX01に通じるとみられる道路状遺構を検出し

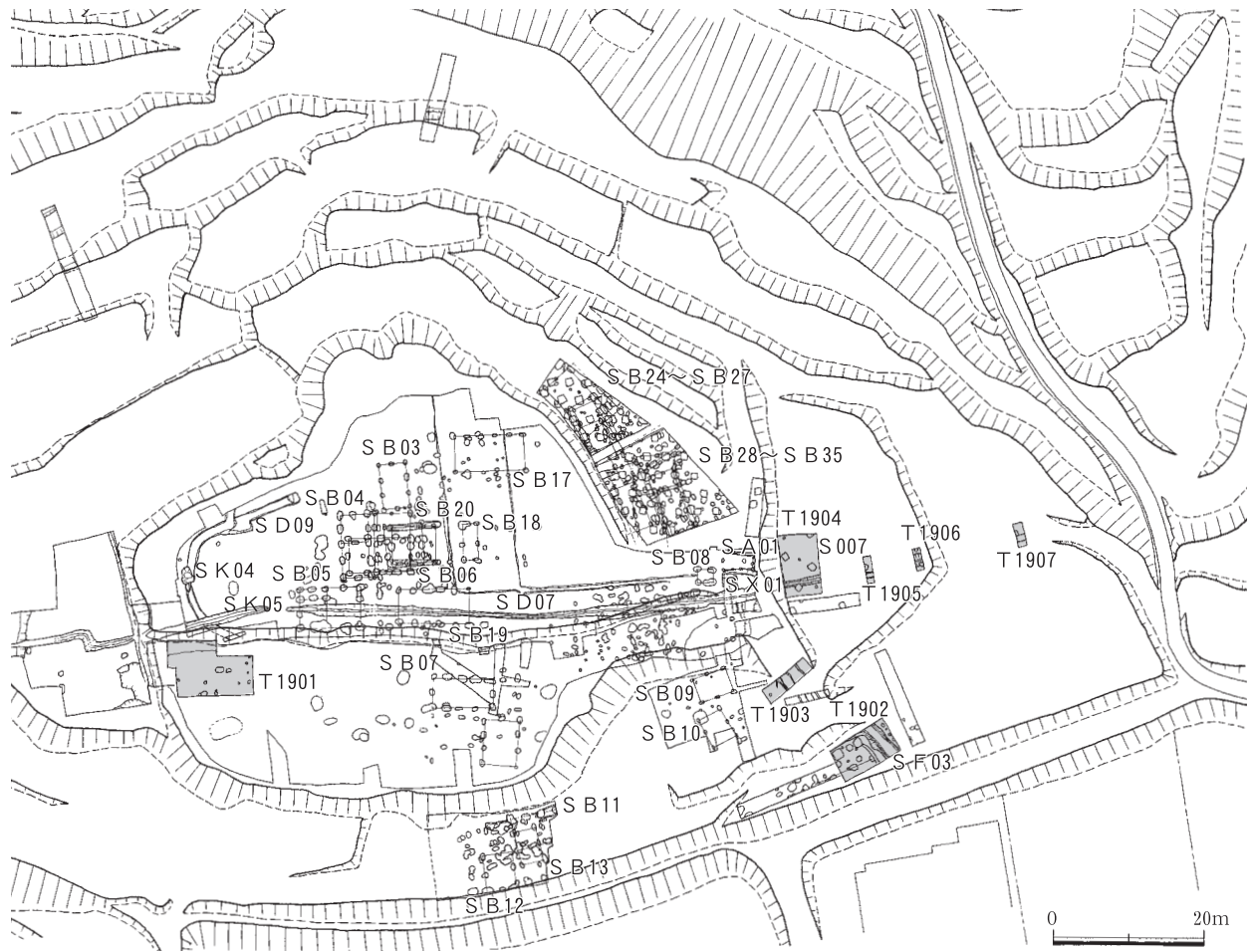


図23 19次調査区配置図 (1/1,000, アミ部分：19次調査区)

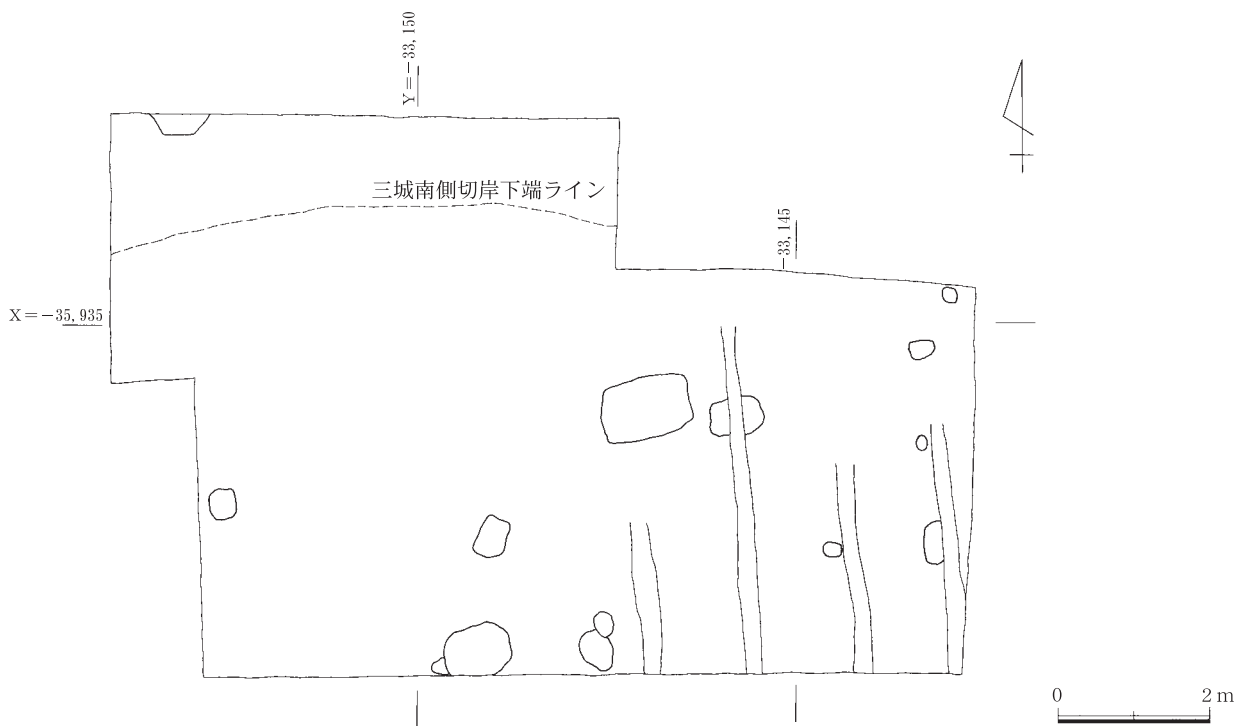


図24 T1901遺構配置図 (1/100)

た。なお、「道路状遺構」については、2001年刊行の『宇土城跡（西岡台）』Ⅳ（宇土市埋蔵文化財調査報告書第22集）以降、「SF」の略標記を用いていることから、これを踏襲し、19次調査検出の道路状遺構は「SF03」と標記する。

最後に、SD07については、三城南端に東西方向に延びており、1次調査における遺構の重複関係から判断して、三城の遺構群では最も新しい時期に位置づけられる。この遺構は三城へ向かうために必要な道路状遺構SF03(SX01)をも削平しており、保存整備の対象とする遺構を検討するうえで、その時期や性格を明確にする必要があった。このことから、三城東側の帯曲輪にT1904～T1907を設定し、調査を行った結果、地形とは無関係に東方向にさらに延びることを確認したことから、城郭として機能していた中世段階の遺構とは認定し難いとの知見が得られた。

以上の調査の結果、遺構埋土や遺構外より土師質土器の坏や瓦質土器の捏鉢や火鉢、青磁や白磁、染付などの中国製陶磁器などが出土した。

（２）調査日誌抄

平成18（2006）年

9月20日	調査前状況写真撮影。T1901～T1903の表土除去開始。	28日	T1902遺構検出状況写真撮影。
21日	T1904表土除去及び遺構検出作業開始。第1次調査で確認された溝跡SD07を検出。	10月3日	T1902でSF03に伴う硬化面を検出。道路として機能していた可能性が高いことが判明。
22日	T1904の遺構検出面において、バックホウで土地改変を受けた痕跡を確認。体験発掘の準備。	5日	T1902とT1904の遺構精査後、写真撮影。
23日	T1904遺構検出終了、遺構検出状況写真撮影。	11日	T1901とT1903の遺構精査後、写真撮影。
24日	宇土城跡第1回体験発掘（親子連れを中心に20名参加。翌日の熊本日日新聞に掲載）。	12日	T1903遺構掘り下げ状況写真撮影。SD07配置状況確認のため、T1905とT1906を設定。
26日	T1902で第1次調査において検出された道路状遺構SF03(SX01)とみられる遺構を検出。	13日	T1905・T1906でSD07を確認。
		16日	T1905・T1906の調査完了。両トレンチの写真撮影。
		31日	遺構配置図作成、土層断面実測作業終了

第2節 検出遺構

SF03（図25・26、図版9～11）

T1902で検出した北西－南東方向に主軸をもつ道路状遺構である。本遺構の配置状況や位置関係から、1次調査において検出した道路状遺構SX01と同一遺構とみられる。また、T1902で検出した道路状遺構についても、1次調査検出のSX01と近接しており、同一遺構と判断される。つまり、1次調査の見もあわせると、長さ約30m（未掘部分を含む）、高低差約6mにわたって三城へと通じる道路の存在が今回の調査でより明確になったといえる。

T1902における検出規模は、長さ約5.0m、幅約2.0～2.5m、底幅約1.4～1.5mで、緩やかに南東側へ下降している。路面両端に側溝を有しているが、東側では途中で消失している。西側の側溝は、土層断面の状況から掘り直されている可能性が高い。また、路面北側では削平されていたが、長さ約3.6m、幅約0.7～0.9mにわたって2層に分けられる硬化した土層を確認した。また、T1903における検出規模は、長さ約1.9m、幅1.1m以上で、西側に幅約0.2～0.3mの側溝SD13を確認した。

埋土より、土師質土器や瓦質土器、中国製陶磁器などが出土したが、小片のため瓦質土器の捏鉢・火鉢のみを図化した。

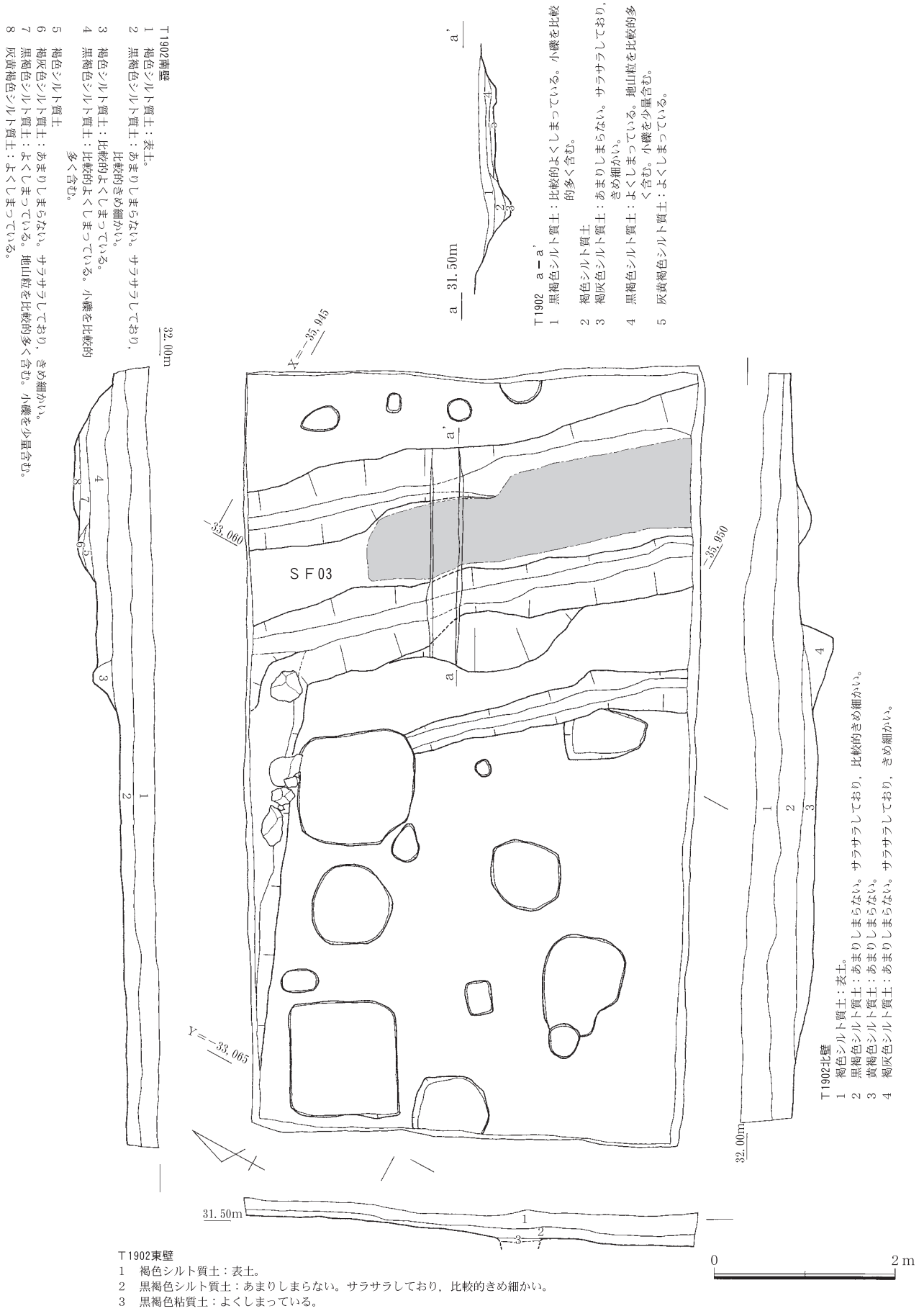


図25 T1902遺構配置図及び土層断面図（1/60，アミは硬化面の範囲）

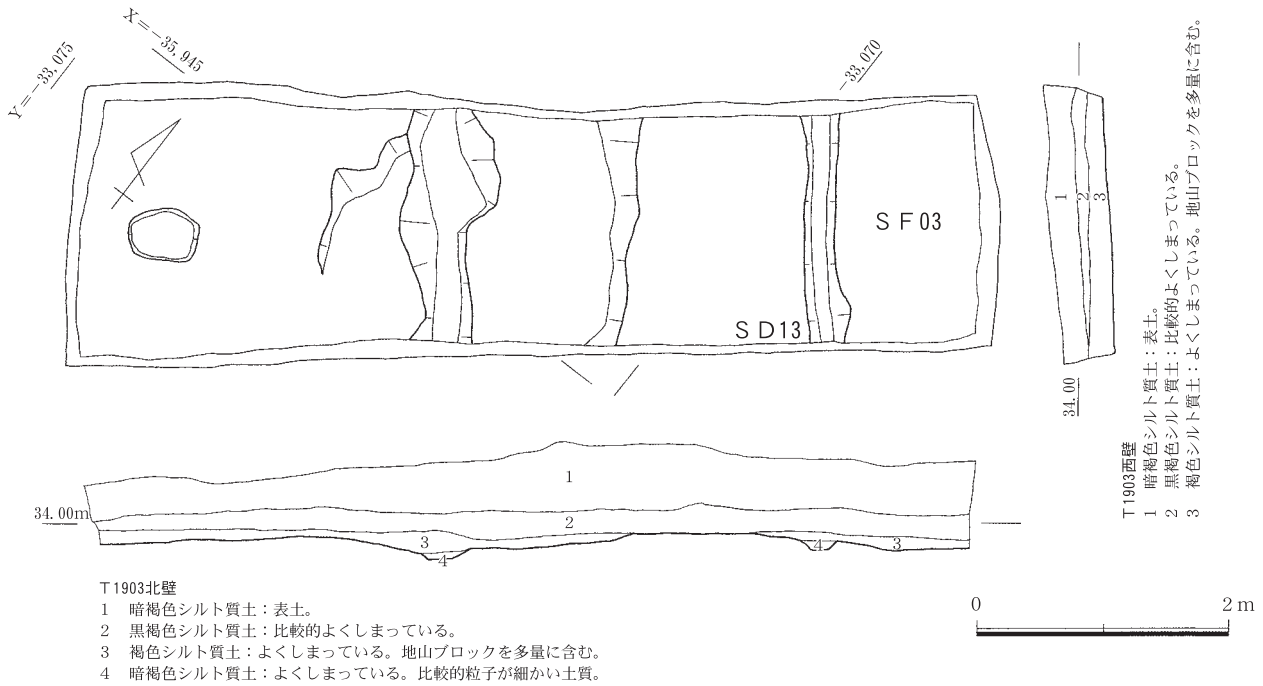


図26 T1903遺構配置図及び土層断面図 (1/60)

S D 07 (図27～30, 図版11・12)

三城南端に東西方向に配置される溝跡である。1次調査では、三城を横断するような状態で、幅約0.5～1.2m、深さ約0.3～1.1m、長さ約63mにわたって検出した。19次調査では、S D 07の延長線上である三城東側帯曲輪において、ある程度の距離をもって設定したT1904～T1907を設定し、調査した結果、S D 07と同じ延長方向で同規模の溝跡を検出した。このことから、これらのトレンチで検出した溝跡はS D 07と判断され、未掘部分を含めて長さ100m以上、高低差約10mにわたって三城及び周辺の帯曲輪を南北に分断するような状態で配置される溝跡であることが判明した。

T1904における検出規模は、長さ約4.8m、幅約0.7～1.0m、底幅約0.2～0.3m、深さ約0.3～0.5m。断面逆台形の箱堀状を呈し、傾斜角度は約70°である。底面は東に向かって緩やかに下降している。T1905とT1906の検出規模は、前者が長さ約0.8m、幅約0.9m、底幅約0.6～0.7m、深さ約0.2m、後者が長さ約1.0m、幅約1.6～1.9m、底幅約0.1～0.2m。T1906では、底面幅が狭く断面形状は薬研堀状を呈する。また、T1907では、長さ約1.0m、幅約0.7m。埋土の掘り下げは行っていない。

前述のとおり、三城へと通じる道路状遺構を分断するなど、城郭関連遺構や地形とは無関係に東西方向に配置される状況から、中世段階の城郭関連遺構とは考え難く、また、1次調査で17世紀初頭から前半にかけての唐津焼の皿が出土していることを考慮すれば、16世紀後半から末頃の廃城後に掘削された溝跡の可能性が高いと考えられる。

埋土より、土師質土器や瓦質土器、中国製陶磁器（青磁）などが出土したが、小片のため青磁碗のみを図化した。

第3節 出土遺物

S F 03 (図31, 表4, 図版12)

1・2は瓦質土器である。1は底部が残存する捏鉢で、内面はナデ、外面は格子目状のタタキを施す。

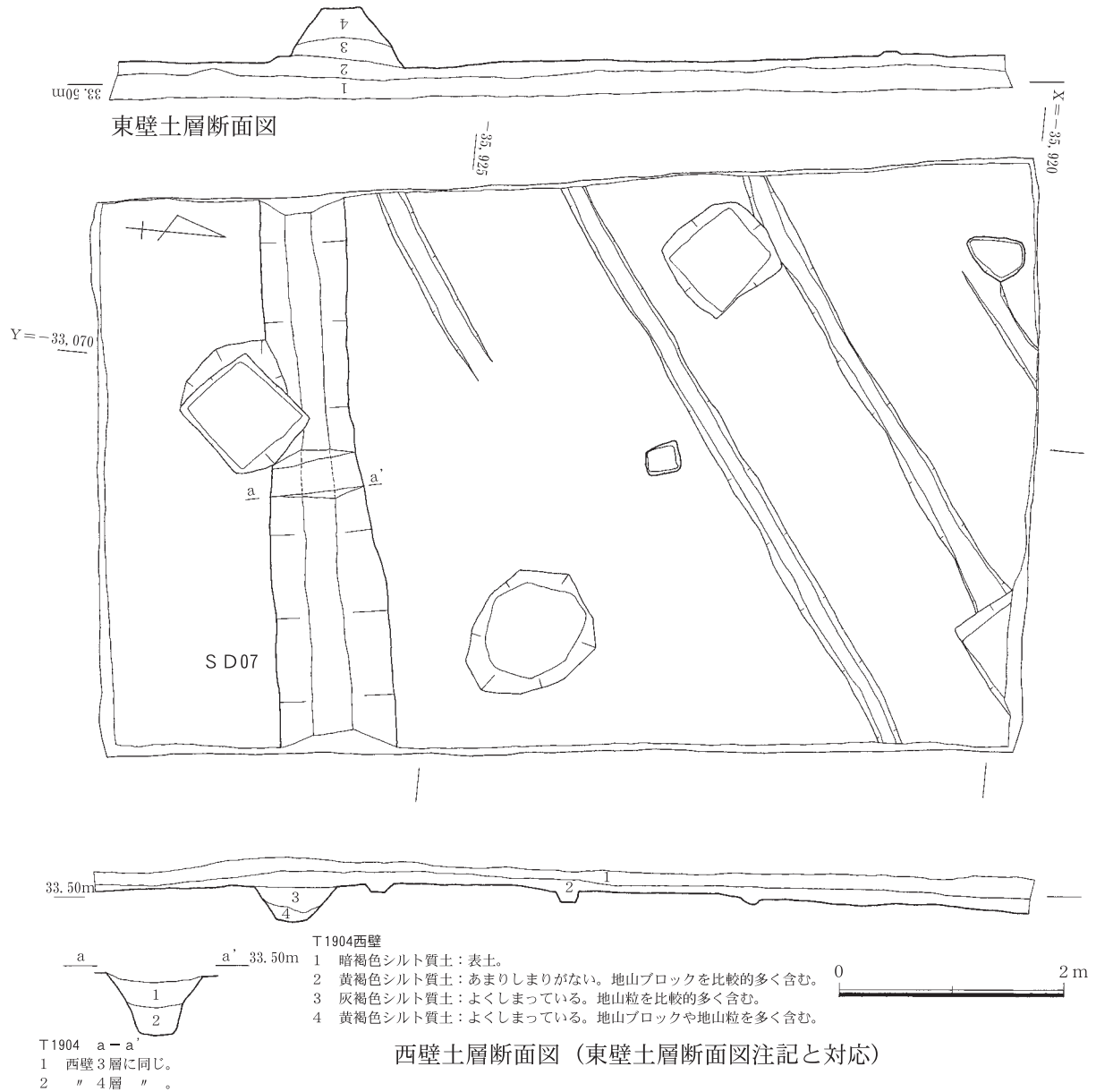
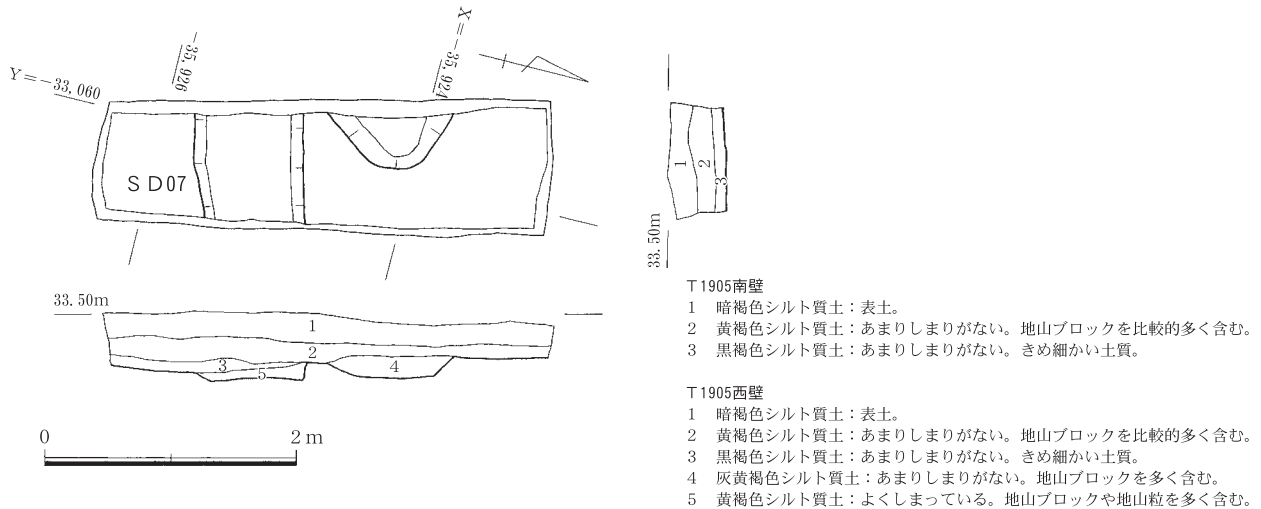


図27 T1904遺構配置図及び土層断面図（1/60）



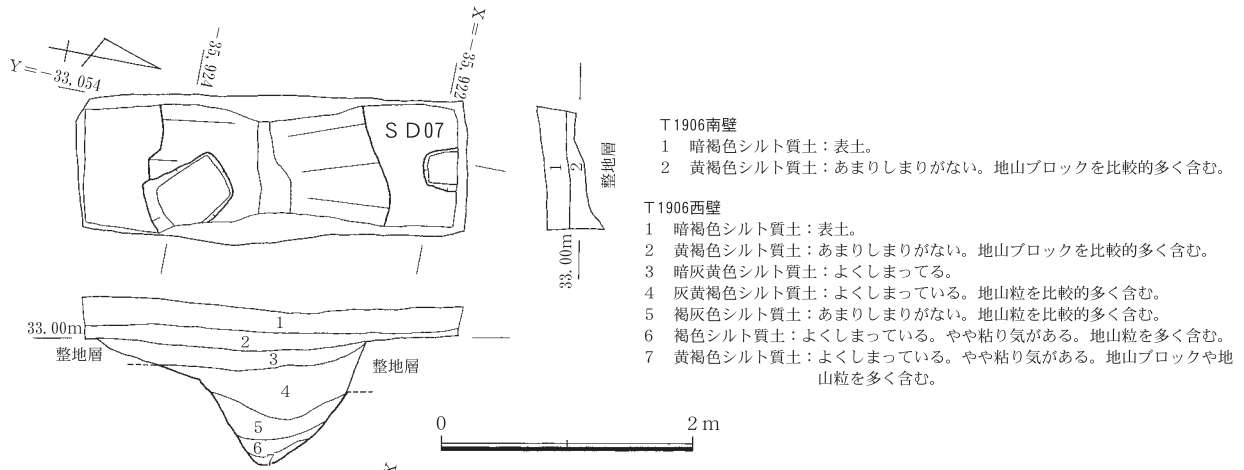


図29 T1906遺構配置図及び土層断面図 (1/60)

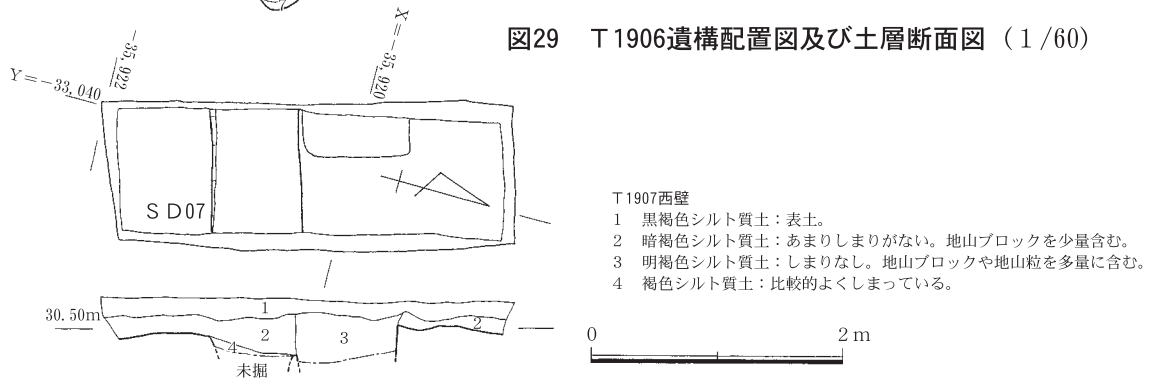


図30 T1907遺構配置図及び土層断面図 (1/60)

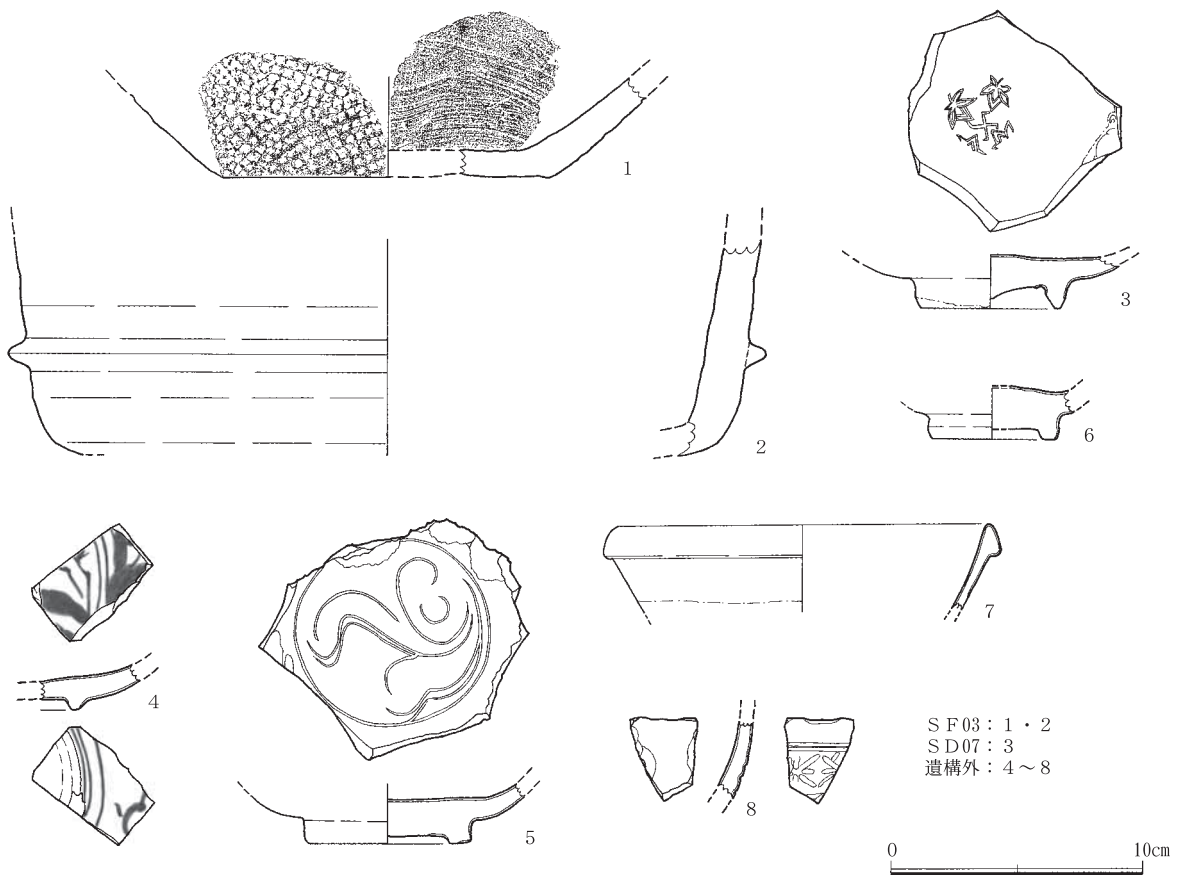


図31 19次調査出土遺物 (1/3)

2は体部下半から底部が残存する火鉢で、底部外面に突帯をめぐらせる。

S D 07 (図31, 表4, 図版12)

3は14世紀から15世紀前半にかけての龍泉窯系青磁の碗である。底部のみが残存し、高台内は露胎で、見込みに劃花文を施す。

遺構外出土遺物 (図31, 表4, 図版12)

4はT1901出土の肥前系の染付皿で、製作年代は18世紀。内外面に文様を施す。5はT1902出土の青磁碗。12～13世紀代の龍泉窯系のもので、見込みにヘラ先で劃花文を施文する。6～8はT1903出土。6は14世紀後半から15世紀前半にかけての龍泉窯系の青磁碗。7は玉縁口縁の白磁碗で、13世紀代の中国製。8は1610年代から17世紀後半にかけての肥前系の三島手で、器種は鉢とみられる。

表4 19次調査出土遺物観察表(カッコ内の数字は復元値を示す)

S F 03 ※層位はT1902 a - a' の土層

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調(内面/外面)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	層位	法量(cm)		備考
									口径	器高	
1	19-8	瓦質土器・捩鉢	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	灰/灰	ナデ/タタキ	T1902	2	残4.0	13.6	
2	19-5	瓦質土器・火鉢	角閃石, 石英, 1mm程の砂粒	良好	灰白/灰黄	ナデ/ヨコナデ	T1902	2	残8.6	(28.0)	

S D 07 ※層位はT1904 a - a' の土層

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調(釉薬/胎土)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	層位	法量(cm)		備考
									口径	器高	
3	19-3	青磁・碗	緻密	良好	オリーブ灰/灰白	施文, 施釉/ロクロケズリ, 施釉	T1904	1	残2.1	6.0	龍泉窯系

遺構外出土遺物

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調(釉薬/胎土)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	層位	法量(cm)		備考
									口径	器高	
4	19-1	染付・皿	緻密	良好	明緑灰/灰白	施文, 施釉/施文, 施釉	T1901	-	残1.8	-	肥前系
5	19-2	青磁・碗	緻密	良好	オリーブ黄/にぶい黄	施文, 施釉/ロクロケズリ, 施釉	T1902	-	残2.4	6.6	龍泉窯系
6	19-4	青磁・碗	緻密	良好	オリーブ灰/灰白	施釉/施釉	T1903	-	残2.1	-	龍泉窯系
7	19-7	白磁・碗	緻密	良好	灰白/灰黄	施釉/施釉	T1903	-	残3.7	-	中国製
8	19-6	三島手・鉢?	緻密	良好	暗灰黄/灰褐	施釉/施文, 施釉	T1903	-	残3.4	-	肥前系

第5章 平成19年度(第20次)発掘調査

第1節 調査の概要

(1) 調査の概要 (図32～34)

第20次調査は、三城中心部より西へ約90mの地点にT2001とT2002の計2つの調査区を設けて調査を実施した。平成19(2007)年6月から同年8月までで発掘作業を終了し、一時休止後、10月から11月にかけて実測作業を行った。調査面積は、T2001：約74㎡、T2002：約39㎡の計113㎡である。

調査地点は、地元で「カラホリ」と呼称される大規模な横堀跡の隣接地であり、昭和62(1987)年の2次調査T8705で検出し、柵跡もしくは塀跡と想定したSA870501やその周辺の遺構の配置状況の確認を目的としたものである。SA870501は、「カラホリ」から東へ約11mの地点に位置し、長さ約9mにわたってほぼ並行に長径1.2～1.4m、短径0.8～0.9mの隅丸長方形のピットが5基並んでいる。1988年刊行の『宇土城跡(西岡台)』Ⅱで「空堀(カラホリ)に並行する柵または塀と思われる」と報告された遺構であるが、限られた面積の調査であり、過去に宇土城跡で検出した柵列跡のピットとくらべて著しく大型であることなど、柵や塀とするには追加調査が必要と判断された。

このことから、2次調査区の南北にT2001とT2002を設定して調査を実施したが、SA870501に伴う遺構は検出されなかった。また、本調査では、中世の土師質土器の皿や坏、瓦質土器の播鉢、中国製の

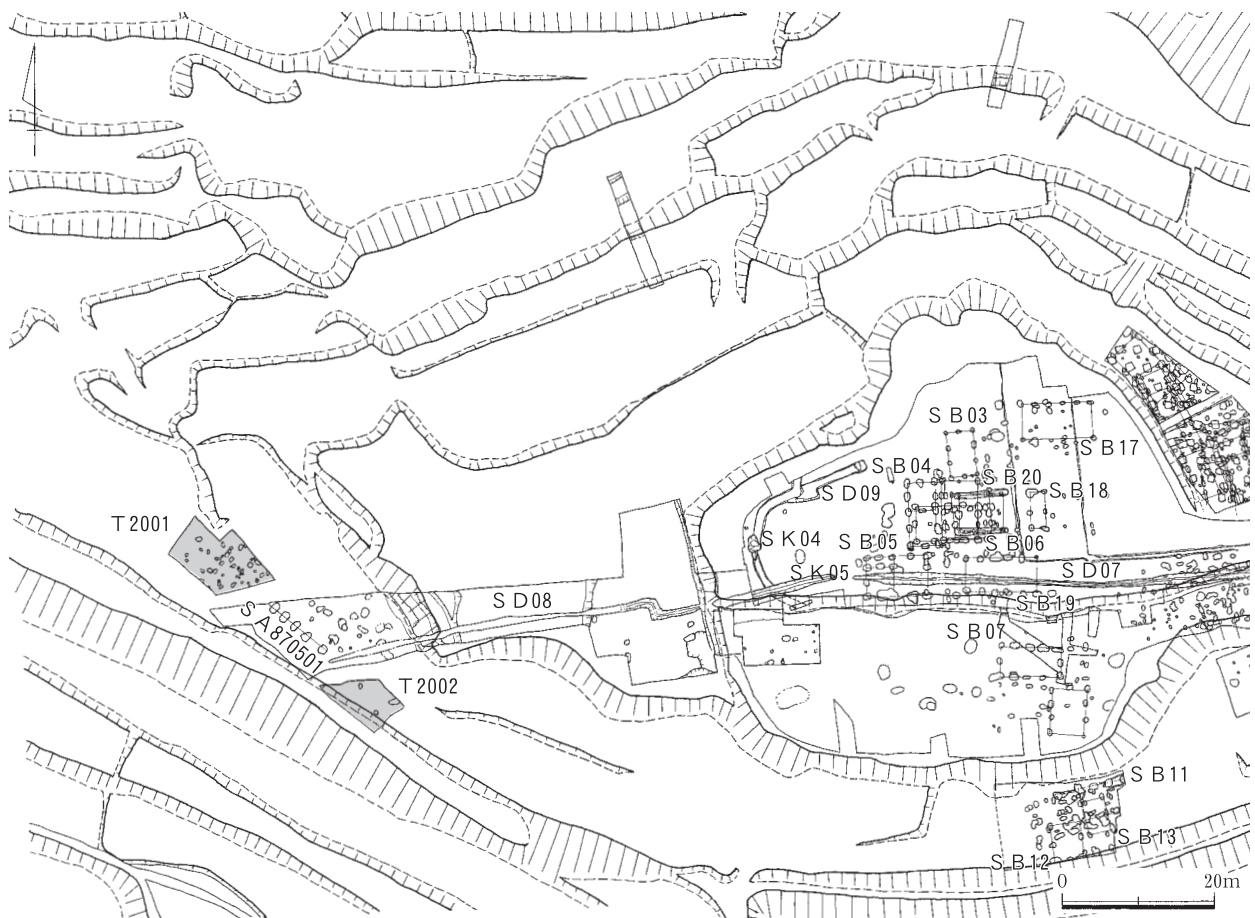


図32 20次調査区配置図 (1/1,000, アミ部分：20次調査区)

白磁や青磁、染付の碗や皿、土錘などが出土した。また、中世以外では須恵器の高台付碗などが出土した。

(2) 調査日誌抄

平成19 (2007) 年	30日	T2001・T2002遺構検出作業開始。	
6月6日	T2001・T2002設定。調査前状況写真撮影。表土除去開始。	8月6日	T2002遺構検出作業終了。
7日	T2002表土及び遺物包含層掘り下げ開始。	8日	T2001・T2002遺構検出作業終了、写真撮影。
26日	九州文化財研究所・永井孝宏氏来訪。	10日	T2001・T2002遺構埋土上層掘り下げ。写真撮影。
7月22日	第2回宇土城跡体験発掘 (参加者31名)。	10月22日	T2001・T2002実測作業開始。
		11月29日	T2001・T2002実測作業終了。

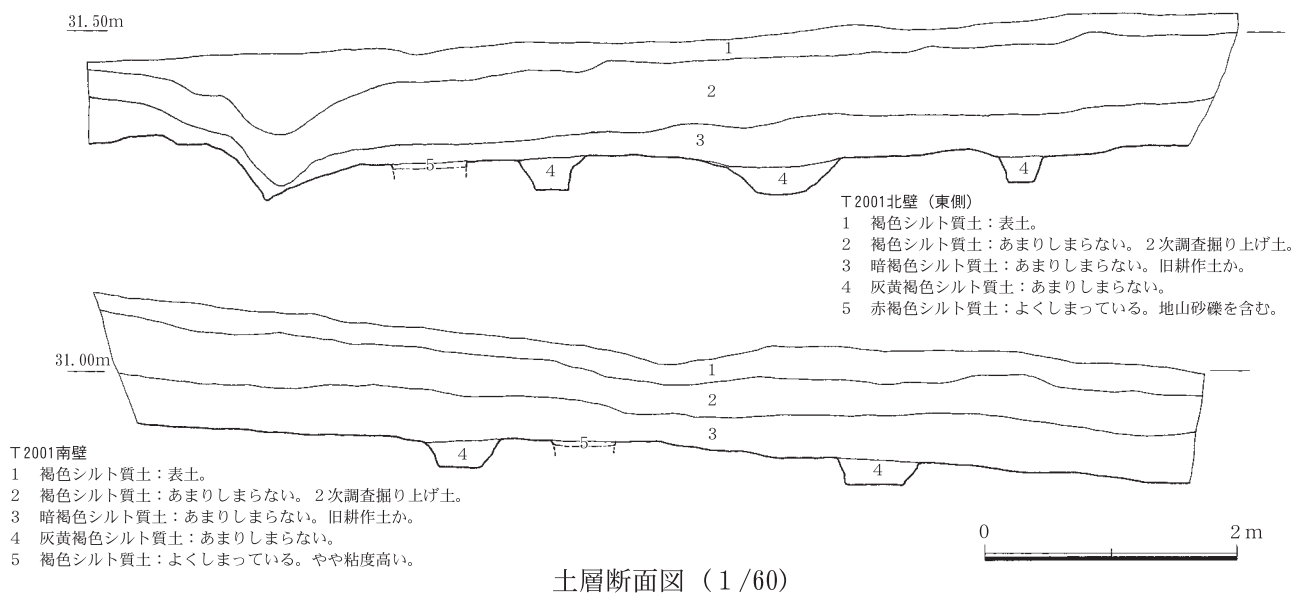
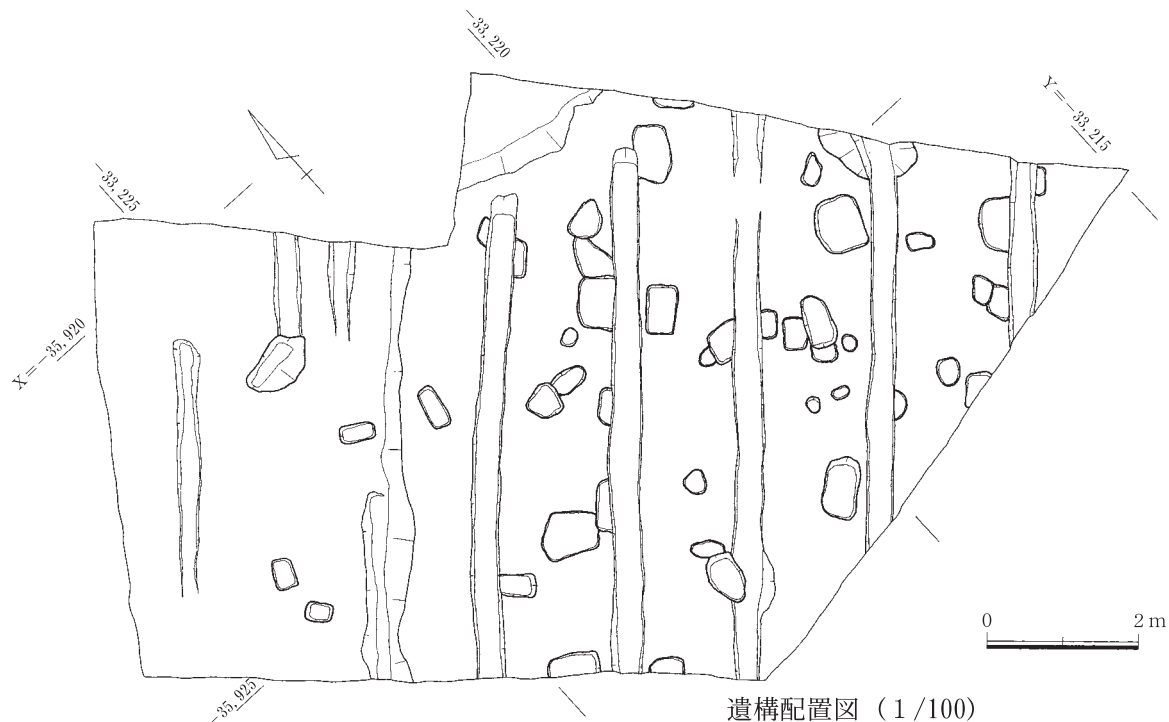


図33 T2001遺構配置図及び土層断面図 (1/60, 1/100)

第2節 調査区の概要

T2001 (図33, 図版13・14)

2次調査のT8705北側に設定した調査区である。重機により表土を除去し、旧表土層とみられる土層を人力で掘り下げ後、遺構検出作業を行った。その結果、散在的に広がるピットを検出したが、SA870501に伴うとみられる遺構は未検出であり、調査区内において掘立柱建物跡や柵列跡などの遺構は確認することができなかった。遺構外より、古代の須恵器や瓦質土器、中国製の青磁や染付、青銅製煙管が出土した。

T2002 (図34, 図版14)

T8705南側に設定した調査区である。ピットを数基検出したのみで極めて遺構密度が希薄であり、

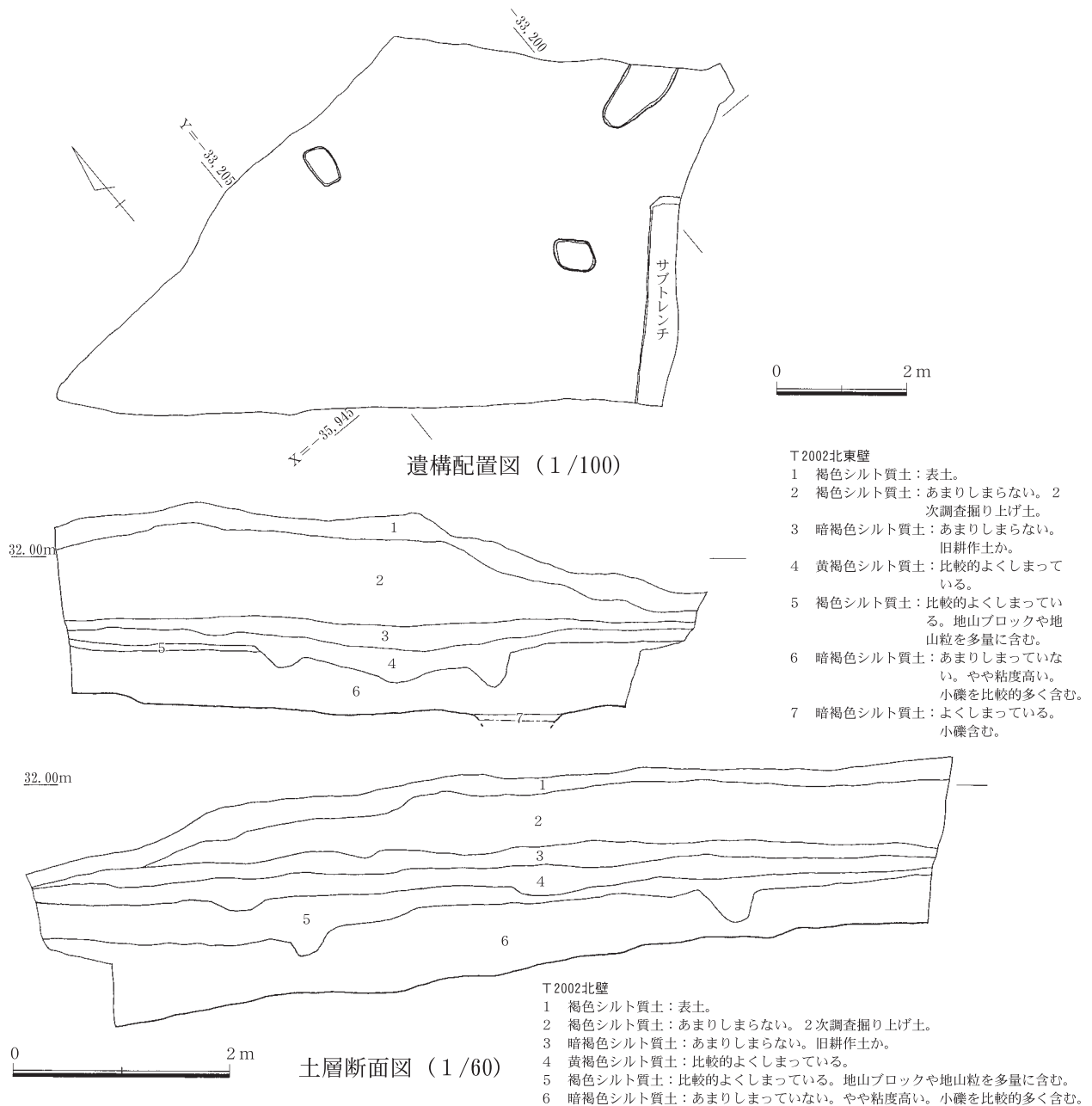


図34 T2002遺構配置図及び土層断面図 (1/60, 1/100)

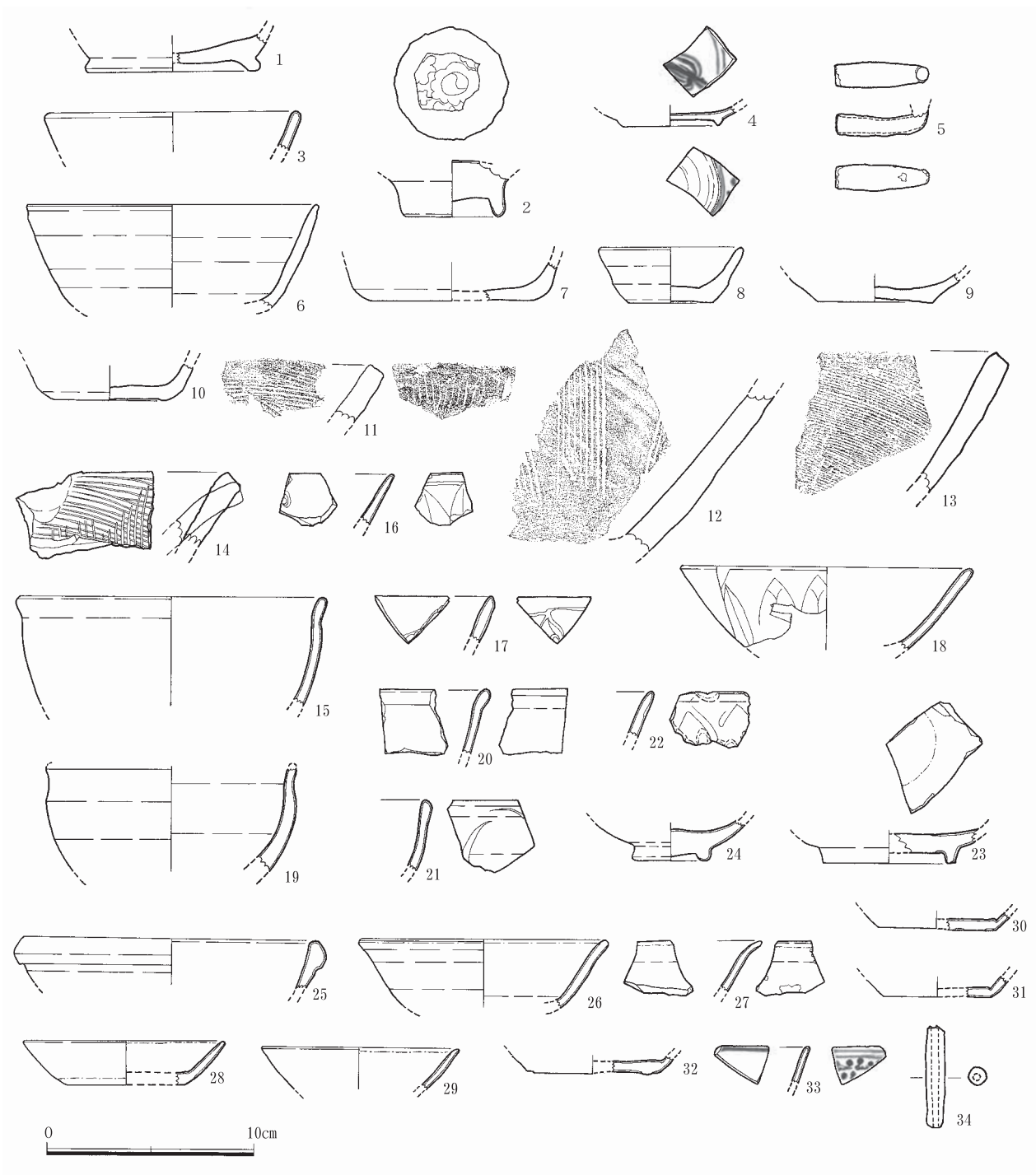


図35 20次調査出土遺物 (1/3)

S A870501に伴うとみられる遺構も未検出である。遺構外より，土師質土器や瓦質土器，中国製の青磁や白磁，土錘などが出土した。

第3節 出土遺物

遺構外出土遺物 (図35, 表6, 図版15)

1～5はT2001出土。1は古代の須恵器高台付碗である。内外面に回転ナデ調整を施す。2～4は中国製陶磁器で，2・3は15世紀代の龍泉窯系青磁碗，4は16世紀前半から中頃の景德鎮窯系染付小皿で

ある。2は底部片で見込みに劃花文状の文様を施す。4は底部片で、内外面に文様を施す。5は青銅製煙管の雁首部分である。

6～22はT2002出土。6は古代の須恵器碗で、内外面にヨコナデを施す。7～10は土師質土器で、7は皿、8～10は坏である。7～9は摩耗のため内外面とも器面調整は不明。10は内外面とも回転ナデ調整を施し、底部は糸切り離しである。9は二次的に被熱している。11～14は瓦質土器で、12・14は擂鉢、11はその可能性があるもの、13は捏鉢である。12は内面に9本単位の擂目を施しており、使用による摩耗がみられる。

15～33は中国製陶磁器で、15～18、20～24は龍泉窯系青磁、19・25～32は白磁、33は景德鎮窯系染付である。15は内外面とも無文の碗で、14世紀後半から15世紀中頃の製作。16～18は13世紀代から14世紀前半頃の製作の碗で、外面に鎬蓮弁文を施文。19は無文の白磁碗で、14世紀代の製作。20は14世紀後半から15世紀中頃の碗で、口縁部が短く外反する。21は15世紀頃の碗である。22は13世紀代から14世紀前半頃製作の碗で、外面に鎬蓮弁文を施す。23は14世紀後半から15世紀中頃にかけての碗で、見込みを円形状に釉剥ぎしている。24は13～14世紀代の小碗の底部で、高台内は露胎である。25は玉縁口縁の碗で、13世紀から14世紀前半頃の製作。26～32は13世紀から14世紀の口禿白磁の皿である。33は16世紀前半から中頃にかけての碗で、内外面に文様を施す。

34は土錘である。両端を欠損している。外面はナデ調整を施し、中央部が最も太く、端に向かうにつれてすぼまる。

表5 20次調査出土遺物観察表（カッコ内の数字は復元値を示す）

T 2001遺構外出土遺物（土器）

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調（内面/外面）	器面調整（内面/外面）	層位	法量（cm） 口径 器高 底径	備考
1	20-10	須恵器・高台付碗	1mm以下の砂粒	良好	灰/灰	回転ナデ/回転ナデ	-	残1.7 (8.0)	

T 2001遺構外出土遺物（陶磁器）

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調（釉薬/胎土）	器面調整（内面/外面）	層位	法量（cm） 口径 器高 底径	備考
2	20-15	青磁・碗	緻密	良好	オリーブ灰/灰白	施釉/ロクロケズリ, 施釉	-	残2.7 5.0	龍泉窯系
3	20-25	青磁・碗	緻密	良好	オリーブ灰/灰白	施釉/施釉	(12.4)	残1.9 -	龍泉窯系
4	20-28	染付・皿	緻密	良好	明緑灰/灰白	施文, 施釉/施文, 施釉	-	残0.9 (5.0)	景徳鎮窯系

T 2001遺構外出土遺物（青銅製品）

挿図 番号	実測 番号	種類	材質	色調	層位	法量（cm） 長さ 最大径	備考
5	20-11	煙管	青銅	緑青	-	残4.5 1.2	雁首部分

T 2002遺構外出土遺物（土器）

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調（内面/外面）	器面調整（内面/外面）	層位	法量（cm） 口径 器高 底径	備考
6	20-14	須恵器・碗	1mm以下の砂粒	良好	灰/灰	ヨコナデ/ヨコナデ	-	(14.0) 5.0	
7	20-7	土師質土器・皿	長石, 1mm程の砂粒	やや不良	にぶい橙/にぶい橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	-	残1.9 (9.0)	
8	20-19	土師質土器・環	1mm以下の砂粒	やや不良	橙/にぶい橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	-	(7.0) 2.7 (4.4)	
9	20-27	土師質土器・環	雲母, 角閃石, 1mm程の砂粒	やや不良	橙/橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明	-	残1.4 (5.8)	二次的に被熱
10	20-4	土師質土器・環	1mm程の砂粒	良好	明黄褐/明黄褐	回転ナデ/回転ナデ, 底部糸切り離し	-	残1.8 (7.0)	
11	20-9	瓦質土器・擂鉢?	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	灰/灰	ナデ/ケズリ, ナデ	-	残2.9 -	
12	20-16	瓦質土器・擂鉢	角閃石, 1mm程の砂粒	良好	灰黄/黄灰	ナデ, 樋目/ユビオサエ, ナデ	-	残10.4 -	
13	20-23	瓦質土器・捏鉢	角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	灰白/灰	ケズリ, ナデ/ユビオサエ, ナデ	-	残6.9 -	
14	20-34	瓦質土器・擂鉢	雲母, 角閃石, 1~2mm程の砂粒	良好	灰/灰	ナデ, 樋目/ユビオサエ, ナデ	-	残3.8 -	

T 2002遺構外出土遺物（陶磁器）

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調（釉薬/胎土）	器面調整（内面/外面）	層位	法量（cm） 口径 器高 底径	備考
15	20-1	青磁・碗	緻密	良好	灰オリーブ/灰白	施釉/施釉	-	残5.3 -	龍泉窯系
16	20-3	青磁・碗	緻密	良好	灰オリーブ/灰白	施釉/施文, 施釉	-	残2.5 -	龍泉窯系
17	20-5	青磁・碗	緻密	良好	明オリーブ灰/灰白	施釉/施釉	-	残2.2 -	龍泉窯系
18	20-32	青磁・碗	緻密	良好	オリーブ/灰白	施釉/施文, 施釉	(14.0)	残3.9 -	龍泉窯系
19	20-12	白磁・碗	緻密	良好	灰オリーブ/灰白	施釉/施釉	-	残5.0 -	
20	20-17	青磁・碗	緻密	良好	灰オリーブ/灰黄	施釉/施釉	-	残3.2 -	龍泉窯系
21	20-20	青磁・碗	緻密	良好	オリーブ灰/灰白	施釉/施釉	-	残3.5 -	龍泉窯系
22	20-24	青磁・碗	緻密	良好	明オリーブ灰/灰白	施釉/施釉	-	残2.7 -	龍泉窯系

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調(釉薬/胎土)	器面調整(内面/外面)	層位	法量 (cm)		備考
								口径	器高/底径	
23	20-31	青磁・碗	緻密	良好	灰白/灰白	ロクロケズリ, 施釉/ロクロケズリ, 施釉	-	-	残1.6 (6.4)	龍泉窯系
24	20-6	青磁・碗	緻密	良好	オリーブ灰/灰	施釉/施釉	-	-	残1.9 3.8	龍泉窯系
25	20-29	白磁・碗	緻密	良好	灰白/灰黄	施釉/施釉	-	(15.2)	残2.3 -	中国製
26	20-13	白磁・皿	緻密	良好	灰色/灰白	施釉/施釉	-	(12.0)	残3.3 -	中国製
27	20-2	白磁・皿	緻密	良好	灰白/灰白	施釉/施釉	-	-	残2.5 -	中国製
28	20-30	白磁・皿	緻密	良好	灰白/灰白	施釉/ナデ, 施釉	-	(9.8)	2.1 (5.7)	中国製
29	20-33	白磁・皿	緻密	良好	灰白/灰白	施釉/施釉	-	(9.6)	残2.0 -	中国製
30	20-8	白磁・皿	緻密	良好	灰白/灰白	施釉/ロクロケズリ, 施釉	-	-	残0.9 (5.8)	中国製
31	20-18	白磁・皿	緻密	良好	灰白/灰白	施釉/施釉	-	-	残1.0 (5.4)	中国製
32	20-21	白磁・皿	緻密	良好	灰白/灰白	施釉/施釉	-	-	残0.9 (6.6)	中国製
33	20-26	染付・碗	緻密	良好	明緑灰/灰白	施文, 施釉/施文, 施釉	-	-	残1.8 -	景德鎮窯系

T2002遺構外出土遺物(土製品)

挿図 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調	器面調整	層位	法量 (cm)		備考
								長さ	最大径	
34	20-22	土錘	角閃石, 1mm以下の砂粒	良好	橙	ナデ	-	残4.9	0.9	

第6章 平成20年度(第21次)発掘調査

第1節 調査の概要

(1) 調査の概要 (図36～38, 図版16)

第21次調査は、三城東側の帯曲輪の遺構確認を目的として実施した。土層観察用ベルトを挟んで北側の調査区を2101区、南側を2102区とし、平成20(2008)年11月から21年1月までの期間で実施した。調査面積は、2101区：約93㎡、2102区：約171㎡の計264㎡である。

調査の結果、果樹の植え込み跡とみられる掘り込みによって調査区全面に攪乱を受けていたものの、掘立柱建物跡を12棟(SB24～SB35)検出した。これらは重複関係があり、当地に数時期にわたり建物が存在したことが判明した。これらの柱穴については、遺構保護を目的として埋土を約3～5cm程度とごく浅く掘り下げたのみで完掘していない。第3ブロック(三城及び周辺地区)における保存整備を目的として実施した第19～25次(平成18～24年度)の計7次にわたる発掘調査のなかでも、当該地点は遺構密度が最も高いことが判明している。城の機能を支える何らかの建物が恒常的に存在したとみられる。また、2102区東側では、盛土整地が行われていることが明らかになった。

以上の調査で、中世の土師質土器の坏、瓦質土器の壺、中国製青磁や白磁、染付の碗や皿、古銭、近世の肥前系陶磁器の白磁皿などが出土した。それ以外では、弥生時代の石包丁や古墳時代の須恵器の高坏蓋などが出土した。

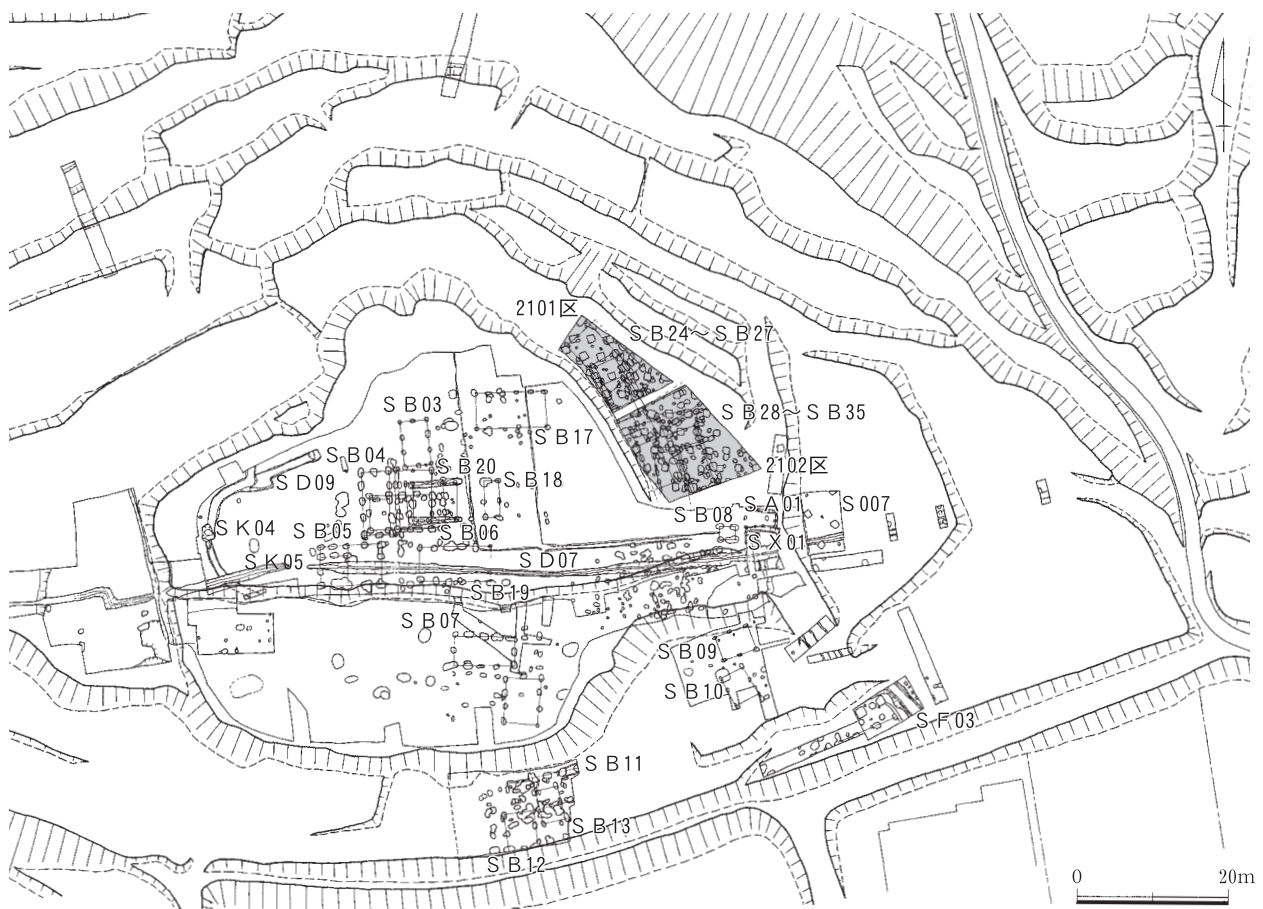


図36 21次調査区配置図 (1/1,000, アミ部分：21次調査区)

(2) 調査日誌抄

平成20(2008)年	17日	遺構埋土上層掘り下げ(3~5cm程度)完了。	
11月12日	調査前状況写真撮影。重機による表土除去作業。	19日	2101区, 2102区調査区清掃, 発掘状況写真撮影。
14日	2101区, 2102区の遺物包含層掘り下げ。		2101区遺構実測図(縮尺1/20)作成開始。
16日	第3回宇土城跡体験発掘(参加者14名)。	25日	空中写真撮影(株式会社熊本航空)。
25日	2102区遺構検出作業開始。	平成21(2009)年	
28日	2102区東側で盛土整地層を確認。	1月6日	2102区遺構実測図(縮尺1/20)作成開始。
12月4日	2101区遺構検出作業開始。	30日	遺構実測作業完了。
16日	2101区, 2002区遺構検出状況写真撮影。		

第2節 検出遺構

S B 24 (図37, 図版16・17)

2101区南側で検出した桁行3間, 梁行1間の掘立柱南北棟建物跡。規模は桁行約6.1m, 梁行約3.8mで, 削平により一部の柱穴が失われている。柱間寸法は桁行約2.0m(約6尺5寸), 梁行約12尺5寸である。S B 26, S B 27と重複しており, S B 24→S B 26→S B 27の順に建てられている。

S B 25 (図37, 図版16・17)

2101区南側から2102区北側で検出した桁行3間, 梁行1間の掘立柱南北棟建物跡。規模は桁行約5.5m, 梁行約3.2m(約10尺6寸)で, 西側柱筋はS B 26, S B 27と重複している。柱間寸法は桁行約1.8~2.0m(約6尺~6尺5寸)である。重複関係より, S B 25→S B 26→S B 27の順に建てられている。

S B 26 (図37, 図版16・17)

2101区南側から2102区北側で検出した桁行4間, 梁行1間の掘立柱南北棟建物跡。規模は桁行約8.6m, 梁行約4.0m(約13尺2寸)で, 柱穴の一部は削平されている。柱間寸法は桁行約2.0~2.5m(約6尺5寸~8尺3寸)である。S B 24, S B 25, S B 27と重複しており, S B 24・S B 25→S B 26→S B 27の順に建てられている。

S B 27 (図37, 図版16・17)

2101区で検出した桁行4間, 梁行2間, 東庇付きの掘立柱南北棟建物跡。規模は桁行約8.9m, 梁行約4.7m, 庇の出が約1.4mで, 庇の最も北側の柱穴は調査区外である。柱間寸法は桁行約2.0~2.9m(約6尺5寸~9尺6寸), 梁行約2.0~2.6m(約6尺5寸~8尺6寸)である。21次調査で検出した12棟の建物跡のうち最も規模が大きく, 柱掘方の大きさも桁側では長辺1mを超えるものが多い。S B 24, S B 25, S B 26と重複しているが, これらの中では最も新しい時期に建てられた建物である。

S B 28 (図37, 図版16・17)

2102区北側で検出した桁行3間, 梁行2間の掘立柱東西棟建物跡。規模は桁行約5.7m, 梁行約4.5mで, 柱間寸法は桁行約1.5~2.2m(約5尺~7尺3寸), 梁行約1.5~3.0m(約5尺~9尺9寸)である。S B 30, S B 33~S B 35と重複しており, これらの建物跡のなかでは最も古い時期に位置付けられる。

S B 29 (図37, 図版16・17)

2102区西側で検出した桁行3間、梁行1間の掘立柱南北棟建物跡。西側柱筋の一部は調査区外である。規模は桁行約6.2m、梁行約3.4m(約11尺2寸)で、桁行の柱間寸法は約1.6~2.4m(約5尺3寸~7尺9寸)。S B 28, S B 30と重複しており、S B 28→S B 29→S B 30の順で建てられている。



図37 21次調査遺構配置図 (1/150, アミは攪乱)

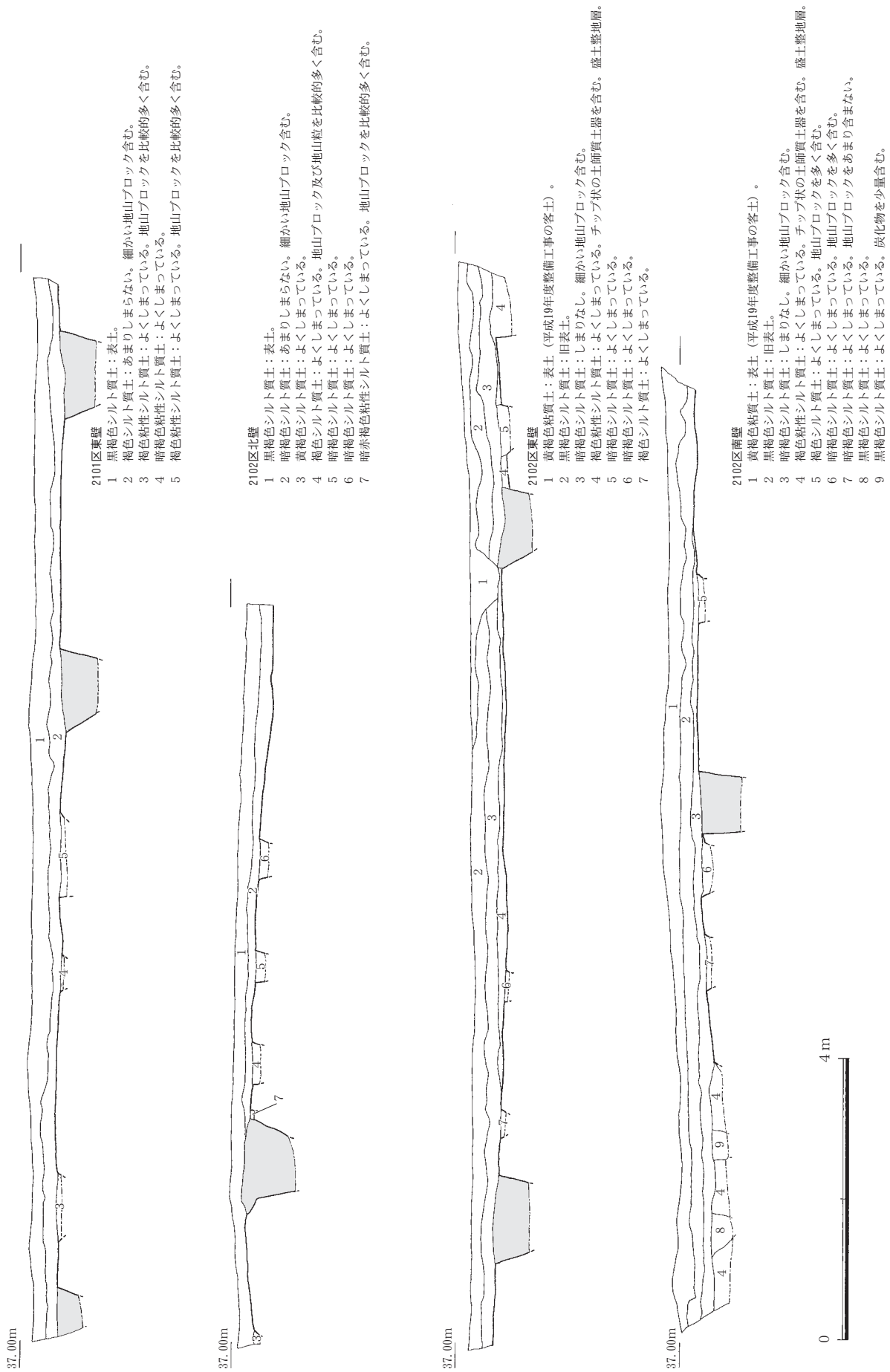


図38 21次調査区土層断面図（1/80、アミは攪乱）

S B 30 (図37, 図版16・17)

2102区北側で検出した桁行4間以上、梁行2間の掘立柱東西棟建物跡。西側柱筋間で柱穴を検出している一方、東側では検出していないため、さらに調査区外に延びる可能性がある。規模は桁行約7.6m以上、梁行約4.0mで、柱間寸法は桁行約1.5~1.7m(約5尺~5尺6寸)、梁行約1.7~2.3m(約5尺6寸~7尺6寸)である。S B 26, S B 28, S B 32と重複しており、S B 26・S B 28→S B 30→S B 32の順に建てられている。

S B 31 (図37, 図版16・17)

2102区南西側で検出した桁行3間以上、梁行1間の掘立柱南北棟建物跡で、調査区南側にさらに延びる可能性がある。規模は桁行約5.8m以上、梁行約3.8m(約12尺5寸)で、桁行の柱間寸法は約1.8~2.4m(約5尺9寸~7尺9寸)である。S B 34と重複しており、S B 31→S B 34の順に建てられている。

S B 32 (図37, 図版16・17)

2102区北側で検出した桁行4間以上、梁行2間(推定)の掘立柱東西棟建物跡。規模は桁行約8.8m以上、梁行約4.0m(推定)で、柱間寸法は桁行約1.9~2.5m(約6尺3寸~8尺3寸)、梁行約2.0m(約6尺5寸)である。S B 30と重複しており、S B 30→S B 32の順に建てられている。

S B 33 (図37, 図版16・17)

2102区西側で検出した桁行4間以上、梁行2間の掘立柱南北棟建物跡。北側柱筋間で柱穴を検出している一方、南側で検出していないことから、調査区外へ延びるか、もしくは削平のため確認できなかったとみられる。また、西側柱筋の一部は調査区外である。検出規模は桁行約8.2m、梁行約4.0mで、柱間寸法は桁行約1.8~2.4m(約5尺9寸~7尺9寸)、梁行約2.0m(約6尺5寸)である。S B 28, S B 35と重複しており、S B 28→S B 33→S B 35の順に建てられている。

S B 34 (図37, 図版16・17)

2102区南側で検出した桁行3間、梁行2間の掘立柱南北棟建物跡。規模は桁行約6.4m、梁行約4.0mで、柱間寸法は桁行約2.0~2.2m(約6尺5寸~7尺9寸)、梁行約1.9~2.1m(約6尺3寸~6尺9寸)である。S B 28, S B 31, S B 35と重複しており、S B 28・S B 31→S B 34→S B 35の順に建てられている。

S B 35 (図37, 図版16・17)

2102区南側で検出した桁行4間以上、梁行2間の掘立柱南北棟建物跡。北側柱筋間で柱穴を検出している一方、南側で検出していないことから、調査区外へ延びるか、もしくは削平のため確認できなかったとみられる。規模は桁行約8.0m以上、梁行約4.0mで、柱間寸法は桁行約1.7~2.2m(約5尺6寸~7尺3寸)、梁行約1.8~2.2m(約5尺9寸~7尺3寸)である。S B 28, S B 33, S B 34と重複しており、これらの建物跡では最も新しい時期に建築されている。

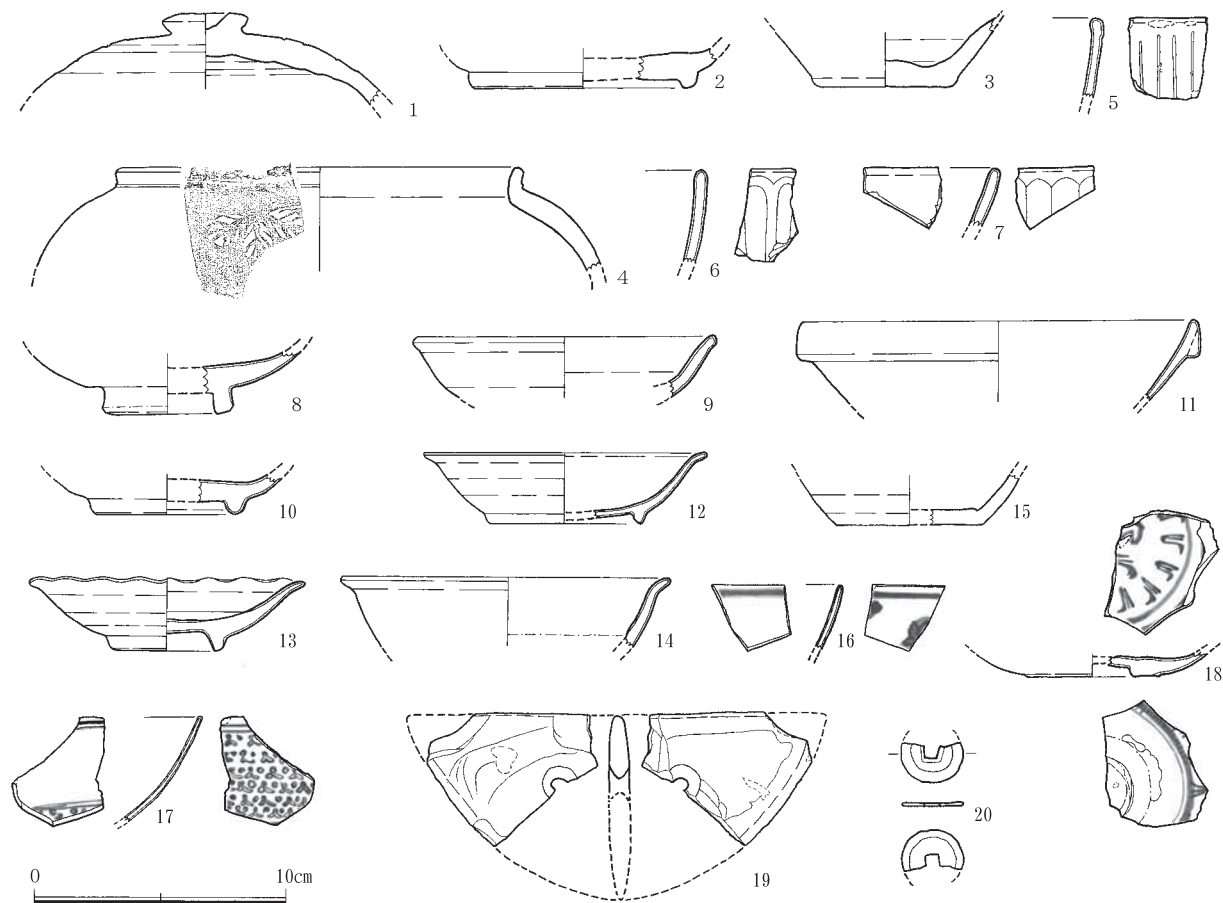


図39 21次調査出土遺物（1/3）

第3節 出土遺物

遺構外出土遺物（図39，表6，図版18）

1・2は須恵器。1は古墳時代の有蓋高坏の蓋で，外面は回転ヘラケズリ後にナデ，内面はナデを施す。2は古代の高台付碗である。3は土師質土器の坏で，底部は糸切り離し。4は瓦質土器の広口壺である。肩部に桐文状のスタンプを施す。

5～10は龍泉窯系青磁。5～8は剣先蓮弁文の碗で，5は15世紀中頃から16世紀前半，6・7は15世紀代の製作。8は14世紀から15世紀前半の碗の底部で，畳付及び高台内は露胎。9・10は皿で，いずれも14世紀後半から15世紀中頃の製作。10の高台内は露胎。11～15は白磁。13の肥前系以外は中国製。11は13世紀から14世紀前半の玉縁口縁の碗。12・14は景德鎮窯系の端反り皿で，16世紀代の製作。13は肥前系の白磁皿で，見込みは蛇の目釉剥ぎ。1820～1860年代の製作。15は口縁部を欠くが，器形から口禿皿とみられる。13世紀から14世紀前半の製作。16～18は景德鎮窯系染付。16は16世紀後半代の景德鎮窯系染付の碗。17はレンツー碗，18は碁笥底の皿で，いずれも16世紀前半から中頃の製作。

土器・陶磁器以外の出土遺物として，19の磨製の石包丁と20の古銭がある。19は粘板岩製で，形状から双孔を有していたとみられる。背部が直線状で，刃部は弧状を呈し，研磨を施す。20は方孔の古銭で，錆のため種類は不明である。

表6 21次調査出土遺物観察表(カッコ内の数字は復元値を示す)

遺構外出土遺物(土器)										
挿入 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調(内面/外面)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	層位	法量(Cm) 口径 器高 底径	備考
1	21-2	須恵器・高坏蓋	1mm程の砂粒	良好	にぶい黄/灰	回転ナデ/回転ヘラケズリ, ナデ	2102区	2	残3.7	
2	21-19	須恵器・高台付碗	1mm以下の砂粒	良好	灰/灰	ナデ/ナデ	2102区	2	残1.6 (9.0)	
3	21-18	土師質土器・坏	1~2mm程の砂粒	やや不良	橙/にぶい橙	摩擦のため不明/摩擦のため不明, 底部糸切り離し	2102区	2	残2.7 (5.6)	
4	21-20	瓦質土器・壺	雲母, 石英, 1mm以下の砂粒	良好	灰/灰	ナデ/ナデ, 施文	2102区	2	(16.0) 残4.2	
遺構外出土遺物(陶磁器)										
挿入 番号	実測 番号	器種	胎土	焼成	色調(釉薬/胎土)	器面調整(内面/外面)	調査 地点	層位	法量(Cm) 口径 器高 底径	備考
5	21-6	青磁・碗	緻密	やや不良	灰白/灰白	施釉/施文, 施釉	2102区	-	残3.2	龍泉窯系
6	21-11	青磁・碗	緻密	良好	オリープ灰/灰白	施釉/施釉	2102区	-	残3.7	龍泉窯系
7	21-14	青磁・碗	緻密	良好	オリープ灰/灰	施釉/施文, 施釉	2102区	-	残2.4	龍泉窯系
8	21-8	青磁・碗	緻密	良好	オリープ灰/灰白	施釉/口クケズリ, 施釉	2102区	-	残2.4 (5.0)	龍泉窯系
9	21-15	青磁・皿	緻密	良好	オリープ灰/灰白	施釉/施釉	2102区	-	残2.4	龍泉窯系
10	21-12	青磁・皿	緻密	良好	オリープ灰/灰白	施釉/口クケズリ, 施釉	2102区	-	残1.6 (6.0)	龍泉窯系
11	21-7	白磁・碗	緻密	良好	灰白/灰白	施釉/施釉	2102区	-	残3.2	中国製
12	21-5	白磁・皿	緻密	良好	灰白/灰白	施釉/施釉	-	-	(11.0) 2.8 (6.0)	景德鎮窯系
13	21-13	白磁・皿	緻密	良好	灰白/灰白	口クケズリ, 施釉/口クケズリ, 施釉	2102区	-	(10.9) 2.9 (4.6)	肥前系
14	21-9	白磁・皿	緻密	良好	灰白/にぶい黄橙	施文, 施釉/施釉	2102区	-	(13.2) 残2.7	中国製
15	21-1	白磁・皿	緻密	良好	灰白/灰白	施釉/施釉薬	2102区	-	残2.0 (6.0)	中国製
16	21-4	染付・碗	緻密	良好	灰白/灰白	施文, 施釉/施文, 施釉	2102区	-	残2.6	景德鎮窯系
17	21-10	染付・碗	緻密	良好	明緑灰/灰白	施文, 施釉/施文, 施釉	2102区	-	残3.8	景德鎮窯系
18	21-16	染付・皿	緻密	良好	明緑灰/灰白	施文, 施釉/施文, 施釉	2102区	-	残0.9 (5.4)	景德鎮窯系, 替筒底
遺構外出土遺物(その他)										
挿入 番号	実測 番号	種類	材質	焼成	色調	調整	調査 地点	層位	法量(Cm) 長さ 厚さ 直径	備考
19	21-3	石包丁	粘板岩製	-	にぶい黄	刀部を研磨	2102区	-	残6.2 0.8	-
20	21-17	古銭	青銅	-	緑青	-	2102区	-	0.1 2.4	-

第7章 ま と め

(1) 千畳敷周辺における検出遺構（18次調査）について

18次調査では、千畳敷東側帯曲輪付近に設定したトレンチ（T1801, T1802）において、宇土城跡で唯一の竪堀と横堀の機能をあわせもつ堀跡SD03を検出した。現況地形から判断すれば、T1801付近から東方向に向かってさらに延び、現在、多目的広場として整備している平場付近まで存在した可能性が高い。千畳敷周辺で検出した竪堀跡SD19やSD22と比べて幅が狭く小規模であるが、壁面の傾斜は他の竪堀跡に比べて極めて急峻であり防御性に優れている。また、T1801検出地点では、北側から土砂が多量に流入したかのような堆積状況を呈するが、これは本遺構と並走する土塁が北側に存在した可能性を示唆するものといえよう。

千畳敷南側に設定したトレンチT1803では、曲輪を圍繞する横堀跡SD02を検出した。これによって、千畳敷東側の土橋部分を除き、全長234mにわたって全周することが判明した。また、埋土下層や不明遺構SX01からは土師質土器の坏が大量に出土したが、埋土の堆積状況より千畳敷側から流入したと判断される土砂とともに出土していることから、SD02の埋め立て行為に伴い、千畳敷側から流れ込んだと推定される。

その他、特筆されることとして、宇土城跡が築城される以前、千畳敷部分に存在した首長居館を圍繞する壕跡SD01（古墳時代前期）を千畳敷東側帯曲輪で検出したことがあげられる。以前の調査結果から、本遺構に囲まれた東西約80m、南北約95mの範囲に首長居館が存在したことが明らかになっていたが、その範囲がより明確になったといえる。

(2) 三城周辺における検出遺構（19～21次調査）について

19次調査では、三城南東側に位置する道路状遺構SF03（1次調査SX01）を検出し、1次調査で確認した地点からさらに南方向へ延びることが確実となった。また、千畳敷東側帯曲輪の調査で1次調査検出の溝跡SD07を33mの範囲にわたって部分的に検出した。調査の結果、三城や周辺の帯曲輪の配置状況とは無関係に東へ延びることが判明し、三城に通じる道路状遺構を削平していることや、1次調査で17世紀代の遺物が出土していることなどから、おそらく廃城後の造作とみられる。

また、21次調査では、三城東側に隣接する帯曲輪で12棟の掘立柱建物跡を検出した。これらの建物跡は、柱穴の重複関係や建物の主軸方向の相違などから、以下のように少なくともⅦ期にわたって存在したと想定され、建替えを繰り返して長期間にわたって当地に建物が存在した可能性が高い（図40）。

I期：SB25（SB24の可能性も有り）

II期：SB24（SB25の可能性も有り）、SB28

III期：SB26、SB29

IV期：SB27、SB30

V期：SB31、SB32（SB27と主軸がほぼ直交しており、SB27が同時併存した可能性有り）

VI期：SB33、SB34

Ⅶ期：SB35

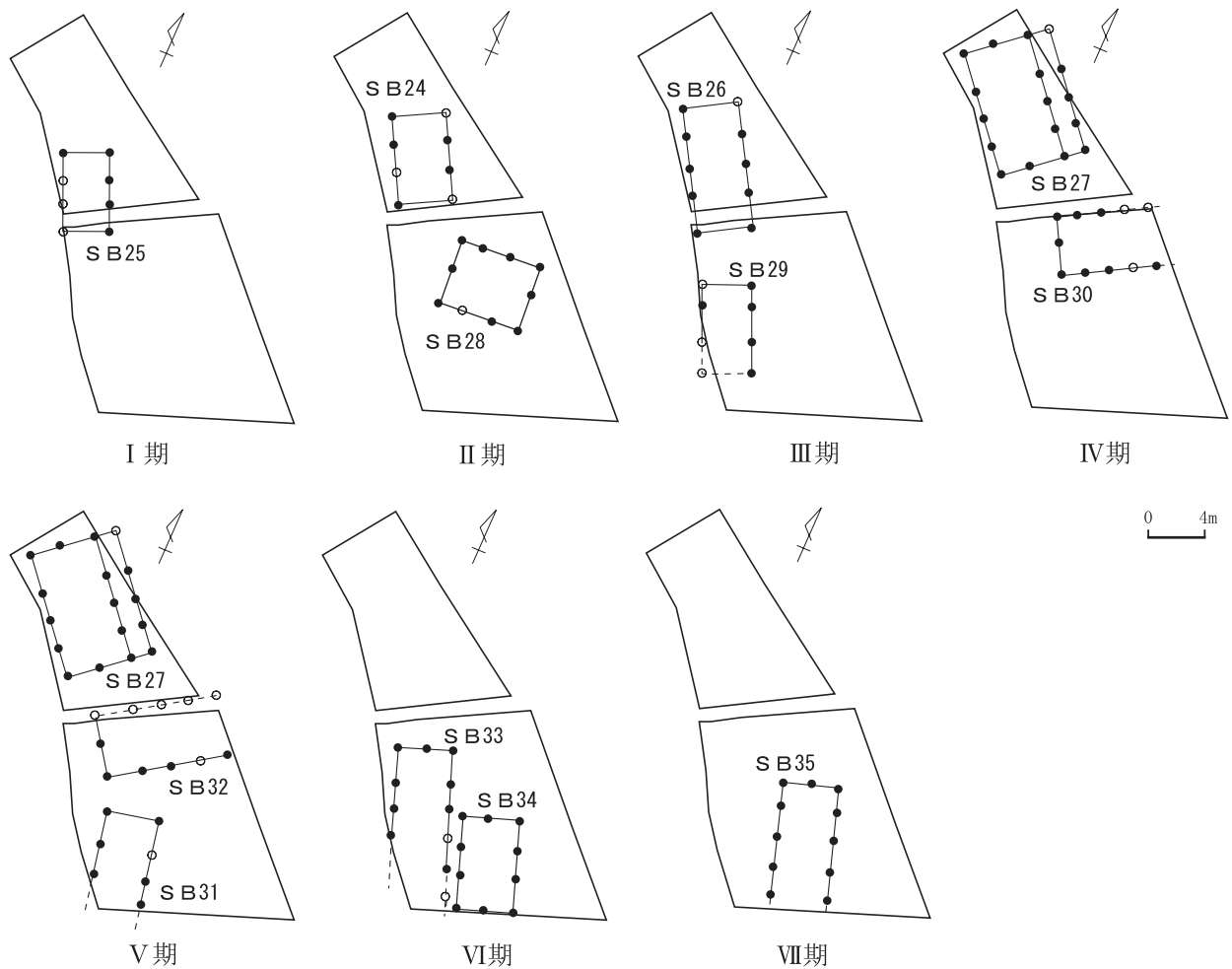


図40 21次調査区掘立柱建物跡変遷図

第3ブロック（三城及び周辺地区）における保存整備を目的として実施した第19～25次（平成18～24年度）の計7次にわたる発掘調査のなかでも、当該地点は特に遺構密度が高いことが判明しているが、その理由として次のことが指摘できよう。

領主や家臣団の屋敷地が存在したと想定される西岡台南側から三城へ入るためには、三城南側の道路状遺構S F 03を通行し、門跡S B 08を経て三城へと至るルートが想定される。つまり、S B 08周辺は三城の虎口に相当する空間であり、その北側に隣接する当該調査区周辺は、防衛上、重要な場所であることは明らかである。城の機能を支える何らかの建物（施設）が、恒常的にこの付近に存在した可能性が高いと判断される。

図 版

P L A T E S

図版 1 ~ 8 : 第18次発掘調査

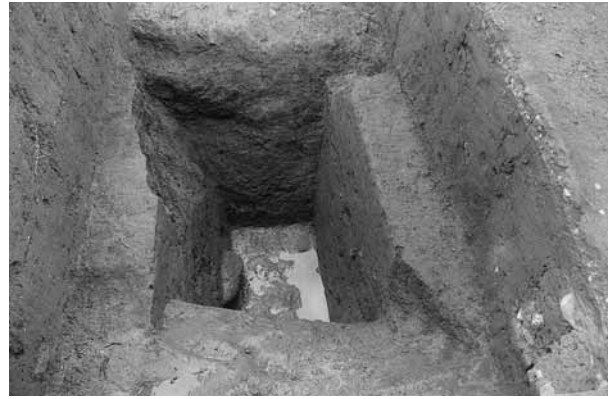
図版 9 ~ 12 : 第19次発掘調査

図版 13 ~ 15 : 第20次発掘調査

図版 16 ~ 18 : 第21次発掘調査



T1801調査前状況（南より）



T1801 縦堀跡 S D03調査状況（南より）



T1801遺構検出状況
（南より）

図版 2



T1802調査前状況（南より）



T1802豎堀跡 S D03調査状況（南東より）



T1802古墳時代塚跡 S D01
検出状況及び S D03調査状況（北より）



T 1803調査前状況
(南より)



T 1803遺構検出状況
(南より)



T 1803横堀跡 S D 02調
査状況 (東より)

図版 4



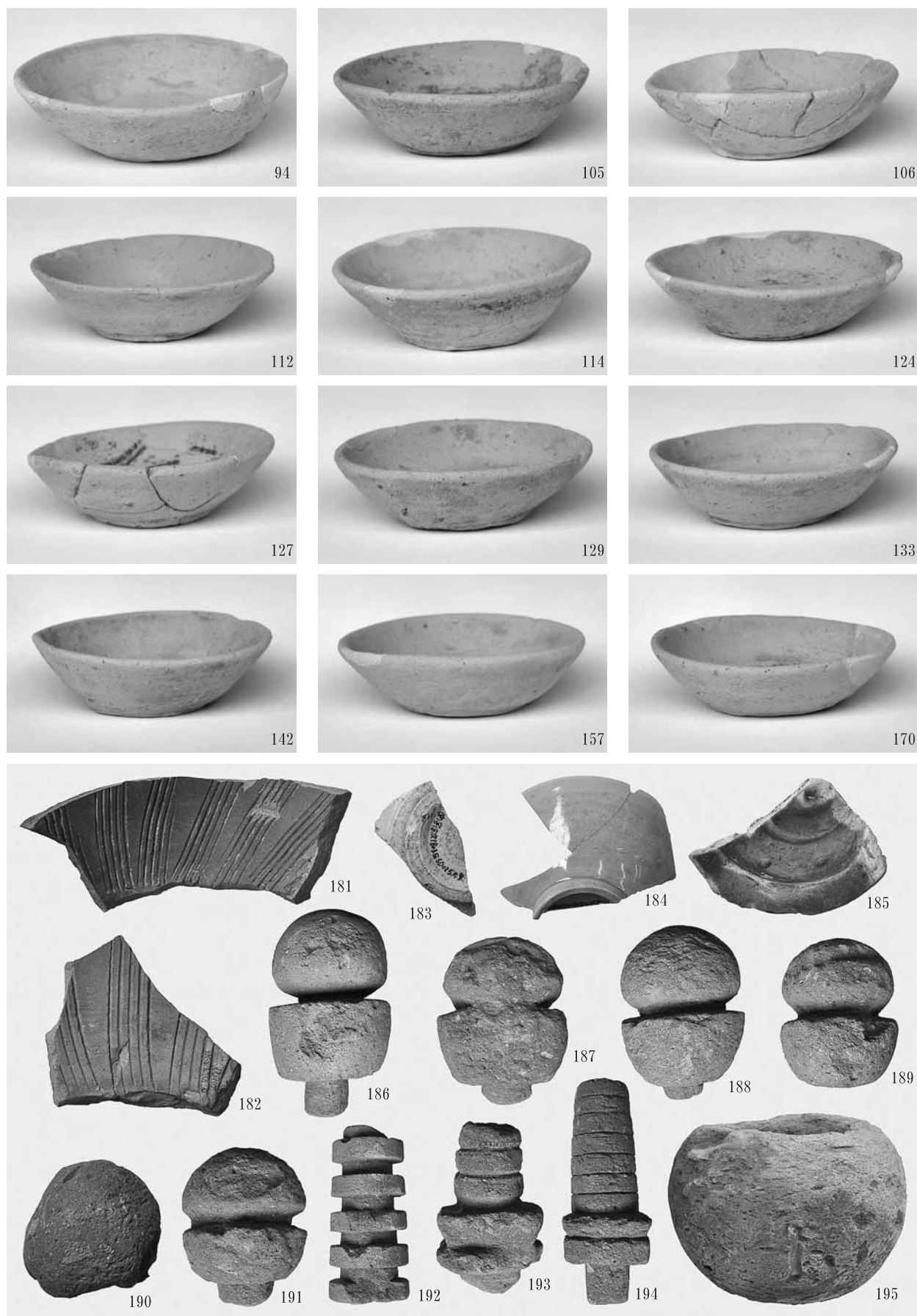
T 1803 S D 02土層断面 (東より)



T 1803 S D 02底面検出の不明遺構 S X 01
(南より)



图版 6

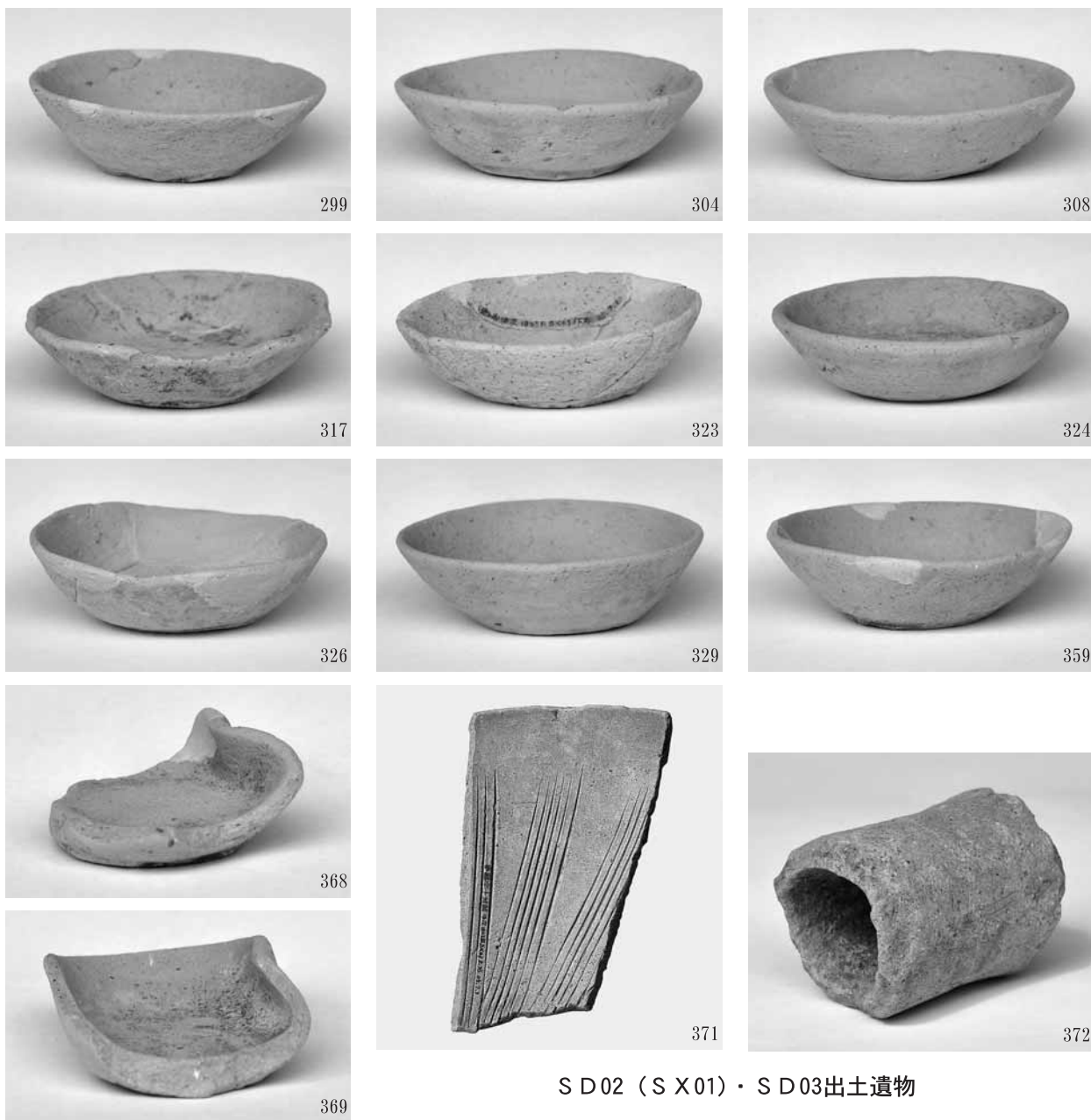


S D02出土遺物 2

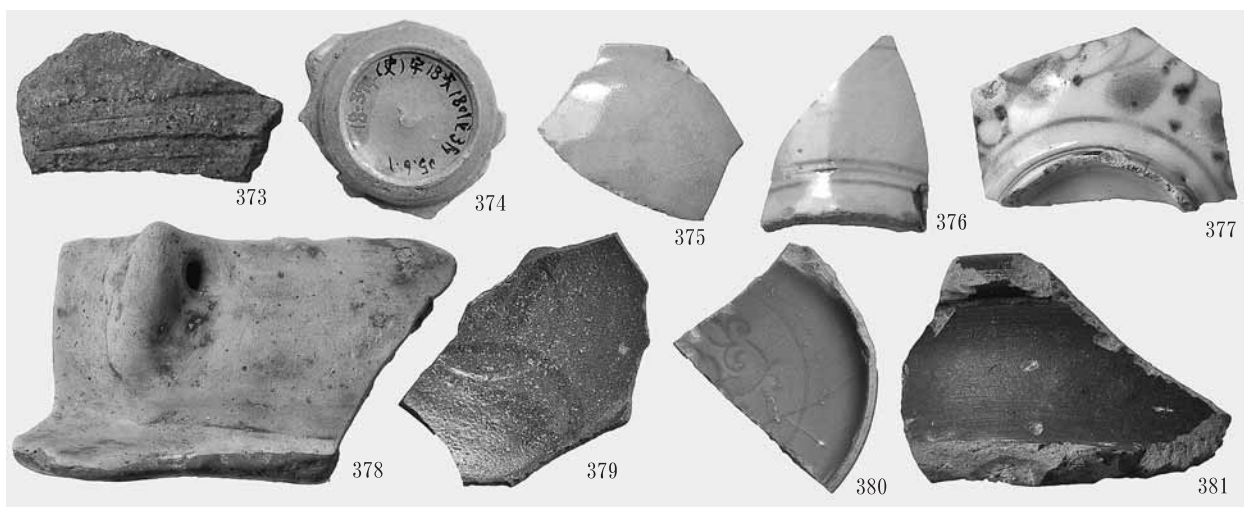


S D02 (S X01) 出土遺物 1

图版 8



S D 02 (S X 01) · S D 03出土遺物



18次調査遺構外出土遺物



T1901調査前状況（東より）



T1901遺構検出状況（東より）



T1902調査前状況（北西より）



T1902道路状遺構 S F 03検出状況（北より）

図版 10



T1902調査状況（東より）



道路状遺構 S F 03調査状況（南より）



T1903調査前状況（南より）



T1903調査状況（西より）



T1904～T1906調査前状況（南西より）



T1904溝跡 S D07調査状況（東より）



T1904調査状況（南より）

図版 12



T1905溝跡 S D07調査状況 (南より)



T1906遺構検出状況 (北より)



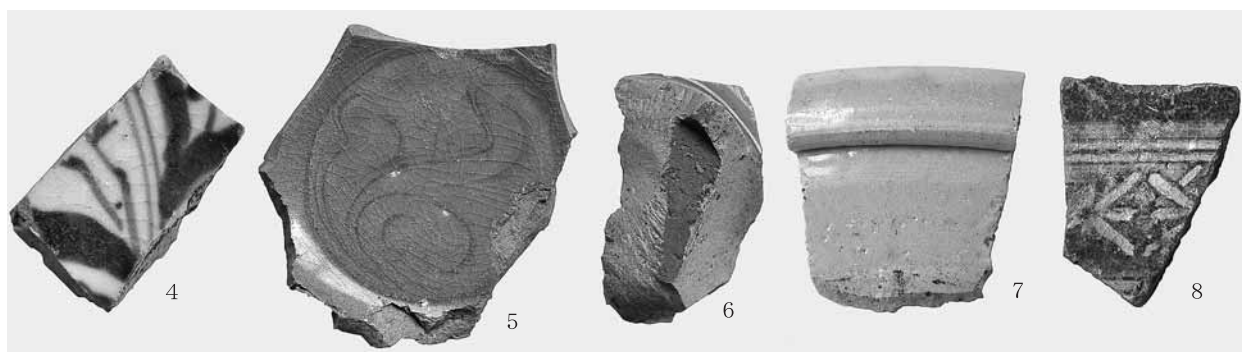
T1906溝跡 S D07調査状況 (北より)



T1906溝跡 S D07土層断面 (東より)



遺構出土遺物 (S F 03・S D 07)



19次調査遺構外出土遺物



T 2001・T 2002調査前
状況（北西より）



T 2001遺構検出状況
（北西より）



T 2001遺構検出状況
（南西より）

図版 14



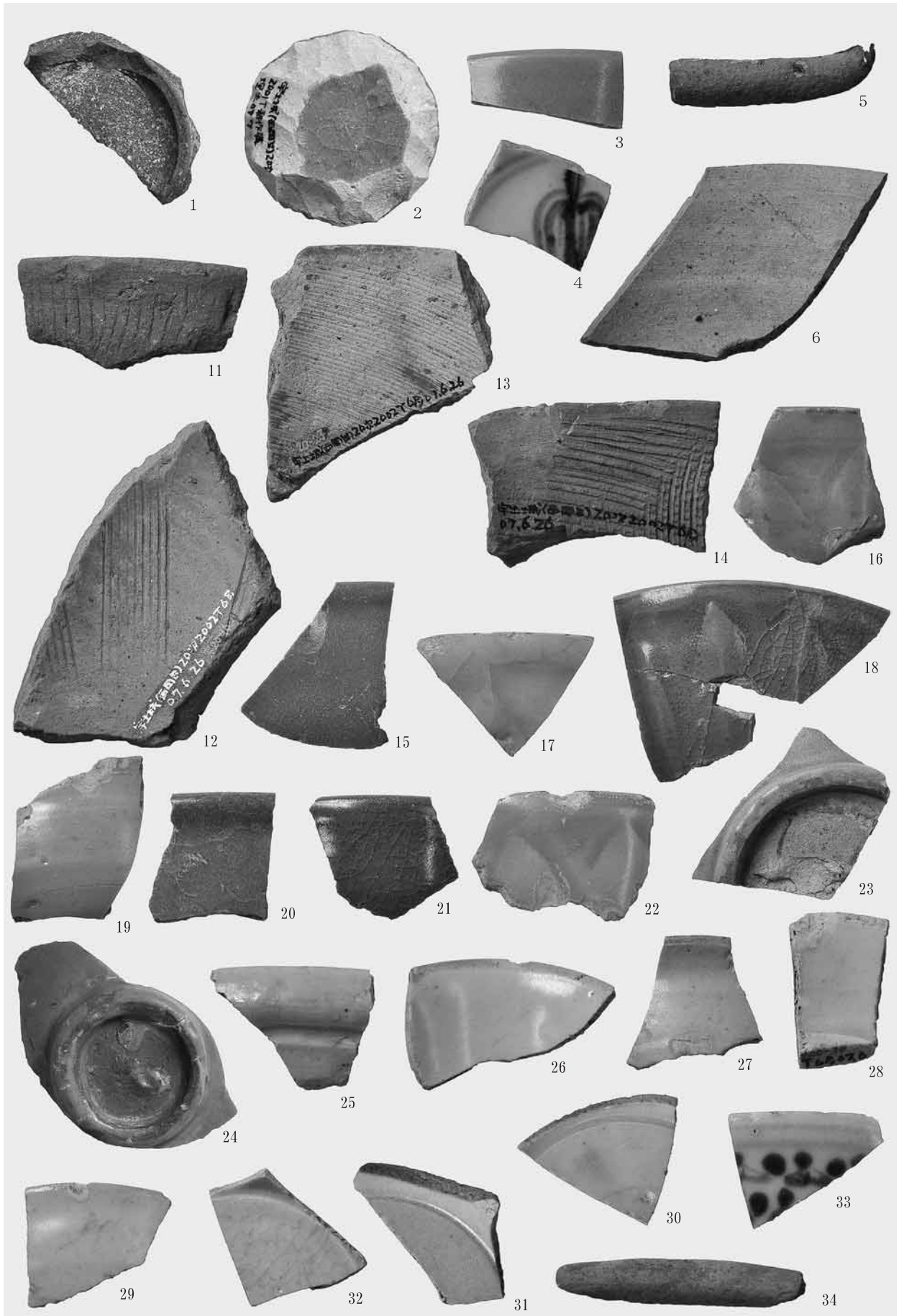
T 2001遺構検出状況
(西より)



T 2002調査前状況
(北東より)



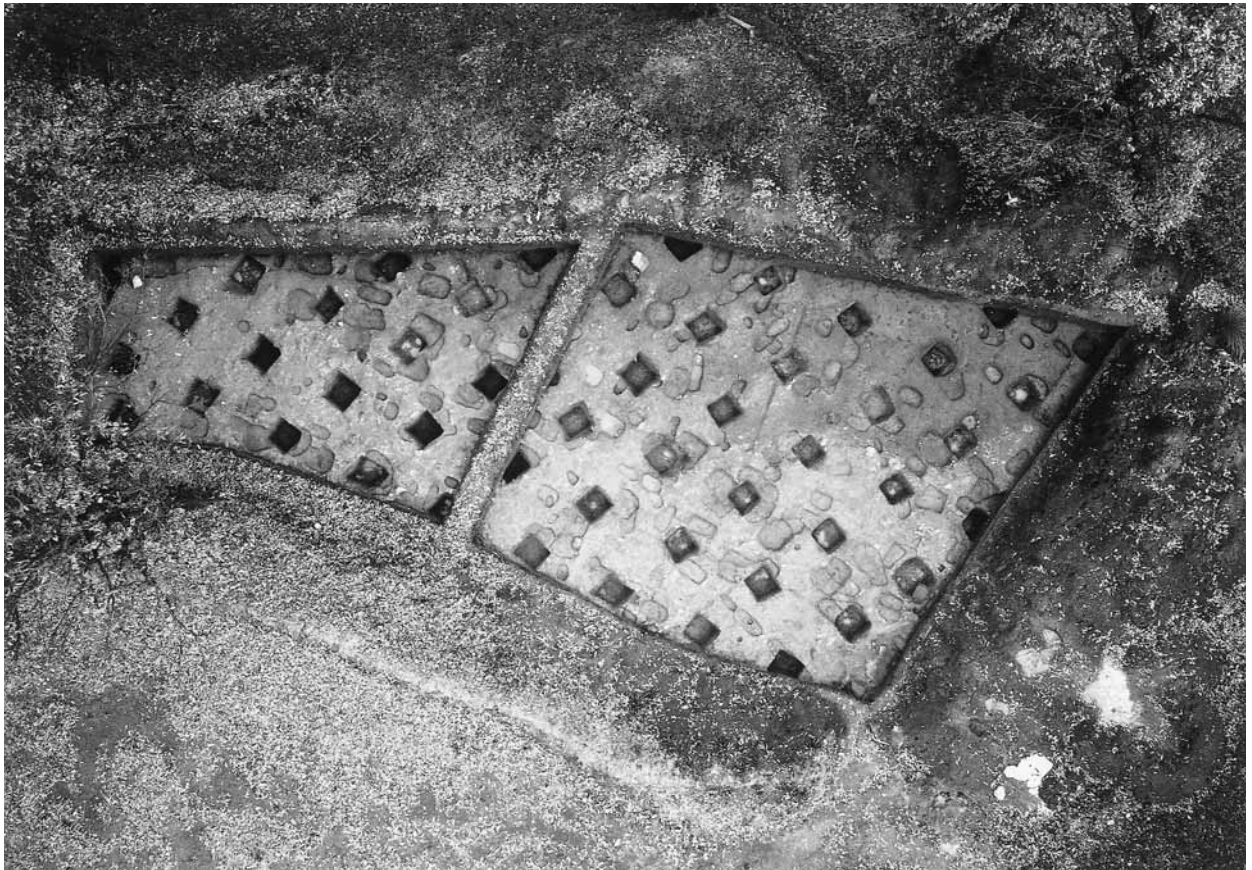
T 2002遺構検出状況
(東より)



20次調査遺構外出土遺物



21次調査三城周辺航空写真（南東より）



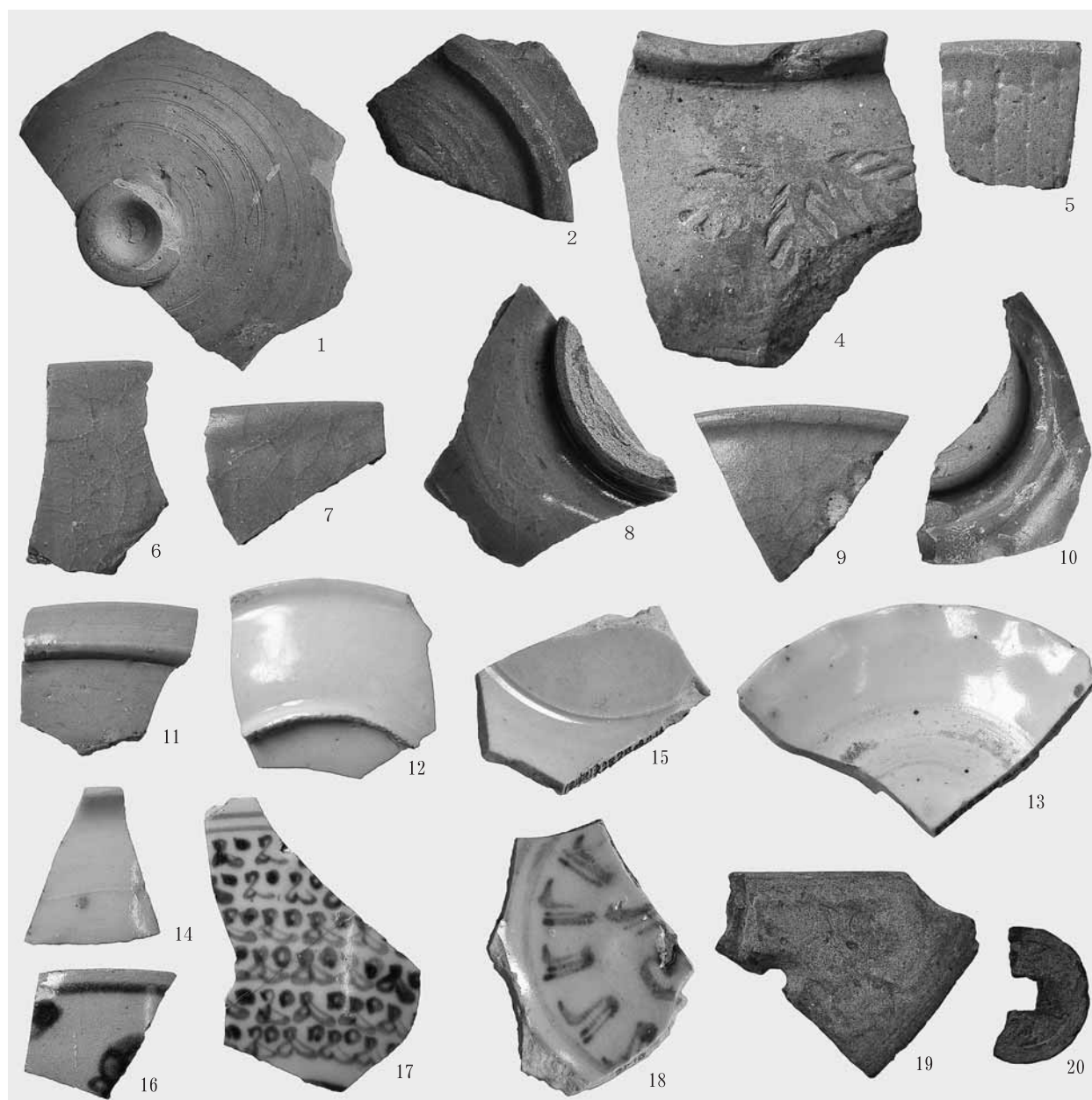
21次調査区航空写真（上が東）



21次調査区遺構検出状況（北より）



21次調査区遺構検出状況（南より）



21次調査遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	うとじょうあと (にしおかだい)							
書名	宇土城跡 (西岡台) XII							
副書名	史跡整備事業に伴う平成17～20年度 (第18～21次) 発掘調査報告書							
シリーズ名	宇土市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ号	第34集							
編著者名	藤本貴仁							
編集機関	宇土市教育委員会							
所在地	〒869-0433 熊本県宇土市新小路町95							
発行年月日	2014年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査 回数	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うとじょうあと 宇土城跡	くまもとけん うと ししんめ まちあざ 熊本県宇土市神馬町字 せんじょうじき・あざさんのじょう 千畳敷・字三城	43211		-千畳敷-	-千畳敷-	18次	77m ²	史跡整備事業に伴う保存目的の発掘調査
						19次	183m ²	
						20次	113m ²	
						21次	264m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			
宇土城跡	中世城	古墳時代 中世	【古墳時代】壕跡 【中世】横堀跡・竪堀跡・道路状遺構・掘立柱建物跡		【中世】土師質土器・瓦質土器・中国製陶磁器 (白磁・青磁・染付など) ・石塔 (五輪塔など)			
特記事項								
<p>【18次調査】千畳敷東側帯曲輪付近において、宇土城跡で唯一の竪堀と横堀の機能をあわせもつ堀跡SD03を検出。また、千畳敷南側で千畳敷を圍繞する横堀跡SD02の一部を検出、土師質土器の坏が大量に出土。その他、宇土城跡が築城される以前、千畳敷部分に存在した首長居館を圍繞する壕跡SD01 (古墳時代前期) を千畳敷東側帯曲輪で検出。</p> <p>【19次調査】三城へと延びる道路状遺構SF03 (1次調査SX01) を検出。また、1次調査で検出した溝跡SD07を千畳敷東側帯曲輪の広範囲で検出。地形とは無関係に延びることが判明した。三城に通じる道路状遺構を削平していることや、1次調査で17世紀代の遺物が出土していることなどから、城郭として機能していた中世段階の遺構とは認定し難いとの知見が得られた。</p> <p>【20次調査】2次調査で検出し、柵または塀と想定したSA870501周辺の調査を実施。散在的に広がる柱穴とみられるピットを検出したが、調査区内において掘立柱建物跡や柵列跡などは未確認。</p> <p>【21次調査】千畳敷東側帯曲輪で掘立柱建物跡を12棟検出。うち1棟は東庇が付く掘立柱南北棟建物跡。重複関係より、VII時期にわたる建物跡の存在を確認。三城周囲の帯曲輪において最も遺構密度が高い場所であることが判明。</p>								

宇土城跡（西岡台）XII

－ 史跡整備事業に伴う平成17～20年度(第18～21次)発掘調査報告書 －
宇土市埋蔵文化財調査報告書 第34集

発行年月日 2014年3月28日

編集・発行 熊本県宇土市教育委員会
〒869-0433 宇土市新小路町95
TEL 0964-22-6500(代) FAX 0964-58-1005

印 刷 社会福祉法人 熊本県コロニー協会
コロニー印刷
〒860-0051 熊本市西区二本木3丁目12-37
TEL 096-353-1291(代) FAX 096-353-1294

The Report of The Research
of Burial Cultural Properties
Uto City Vol.34

Ruins of Uto Castle (Nishiokadai) XII

2014

Kumamoto Prefecture Uto City
Board of Education